

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3100001A1	生活環境学原論	中山 徹	生活環境学部	後期 月曜日 1・2時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	生活環境学は、人とそれを取巻く自然や社会環境で生起する現象とその諸課題を取り扱う学問である。人間生活に関する基礎から応用にいたる人文・社会・自然の諸科学が文理融合した学際的学問であり、さまざまな生活環境問題と課題を「人間生活及び生活者の視点」から科学的にとらえるという点にその特徴がある。本講義では、生活環境学の理解を深めるために、生活に関わるいくつかのテーマを設定し解説する。
3100002A2	育児学	山本 展明	非常勤講師	前期 金曜日 1・2時限 E 2 6 1	講義	2回生以上(平成29年度以前入学者)	2時間	2単位	子どもの発育・発達の特徴、家庭における看護実践、親の役割や子育て支援など乳幼児期の保育について関係発達論の視点を踏まえつつ、論ずる。
3100004A1	家庭機械・家庭電気・情報処理	谷口 義昭	非常勤講師	後期 月曜日 9・10時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	科学技術の発展とともに、私たちは多くの機器に囲まれて、便利な生活を送っている。しかし、機器はますます複雑になり、適切な対応が難しくなっている。本講義では、家庭生活で機器の利用に必要な電気および機械に関する基礎知識、安全で合理的な機器の活用のしかた、コンピュータによる情報活用の光と影等を解説する。
3100006A1	食物科学概論	井上 裕康,前田 純夫,高村 仁知,中田 理恵子,小倉 裕範,菊崎 泰枝	生活環境学部	前期 月曜日 1・2時限 S 2 3 5 大講義室	講義	1回生以上(平成29年度以前入学者)	2時間	2単位	食物に含まれる栄養成分、嗜好成分、その他の機能性成分について解説するとともに、消化吸収や加工・調理に関する問題について講述する。また、微生物の利用、安全性、流通、法規制、表示等の問題についても概説する。
3100009D1	調理学実習 (E)	和田 珠子	非常勤講師	前期 水曜日 3・4時限 D 2 1 8	実習	1回生以上(食物栄養学科以外・平成29年度以前入学者)	3時間	1単位	調理過程における食品の物理的・化学的変化について解説し、実習を通して様々な調理操作の科学的根拠を理解させる。また、中学・高等学校家庭科教員として必要な実践的知識と基本的調理技術を育成する。
3100010D1	応用調理学実習 (E)	和田 珠子	非常勤講師	後期 木曜日 7・8時限,後期 木曜日 9時限	実習	1回生以上(食物栄養学科以外・平成29年度以前入学者)	3時間	1単位	食文化に関する様々な場面に対応できるよう各国料理の特色を学ぶ。行事食などの製作を通して、献立からテーブルコーディネートに至る過程において必要な要素を理解し、調理技術を身につける。
3100011A1	衣環境学概論	原田 雅史,安川 涼子	生活環境学部	後期 金曜日 3・4時限	講義	1回生以上(平成29年度以前入学者)	2時間	2単位	健康で快適な衣環境を創出するために必要な基本的内容を講述する。被服素材として用いられている繊維、糸、布、衣服への一連の流れ、衣服の色彩、染色について解説する。また、衣類の機能性保持の留意点、衣類の家庭での洗濯、ドライクリーニング、リサイクル技術や被服管理全般について解説する。
3210005D1	被服学実習 I (A)	中村 順子	非常勤講師	前期 木曜日 1・2時限 D 3 1 9	実習	1回生以上(令和3年度以前入学者)	2時間	1単位	健康で快適な衣生活を過ごすために必要な能力を養い、衣生活への理解を深める。また、教職に必要な基礎的な被服学実験・実習の方法を学ぶ。材料学分野では繊維・糸・布の種類と性能、ならびにそれらが衣服の機能性に与える要因について理解する。管理学分野では衣服の性能保持・向上のための手入れについて学ぶ。染色学分野では代表的な技法を利用し、染色方法について学ぶ。衛生学分野では衣服素材の吸水吸湿性と快適性について知る。意匠学分野では色に関する理論を理解する。
3210006D1	被服学実習 II (A)	稲岡 まみ	非常勤講師	後期 火曜日 5・6時限	実習	1回生以上(令和3年度以前入学者)	2時間	1単位	被服構成の観点から、人が装うことの意味と衣服の機能、およびその衣服はどのように作られ流通するかに言及し、衣服製作実習を通して、この過程のデザイン・設計、製作から着装までの基礎的理論と方法について理解する。特に、人と衣服との関係、着衣基体としての人体形態、体型と衣服デザインの関係、デザインを表現するための素材、デザインからパターンメイキング、縫製へ、そして着装時の衣服の適合性・ゆとり、機能性、審美性について講義する。これによって消費者の立場から、それぞれの人に応じて、生理的にも心理的にも快適で美しい衣服とはどのようなものかを見極める基礎的知識と能力を習得させる。
3100020A1	ジェンダー文化論	林田 敏子	生活環境学部	前期 金曜日 5・6時限 N 1 0 1	講義	2回生以上(生活文化学科以外・平成30年度以前入学者)	2時間	2単位	「母親は愛情をもって子どもを育てるもの」、「男は戦争になれば国や家族を守るために戦うもの」。こうした考えは自然なことでも当たり前のことでもなく、歴史上つくりあげられてきた一つの価値観に過ぎない。本講義では男らしさ(男はこうあらねばならない) / 女らしさ(女はこうあらねばならない) というジェンダー規範が歴史上いかに構築されてきたのかを、身体、家族、戦争という三つの切り口から考える。
3100021A2	家族関係論	澤田 佳世	生活環境学部	前期 水曜日 3・4時限 N 1 0 1	講義	2回生以上(生活文化学科以外・平成29年度以前入学者)	2時間	2単位	本講義の主要テーマは家族と社会である。少子高齢化やグローバル化がすすむ現代社会で、家族の形態や機能、家族関係、家族をめぐる制度や家族をとりまく社会はどのように変化しているのか。本講義では、家族社会学の基本的な概念と理論、分析枠組みを学び、家族の変動と現状、家族と社会をめぐるさまざまな研究テーマについて実証的・理論的に検討する。国内外の統計・調査データや各種資料に基づいて、家族現象の背景にある歴史・構造的要因に関する認識を深め、多様化する家族とその現代的課題および新たな可能性を、ジェンダー・社会階層・エスニシティといった観点から考察することも目指す。 授業中は、アクティブ・ラーニングの手法をとり入れ、グループ・ディスカッションや演習課題などを通じて理解を深める。本授業の内容に関連し、応用・補完可能な専門的知識を得るため、映像視聴やゲスト講師を招くこともある。
3100022A2	生活経営学	尾島 恭子	非常勤講師	前期集中 その他 その他 その他	講義	2回生以上(生活文化学科以外・平成29年度以前入学者)	集中30時間	2単位	本講義では、生活経営学の概念や国内外の家政学の動向を理解し、それらの視点から、「生活」「生活の営み」「生活の主体者」「生活の質」とは何かや生活経営をめぐる課題について考察する。家庭科教員免許取得希望者は、家庭科教育に求められている本質的な役割について考えるための視点を学ぶ。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3100023A1	住環境学概論	中山 徹,藤平 眞紀子,吉田 伸治,山本 直彦,根本 哲夫	生活環境学部	前期 木曜日 7・8時限 N101	講義	1回生以上(令和3年度以前入学者)	2時間	2単位	住環境学に関して、住まいの役割、住まいの変遷、住居計画、住まいの環境、住まいの安全と維持管理、環境共生住宅など住居と住生活を取り巻く環境に関する基礎的知識を習得し、設計演習により住居設計に関する能力を高めると共に、これからの住居・住まい方を包含した住環境のあり方について考究する。
3100024A1	心身健康学概論 I	石坂 友司,成瀬 九美,藤原 素子,星野 聡子,吉本 光佐,原田 雅史,高浪 景子,鍵本 明里	生活環境学部	前期 月曜日 3・4時限 N101	講義	1回生以上	2時間	2単位	健康な生活を営むために、健康の捉え方、健康に関連する国の施策、運動、食事や健康行動について講義する。また、予防医学的視点から生活習慣病や介護予防、高齢化社会における加齢と体力、運動の意義等について、現状と課題を踏まえて講義する。
3100025A1	心身健康学概論 II	伊藤 美奈子,岡本 英生,黒川 嘉子,梅垣 佑介,加藤 奈奈子,時岡 良太,鷹股 亮,横山 ちひろ,浅野 友之	生活環境学部	前期 木曜日 3・4時限 S235 大講義室	講義	1回生以上(平成26~29年度入学者)	2時間	2単位	この授業では、心理学全般についてその概論を論じる。授業で取り扱う内容は、心理学の成り立ち、および人の心の仕組みや働きに関する基礎的な領域から応用的な領域まで幅広い。応用領域については、特に臨床心理学のエッセンスに触れることに主眼を置いている。人の心の基本的な仕組み及び働き、そして問題などについての基礎知識を学ぶとともに、心について科学的に捉える方法論や、心の問題に適切に対処するための方法論の基礎を講義する。
3100026A1	心身健康学概論 II (心理学概論)	伊藤 美奈子,岡本 英生,黒川 嘉子,梅垣 佑介,加藤 奈奈子,時岡 良太,鷹股 亮,横山 ちひろ,浅野 友之	生活環境学部	前期 木曜日 3・4時限 S235 大講義室	講義	1回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	この授業では、心理学全般についてその概論を論じる。授業で取り扱う内容は、心理学の成り立ち、および人の心の仕組みや働きに関する基礎的な領域から応用的な領域まで幅広い。応用領域については、特に臨床心理学のエッセンスに触れることに主眼を置いている。人の心の基本的な仕組み及び働き、そして問題などについての基礎知識を学ぶとともに、心について科学的に捉える方法論や、心の問題に適切に対処するための方法論の基礎を講義する。
3210001A1	食物科学概論	井上 裕康,菊崎 泰枝,高村 仁知,中田 理恵子,前田 純夫,小倉 裕範	生活環境学部	前期 月曜日 1・2時限 S235 大講義室	講義	1回生以上/(令和3年度以前入学生対象)	2時間	2単位	食物に含まれる栄養成分、嗜好成分、その他の機能性成分について解説するとともに、消化吸収や加工・調理に関する問題について講述する。また、微生物の利用、安全性、流通、法規制、表示等の問題についても概説する。
3210002D1	調理学実習 (D)	久保 加織	非常勤講師	前期 金曜日 7・8時限 D218,前期 金曜日 9時限 D218	実習	1回生以上(食物栄養学科)	3時間	1単位	和・洋・中の三様式の食事を題材とした調理実習を通して、食品の調理性に関する実践的知識と基本的調理操作に関する基礎的能力を育成する。また、実践を通じて食の様々な場面において必要な基本的マナーと、安全面・衛生面に関する正しい理解と認識を深める。さらに、実習献立における栄養価および調味料濃度の計算を通じ、栄養価や調味に関する基礎的事項を修得させる。
3210003D1	応用調理学実習 (D)	久保 加織	非常勤講師	後期 月曜日 7・8時限,後期 月曜日 9時限	実習	1回生以上(食物栄養学科)	3時間	1単位	献立作成および実習を通して、より深い知識と高度な技術に基づいた献立作成から食材の準備・調理までを計画・実践できる能力を養う。さらに、食文化を背景にした献立構成や食事マナーについて実践の場を経験することにより体得する。
3210004A1	衣環境学概論	原田 雅史,安川 涼子	生活環境学部	後期 金曜日 3・4時限	講義	1回生以上(令和3年度以前入学生対象)	2時間	2単位	健康で快適な衣環境を創出するために必要な基本的内容を講述する。被服素材として用いられている繊維、糸、布、衣服への一連の流れ、衣服の色彩、染色について解説する。また、衣類の機能性保持の留意点、衣類の家庭での洗濯、ドライクリーニング、リサイクル技術や被服管理全般について解説する。
3211001A1	環境と健康	高地 リベカ,佐伯 圭吾,宮本 恵宏,富岡 公子	生活環境学部	集中 その他 その他	講義	1回生以上(食物栄養学科)	集中30時間	2単位	衛生学・環境医学・健康科学の基本的な知識及び方法論について講義する。3名の学外講師による講義である。
3211002A2	公衆衛生学	高地 リベカ	生活環境学部	前期 火曜日 7・8時限 D120	講義	2回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	健康・疾病に関する保健統計の意義、公衆衛生の基礎科学としての疫学概念と具体的な方法論、疫学の理論に基づく健康情報収集と吟味の方法、活用の仕方、生活習慣病の疫学と対策について講義する。
3211003A1	生活福祉論	高地 リベカ,松田 寛,外山 健二	生活環境学部	後期集中 その他	講義	1回生以上(食物栄養学科)	集中15時間	1単位	福祉 (Welfare) とは、「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味する。公衆衛生の観点から、社会生活において健康にゆたかに生きるために講じられている、わが国における保健・医療・福祉の制度と現状を講義する。さらに、保健対策の国際動向についても論じるとともに、福祉制度の需要の高い認知症を含む精神疾患の現状と対策について概説する。身体的な健康をまもるうえで組織的な取り組みが特に重要となる感染症対策についても講義する。
3211004A1	食糧経済学	長谷川 路子	非常勤講師	後期集中 その他	講義	1回生以上(食物栄養学科)	集中15時間	1単位	食糧経済とは、生産、加工、流通、消費など、食糧に関するさまざまな経済現象を指し、給食経営管理にも関連する。本授業では、太平洋戦争後から今日までの日本の食生活の変化や昨今の世界の食糧事情などを踏まえつつ、食糧の生産から加工、流通、消費、廃棄に至るまでの流れに沿って、各過程の経済的仕組みや動向を解説する。食物や栄養について社会経済学的観点から教授する。

【生活環境学部】

2023年度 開講科目概要

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3211005A1	医学概論	小倉 裕範	生活環境学部	後期 木曜日 3・4時限	講義	1回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	人体の解剖学と生理学（解剖生理学）を系統的に講義する。1 回生前期の「基礎生物学演習」とあわせて、管理栄養士として必要な基礎的事項を網羅する。
3211006A2	病態内科学	松田 寛	生活環境学部	後期 火曜日 5・6時限	講義	2回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	日本人に比較的多く見られる病気を挙げて系統別に病気が発症するおおよそのメカニズムや病気毎の症候の特徴を概説する。あわせて、遺伝や免疫といった人体の恒常性を維持するのに不可欠な要素についても病気との関連で理解を深める。
3211007A3	分子病態学	竹中 優	非常勤講師	後期 金曜日 9・10時限	講義	3回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	種々の病気の病態について専門基礎の知識に基づき、講義する。解剖生理・生化学・分子生物学・栄養学の知識は必須である。腎疾患、代謝疾患、内分泌疾患、循環器疾患、消化器疾患、神経疾患、呼吸器疾患などを取り扱う。 それぞれの疾患について 治療のターゲットは何か？ 栄養療法のターゲットは何か？ 現時点についての状況を把握し、将来に備えることを目指す。
3211008A2	微生物学	前田 純夫	生活環境学部	後期 火曜日 7・8時限	講義	2回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	食品製造・衛生・病原性・生命科学・バイオテクノロジー等の理解の基盤にある微生物学の基礎と発展について講義する。主に、微生物細胞の構造と機能・微生物の遺伝学・微生物の生理調節機構・微生物研究/応用技術、等に関して概説する。
3211009A2	細胞生理学	土持 裕胤	非常勤講師	前期 水曜日 9・10時限 D 1 2 0	講義	2回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	生化学に引き続き、生命科学（ライフサイエンス）の基礎として細胞生理学を学ぶ。特に、生化学で学んだ基礎知識を基に、ヒトを対象とした生理学への導入を目的とする。それがさまざまな病態を理解するうえで解剖学と並んで不可欠である。生理学が取り扱う研究対象は非常に膨大であるが、本講義では、その全体を概観し、導入的な役割を持つ。したがって、さらに詳細な点は後のほかの講義で学習してほしい。
3211010A2	生体安全学	小倉 裕範	生活環境学部	後期 火曜日 1・2時限	講義	2回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	薬理学および毒物学の総論を講義する。臨床医学的に重要な事項に加えて、食安全学的に重要な事項も取り上げる。
3211011A1	生化学Ⅰ	井上 裕康.中田 理恵子	生活環境学部	前期 水曜日 3・4時限 D 1 2 0	講義	1回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	生体を構成している分子の構造と機能を学び、生命科学（ライフサイエンス）の基礎を学ぶ。そのためには、まず「細胞」の概念を中心にして、他の領域に広げていく。現在、生命科学の分野では膨大な知識が毎年増え続けており、分子レベルから個体、そして社会まで広がっている。これらの知識は私たち「ヒト」をよく理解するだけでなく、ヒトを含めた地球上の生物のもつ共通性、特殊性を学ぶことである。そのことによって、生命現象のしくみやおもしろさ、美しさを知ることが、今後どのような分野に進むにしても大きく役立つものと考えられる。
3211012A1	生化学Ⅱ	井上 裕康.中田 理恵子	生活環境学部	後期 水曜日 3・4時限	講義	1回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	生化学Ⅰ（総論）に引き続き、生体を構成している分子の構造と機能を学び、生命科学（ライフサイエンス）の基礎を学ぶ。そのためには、まず「細胞」の概念を中心にして、他の領域に広げていく。現在、生命科学の分野では膨大な知識が毎年増え続けており、分子レベルから個体、そして社会まで広がっている。これらの知識は私たち「ヒト」をよく理解するだけでなく、ヒトを含めた地球上の生物のもつ共通性、特殊性を学ぶことである。そのことによって、生命現象のしくみやおもしろさ、美しさを知ることが、今後どのような分野に進むにしても大きく役立つものと考えられる。
3211013C3	病態生理・生化学実験	松田 寛.中田 理恵子	生活環境学部	集中 その他 その他 D 2 2 5	実験	3回生以上(食物栄養学科)	集中90時間	2単位	解剖実習によって、臓器の位置関係を理解するとともに、実験動物の肝臓の細胞の構成成分を調べる。（組織切片標本の組織染色により、顕微鏡的に観察するとともに、細胞分画を行い、細胞内小器官を分離する。）さらに、細胞内小器官に局在する栄養素の代謝に関わる酵素活性を測定し、各細胞画分、小器官の代謝における役割を調べる。また、種々の条件（絶食、糖尿病、肝障害など）のモデル動物を用いて、生体成分や代謝酵素活性の変化を測定し、病態と代謝の相互関係を調べる。また、ラットから単離した骨髄細胞を破骨細胞へ分化させる過程で細胞培養の基礎を学ぶ。また、ラットの肝組織切片を染色し、組織学的な病態の評価方法を知る。さらに、自身の体を用いて、様々な体位や運動による血圧変化を観察し、血圧を上昇させにくい運動処方を考える。扱う疾患としては、骨疾患（骨粗鬆症）、肝疾患（NASH）および高血圧である。
3211014C3	生体安全学実験	小倉 裕範	生活環境学部	集中 その他 その他 D 2 2 5	実験	3回生以上(食物栄養学科)	集中90時間	2単位	食品衛生学、毒物学、免疫学に関わる評価技術を学習する。
3211015A1	食品化学総論	菊崎 泰枝	生活環境学部	後期 月曜日 3・4時限	講義	1回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	食品には各種栄養素をはじめ、おいしさに関わる色、味、香り成分や様々な生理機能をもつ物質が含まれている。食品を構成するこれらの複雑な化学物質の構造、物理化学的性質、化学反応性、機能性について、有機化学の知識を基礎として体系的に講義する。あわせて、食品の保存、加工、調理過程で発生する食品成分の化学的変化や成分間の相互作用についても論ずる。
3211016A2	食品化学各論	高村 仁知	生活環境学部	前期 木曜日 5・6時限 D 1 2 0	講義	2回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	各種食品の性質、および調理・加工・保蔵過程で起こる食品の品質変化について、食品の種類ごとに講述する。
3211017A2	調理科学	高村 仁知	生活環境学部	後期 水曜日 3・4時限	講義	2回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	食生活における調理の意義を考えることを念頭に置いて、食材（食品）の調理過程における品質変換のメカニズムおよび調理と食嗜好の関係について、サイエンスを基盤にして講述する。
3211018A2	食品微生物学	前田 純夫	生活環境学部	前期 木曜日 7・8時限 D 1 2 0	講義	2回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	食品製造・衛生の理解の基盤にある微生物学の基礎と応用を講義する。主に、微生物の分類・生育・培養・制御・代謝・発酵食品と発酵生産・食品製造に関わる微生物各論・微生物とバイオテクノロジー、等に関して概説する。
3211019A2	食品衛生学	前田 純夫	生活環境学部	後期 木曜日 5・6時限	講義	2回生以上(食物栄養学科)	2時間	2単位	食品衛生に関する生物学的側面を中心に概説する。微生物学的要因による食中毒とその防止、各種バイオアッセイ、食リスク論、などに言及する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時 限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3211020D3	食品加工学実習	高村 仁知	生活環境学部	集中 その他 その 他 その他	実習	3回生以上	集中45時間	1単位	食品加工技術の発達によって様々な加工食品が製造・販売されている。これらの食品がどのような原料で、どのような製造工程で生産されているか、また、原料の性質や製造工程で起こる原料成分の物理・化学的変化と製品の品質との関係を理解するために、代表的な加工食品の製造実習および食品加工製造工場等の見学を行う。
3211021C3	食品化学実験	井上 裕康.高村 仁知	生活環境学部	集中 その他 その 他 D 2 2 5	実験	3回生以上(食物 栄養学科)	集中90時間	2単位	食品の特性、品質を客観的に評価する上で重要となる食品成分の化学分析（高村担当）及び機能解析（井上担当）、さらに食品成分の化学変化・酵素反応の解析のための基礎技術等を習得する。また、実験データの解析法、統計処理、レポート作成などについても習得を図る。
3211022C3	食品微生物学実 験	小倉 裕範.前田 純夫	生活環境学部	集中 その他 その 他 D 2 2 5	実験	3回生以上(食物 栄養学科)	集中90時間	2単位	本実験では食品微生物学に関わる技術を実習する。
3211023A2	栄養生化学	中田 理恵子	生活環境学部	前期 木曜日 3・ 4時限 D 1 2 0	講義	2回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	生体は摂取した食物（栄養素）を、生存のためのエネルギーへ変換し、その生体構成成分を合成する事によって、生命を維持している。本講義では、生命を維持し、あらゆる活動のために必要とされている栄養素が、①どのように摂取吸収され、生命の基本単位である細胞内に取り込まれるか。②細胞内でどのように分解、変換、合成され（代謝）、機能するのかについて、糖質、脂質、タンパク質について講義する。
3211024C2	基礎栄養学実験	松田 寛.中田 理恵子	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	実験	2回生以上(食物 栄養学科)	集中90時間	2単位	血液は血漿と呼ばれる液体成分中に種々の細胞（血球）が浮遊している組織であり、体内でガス、栄養素、代謝産物、細胞、ホルモンを運ぶための媒介として機能している。また、生体に多数存在するタンパク質は、それぞれ固有の機能を有している。本実験では、①血液成分とその機能に関する実験 ②タンパク質の分離・精製 ③酵素反応に関する基礎実験 を行う。
3211025A2	応用栄養生理学	小倉 裕範	生活環境学部	前期 水曜日 3・ 4時限 D 0 1 2	講義	2回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	前半は1回生後期の医学概論の続きとして、解剖生理学分野の講義を行う。後半は、病理学および病態生理学の総論を講義する。管理栄養士として疾患を理解するために必要な事項を取り上げる。
3211026A2	応用栄養学Ⅰ	中田 理恵子	生活環境学部	後期 木曜日 3・ 4時限	講義	2回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	栄養生化学に引き続いて、微量栄養素であるビタミン、ミネラルの栄養について講義し、さらに栄養状態の評価・判定の基本的な考え方を修得するために、栄養アセスメント・栄養マネジメントの基礎、食事摂取基準の基本概念と科学的根拠について講義する。
3211027A3	応用栄養学Ⅱ	中田 理恵子	生活環境学部	前期 水曜日 1・ 2時限 D 1 2 0	講義	3回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	個人の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の実際を、乳児期から高齢期の各ライフステージ別に講義する。さらに、環境の変化に対する生理的応答と栄養ケアのあり方について講義する。
3211028D3	応用栄養学実習	中田 理恵子	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	実習	3回生以上(食物 栄養学科)	集中45時間	1単位	ライフステージならびにライフスタイルに適した栄養管理の実際について、栄養計画、食事計画、調理実習を組み合わせ実習を行う。
3211029A2	栄養教育論Ⅰ	稲井 玲子	生活環境学部	前期 水曜日 7・ 8時限 D 0 1 2	講義	2回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	食生活の変化に伴う課題や食の倫理を通して、栄養教育の必要性と管理栄養士の社会的役割について理解し、栄養教育を実践するための基礎的知識と技術を修得することを目的とする。本講では、「食」とは何か、望ましい食のあり方、食事内容の把握・提示方法について考察し、管理栄養士/栄養士と栄養教育や食育の必要性と意義について論じる。また、食行動・行動変容の理解と対処に必要な行動科学理論と栄養カウンセリングについての理解を深め、栄養教育・実践栄養学への展開を図る。
3211030A2	栄養教育論Ⅱ	稲井 玲子	生活環境学部	後期 水曜日 7・ 8時限	講義	2回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	栄養状態と心身状況や環境に応じた栄養教育を実施するための栄養カウンセリングと栄養マネジメントサイクルに必要な基礎知識と技術の習得を図る。対象の目的に応じた栄養教育のためのアセスメントを行い、的確に目標を設定し、その目標を達成する栄養計画を立案、実施をして評価、その評価結果をフィードバックする一連の流れについて理解を深め、栄養教育への展開を図る。
3211031A3	栄養教育論Ⅲ	稲井 玲子	生活環境学部	前期 水曜日 5・ 6時限 D 0 1 2	講義	3回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	栄養教育の実践に必要なライフステージ別（妊娠期、授乳期、幼児期、学童期、思春期・青年期、壮年期、中年期、高齢期）における心身の状況、ライフスタイルや食生活の課題を整理し、ライフステージ別栄養教育の特徴を明らかにする。また、栄養教育論実習と連動させることにより、マネジメントサイクルや行動科学理論を応用したライフステージ別栄養カウンセリングや集団教育のスキルアップを図る。
3211032D3	栄養教育論実習	稲井 玲子	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	実習	3回生以上(食物 栄養学科)	集中45時間	1単位	ライフステージ・ライフスタイルの特徴と課題に応じた栄養教育をマネジメントサイクルに則って実践するための知識と方法、技能の修得を目的に、グループ単位で実習を行う。発達段階別の事例に応じてカウンセリング計画を立て、栄養カウンセリングの基本的技法を用いたロールプレイの実施と観察、討議を行う。発達段階別栄養教育の特徴を明らかにして理解を深め、優先課題を設定して栄養教育の対象者(あるいは集団)を決め、教育計画を立案、模擬授業を実施、評価する、一連の流れを実習し修得する。
3211033A3	臨床栄養学総論	松田 寛	生活環境学部	前期 火曜日 3・ 4時限 D 1 2 0	講義	3回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	医療・医学における栄養学の果たす役割を概説する。栄養アセスメントに必要な検査の基本知識についても学習する。学生にテーマを与え、プレゼンによる参加型の講義で進行させる。
3211034A3	臨床栄養学Ⅰ	外山 健二	生活環境学部	前期 火曜日 1・ 2時限 D 1 2 0	講義	3回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	臨床栄養学の意義、栄養補給法など、臨床における栄養管理に必要な基礎的な事項について解説する。栄養管理が治療にとって重要な意義を有する各種の疾患を取り上げ、傷病者の病態や栄養代謝の特徴をまず概説する。その上で、各疾患患者に対する栄養治療法と栄養食事計画について詳しく講義する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時 限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3211035A3	臨床栄養学Ⅱ	今井 佐恵子	非常勤講師	前期 水曜日 3・ 4時限 E109	講義	3回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	臨床栄養学Ⅰに引き続いて、栄養管理が治療にとって重要な意義をもつ各種の疾患を取り上げる。各疾患の病態や栄養代謝の特徴について概説し、その上で各疾患患者に対する栄養療法、栄養食事計画について講義する。
3211036A3	臨床栄養学Ⅲ	外山 健二	生活環境学部	後期 木曜日 3・ 4時限	講義	3回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	傷病者の病態や栄養代謝の特徴に基づいて適切な栄養管理が行える力を養うために、各種疾患症例を取り上げ、栄養アセスメントから栄養管理計画の作成にいたる過程を討論を交えながら講義する。
3211037D3	臨床栄養学実習	外山 健二	生活環境学部	集中 その他 その 他 その他	実習	3回生以上(食物 栄養学科)	集中90時間	2単位	各種病態に適した栄養管理計画の作成と食事計画が実施できる力を培うため、治療食献立・展開食献立の作成や治療食調理実習を行う。また、栄養状態の評価・判定、栄養ケア計画、食事療法、経腸栄養法、臨床経過のモニタリング・再評価の方法について実際の症例をもとにグループディスカッションを行い、問題解決能力を培う。
3211038A2	公衆栄養学Ⅰ	高地 リハカ	生活環境学部	前期 水曜日 5・ 6時限 D120	講義	2回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	我が国の健康・栄養問題の変遷、現状、課題と、疾病予防を目指す栄養政策について講義する。これらについてプレゼンを行い授業に参画する。保健・栄養活動の計画策定の根拠として、あるいは保健・栄養活動を科学的に評価する方法としての栄養疫学の方法について講義する。また、栄養疫学（結果の信頼性の吟味）における曝露評価法としての食事調査の方法について講義する。
3211039A2	公衆栄養学Ⅱ	高地 リハカ	生活環境学部	後期 水曜日 5・ 6時限	講義	2回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	1. 国の健康・栄養政策や地方の健康増進計画の策定、健康・栄養教育等の栄養関連サービスを提供するための公衆栄養プログラムの策定の方法について講義する。①現状の把握（ニーズアセスメント）（既存資料の活用方法、社会調査法等）②優先順位の決め方 ③目標値の設定 ④対策の実施と社会資源の活用 ⑤モニタリング ⑥評価等 2. 公衆栄養マネジメントに必要な情報収集について演習を交えて講義する。実習と連動させて展開する。
3211040D2	公衆栄養学実習	高地 リハカ	生活環境学部	集中 その他 別記 その他	実習	2回生以上(食物 栄養学科)	集中45時間	1単位	様々な健康・栄養状態の者に適切な栄養関連サービスを提供するプログラムを作成・実施・評価できる総合的なマネジメントに必要な理論と方法を説明する。さらに、栄養状態のアセスメントに必要な技術として、公衆栄養分野で利用される食事調査方法のうち食事記録法、食事思い出し法、食物摂取頻度調査法について、実施の理論と方法を解説する。
3211041A3	給食経営管理学Ⅰ	菊崎 泰枝	生活環境学部	前期 木曜日 5・ 6時限 E261	講義	3回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	給食経営管理は、各給食施設における対象（喫食）者に対して健康の維持・増進、心身の健全な成長および疾病予防と治療を促すための食事の提供を目的とする重要な業務である。給食経営管理学Ⅰでは、給食経営に必要な要素であるマーケティング、組織、人事・労務管理、財務管理および施設・設備管理、危機管理など、経済面、安全面に焦点をあてて論ずる。さらに各特定給食施設の運営・経営管理についても解説する。
3211042A3	給食経営管理学Ⅱ	菊崎 泰枝	生活環境学部	前期 木曜日 7・ 8時限 E261	講義	3回生以上(食物 栄養学科)	2時間	2単位	給食経営管理学Ⅱでは、給食経営に必要な要素である栄養・食事管理、食材料管理、生産管理、衛生管理、作業管理、事務管理、栄養教育について論じ、それらの理論を、給食（1回100食程度）を実際に作成する実習（給食経営管理学実習）の実施計画に結びつけて解説する。
3211043D3	給食経営管理学 実習	菊崎 泰枝	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	実習	3回生以上(食物 栄養学科)	集中45時間	1単位	給食の管理運営の方法と技術を修得させるために、少人数のグループに分けて、学内の給食施設において実習を行う。給食経営管理の理論と関連科目（栄養学、食品学、衛生学、調理学等）で学んだ知識を統合、活用して、食事計画、食材料管理、大量調理の方法、調理作業の計画と実際、衛生管理、事務管理などの実務を体得できるよう指導する。
3211044B4	栄養学総合演習	全教員	生活環境学部	集中 その他 その 他 その他	演習	4回生(食物栄養 学科)	集中30時間	2単位	管理栄養士に必要なとされている知識を演習によって総合的に定着させる。
3211046D3	臨床栄養学臨地 実習Ⅰ	外山 健二	生活環境学部	後期集中 その他 その他	実習	3回生以上(食物 栄養学科・平成 30年度以降入 学者)	集中90時間	2単位	実習委託病院において連続した2週間の実習を行う。 ①臨床における栄養管理とNST（Nutrition Support Team）活動や栄養指導の実際などについてあらかじめ学習課題を指導し、病院管理栄養士との連携・指導のもとに実習を実施する。 ②病院給食実務については栄養管理の一環として実習する。
3211047D3	臨床栄養学臨地 実習Ⅱ	外山 健二	生活環境学部	後期集中 その他 その他	実習	3回生以上(食物 栄養学科・平成 30年度以降入 学者)	集中90時間	1単位	実習委託病院において連続した1週間の実習を行う。 ①臨床における栄養管理とNST（Nutrition Support Team）活動や栄養指導の実際などについてあらかじめ学習課題を指導し、病院管理栄養士との連携・指導のもとに実習を実施する。 ②病院給食実務については栄養管理の一環として実習する。
3211048D3	公衆栄養学臨地 実習	高地 リハカ	生活環境学部	集中 その他 その 他 その他	実習	3回生以上(食物 栄養学科)	集中45時間	1単位	保健所および市町村保健センターの業務および行政栄養士の業務、他職種との連携について実際の事業に参画することによって実習する。保健所においては、政策立案・遂行や関係機関との調整等における組織マネジメントのスキルと、実際の取り組みを体験する。市町村保健センターにおいては、管理栄養士の役割と業務および、地域における栄養改善事業の企画・評価に栄養・食生活の専門家としての参画の方法を、それらの事業の体験によって学習する。講義で修得した様々な知識を統合し公衆栄養マネジメントに活用できるように事前・事後学習をサポートする。
3211049D3	給食経営管理学 臨地実習	菊崎 泰枝	生活環境学部	集中 その他 その 他 その他	実習	3回生以上(食物 栄養学科)	集中45時間	1単位	管理栄養士業務は、従来の「献立・食品・栄養成分といったモノ中心」から、「実際に生活し、人間の自立した食生活や健康を維持するための栄養ケアを支援する」というヒトを中心とした業務への転換が図られてきた。臨地実習は、その実践能力を身につけるための重要な役割をする学習の場である。学内で修得した知識や技術を基礎として、学外の特定給食施設（学校等）において、担当管理栄養士の指導のもとに、給食の運営方法や管理業務等を体得させる。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3211050A1	有機化学Ⅰ	菊崎 泰枝	生活環境学部	前期 月曜日 3・4時限 D120	講義	1回生以上	2時間	2単位	生命科学、物質科学の基礎として、物質の構造、反応性に関する学問を体系的に論ずる。有機化学の基礎となる有機化合物を構築する炭素原子の化学、結合、共鳴について講義する。つづいて有機化合物の基本骨格である脂肪族、芳香族化合物の反応や立体化学を解説し、さらに各種官能基を有する有機化合物（アルコール、フェノール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸およびカルボン酸誘導体、アミン等）の構造と化学反応性について論ずる。
3211051B1	基礎化学演習	高村 仁知	生活環境学部	前期 火曜日 3・4時限 D012	演習	1回生以上	2時間	2単位	食物栄養学を学ぶ上で重要となる化学について、原子・イオン・分子の構造、化学結合、モル、化学反応、官能基などについて、演習を通じて学ぶ。
3211052B1	基礎生物学演習	小倉 裕範	生活環境学部	前期 木曜日 3・4時限 D012	演習	1回生以上	2時間	2単位	人体の解剖学と生理学を系統的に講義する。1回生後期の「医学概論」とあわせて、管理栄養士として必要な基礎的事項を網羅する。
3211055A1	食品加工学	高村 仁知	生活環境学部	前期 火曜日 5・6時限 D120	講義	1回生以上	2時間	2単位	食品加工の意義を述べ、食品加工法の基本原理および農産・畜産・水産物の加工方法の実例と加工工程における品質変換について講述する。また、伝統的な加工食品および新加工食品の実例と機能を紹介する。さらに、加工食品の流通システムにおける品質管理・包装形態・規格と表示制度・シールライフについても概説する。
3211057A2	基礎栄養学特別講義Ⅱ	未定	非常勤講師	集中 その他 その他	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	栄養学およびその関連分野について、非常勤講師による特別講義を行う。
3211058A3	食物栄養学研究法	全教員	生活環境学部	後期 月曜日 1・2時限	講義	3回生以上	2時間	2単位	食物栄養学の研究について、各教員から実際に研究室で行っている最先端の研究について説明を受ける。研究室配属の参考にしてもらいたい。
3211059A2	栄養教諭論	並河 信太郎	非常勤講師	前期集中 その他 その他 D119	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	近年の子どもたちの食を取り巻く環境の変化に伴い、生活習慣病など食に起因する健康課題が指摘されている。そして、子どもたちが望ましい食習慣と自己管理能力を身に付けられるよう学校教育における食に関する指導の充実がはかられている。栄養教諭は食に関する指導の中核を担う教育職員である。本科目では、学校教育における食に関する指導の重要性、子どもの食の現状と課題、学校給食の役割、栄養教諭の全体像及び職務の実際を中心に講義する。
3211060A2	食に関する指導論	並河 信太郎	非常勤講師	後期集中 その他 その他	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	学校教育における食は食に関する指導として実施されている。食に関する指導は学習指導要領において、給食の時間、関連教科、道徳、特別活動など全教育活動を通じて行うことと示されている。本科目では、学校給食を「生きた教材」として関連教科、特別活動、総合的な学習の時間などにおける食に関する指導の内容・進め方を講義する。さらに、実践演習で、指導案の作成、模擬授業を通して、実践的指導力を養う。
3211061F4	卒業研究Ⅰ	全教員	生活環境学部	前期 その他 その他	複合	4回生(食物栄養学科)		6単位	食物栄養学科の各研究室に所属し、指導教員の指導の下、食物栄養学に関する研究を行う。
3211062F4	卒業研究Ⅱ	全教員	生活環境学部	後期 その他 その他	複合	4回生(食物栄養学科)		6単位	食物栄養学科の各研究室に所属し、指導教員の指導の下、食物栄養学に関する研究を行い、卒業論文を執筆する。
3240004A2	家族関係論	澤田 佳世	生活環境学部	前期 水曜日 3・4時限 N101	講義	2回生以上(令和3年度以前入学者)	2時間	2単位	本講義の主要テーマは家族と社会である。少子高齢化やグローバル化がすすむ現代社会で、家族の形態や機能、家族関係、家族をめぐる制度や家族をとりまく社会はどのように変化しているのか。本講義では、家族社会学の基本的な概念と理論、分析枠組みを学び、家族の変動と現状、家族と社会をめぐるさまざまな研究テーマについて実証的・理論的に検討する。国内外の統計・調査データや各種資料に基づいて、家族現象の背景にある歴史・構造的要因に関する認識を深め、多様化する家族とその現代的課題および新たな可能性を、ジェンダー・社会階層・エスニシティといった観点から考察することも目指す。 授業中は、アクティブ・ラーニングの手法をとりいれ、グループ・ディスカッションや演習課題などを通じて理解を深める。本授業の内容に関連し、応用・補完可能な専門的知識を得るため、映像視聴やゲスト講師を招くこともある。
3240005A2	生活経営学	尾島 恭子	非常勤講師	前期集中 その他 その他	講義	2回生以上(生活文化学科以外・令和3年度以前入学者)	集中30時間	2単位	本講義では、生活経営学の概念や国内外の家政学の動向を理解し、それらの視点から、「生活」「生活の営み」「生活の主体者」「生活の質」とは何かや生活経営をめぐる課題について考察する。家庭科教員免許取得希望者は、家庭科教育に求められている本質的な役割について考えるための視点を学ぶ。
3240006A1	住環境学概論	中山 徹・根本 哲夫・藤平 真紀子・山本 直彦・吉田 伸治	生活環境学部	前期 木曜日 7・8時限 N101	講義	1回生以上	2時間	2単位	住環境学に関して、住まいの役割、住まいの変遷、住居計画、住まいの環境、住まいの安全と維持管理、環境共生住宅など住居と住生活を取り巻く環境に関する基礎的知識を習得し、設計演習により住居設計に関する能力を高めると共に、これからの住居・住まい方を包含した住環境のあり方について考究する。
3241002A1	住生活学	室崎 千重	生活環境学部	前期 火曜日 7・8時限 D012	講義	1回生以上	2時間	2単位	日本の住様式の種々相と、その問題点を論述し、住居計画・設計の基盤となる考え方を講義する。現代日本住居の発展過程において、その基本的な流れである「近代化」と「洋式化」に着目し、現代住居における日本独自の住様式の成り立ちと、今後の発展方向を論じるとともに、住様式からみた住居デザインの要点を講ずる。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時間・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3241003A1	建築・住居史	坂井 禎介	生活環境学部	後期 金曜日 3・4時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	日本の建築・住宅は、各時代の材料、技術、社会などによってさまざまな形態をとってきた。西洋は「石」を建築材料としたため面状のマツブな形態となるが、日本は「木」を建築材料の主体としたため、線状の軽快な建築形式をとる。 日本の建築技術は、中国建築をコピーする形で伝来したものの、日本の職人たちの中で独自の発展を遂げ、日本の独自の建築美意識は全世界から注目されている。また、奈良時代は新興宗教であった仏教をもとにした国造りをすすめるために、東大寺という巨大建築を作り、その巨大さによって民衆を納得させようとする歴史的な社会状況があった。 この講義では建築の形態だけでなく、以上のような建築の形態の奥に透けて見える、様々な歴史的背景を学ぶ。それにより、聴講者が、建築の形態の奥にある歴史的な背景まで透かして見ることができるとを目標とする。授業内容に関する各自の感想や疑問を問うことで対話的な授業にする。
3241004A2	建築・住宅論	坂井 禎介	生活環境学部	前期 木曜日 1・2時限 E 2 6 1	講義	2回生以上	2時間	2単位	世界の建築・住宅はそれぞれの地域における気候風土、材料、技術、社会などによってさまざまな形態をとるが、その基本には地域固有の世界観と歴史性が影響している。この講義では、こうした建築の地域的形態を規定する背景について、主に西洋の歴史的都市における建築・住宅を対象にして説明する。授業内容に関する各自の感想や疑問を問うことで対話的な授業にする。
3241005D3	測量学実習	坂井 禎介	生活環境学部	前期 金曜日 5・6時限 E 1 0 9 前期 金曜日 7・8時限 E 1 0 9	実習	3回生以上(令和3年度以前入学者)	4時間	2単位	「測る」作業は、町づくり・家づくりのさまざまな段階であらわれてくる。計画にあたっては、敷地形状の計量的把握が第1番目の作業であり、施工段階では設計図面に示された位置同定が必要である。この講義では、住環境計画に必要な測量の知識を講述する。とくに実践的に役立つような簡略な測量方法ならびに建物の実測調査の方法についても講述し、実習をおこなう。
3241006A2	建築環境学	吉田 伸治	生活環境学部	後期 月曜日 5・6時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	気候変動等の昨今の環境問題を踏まえた快適な居住環境を創り出すための工夫について、環境工学の手法を用いて探求する。主に、熱環境、空気環境、湿気環境の計画に関して、各々の要素の基礎的事項を講義し、断熱計画、換気計画について計算演習を含めて具体的手法を講義する。
3241007D3	建築環境学実習	吉田 伸治	生活環境学部	後期集中 その他 その他	実習	3回生以上	集中30時間	1単位	実測を通じて屋外や室内の環境の実態を把握し、各基準値による環境評価方法について理解を深めるため、建築環境学および建築設備学Ⅰ・Ⅱで学習した熱環境・空気環境の各環境要素について、数値解析技術を活用した環境評価・分析手法を教授する。
3241008E2	建築設備学Ⅰ	許 載永	生活環境学部	前期 水曜日 3・4時限 E 2 6 1	複合	2回生以上	2時間	2単位	生活に必要な安全性・快適性に関する情報は人間の感覚により得られる。人間の情報取得に関わる環境要因の内、「視覚」と「聴覚」が約8割を占めており、本授業では主として視覚・聴覚的な側面から建築設備の要件の基礎知識について学習する。
3241009E2	建築設備学Ⅱ	許 載永	生活環境学部	後期 水曜日 1・2時限	複合	2回生以上	2時間	2単位	建築設備学Ⅰに続き、(1) 昼光に関する理論的な知識や計算方法について学ぶ。なお、それらの知識に基づき、照明設計方法について学習する。(2) 色の基本的な理論および色彩が人間の心理に及ぼす影響について学ぶ。なお、それらの知識に基づき、色彩設計方法について学習する。(3) 屋外や室内における音・振動環境の制御について学ぶ。なお、それらの知識に基づき、音響設計方法について学習する。
3241010D3	建築設備学実習	許 載永	生活環境学部	後期集中 その他 その他	実習	3回生以上	集中30時間	1単位	建築設備学Ⅰ・Ⅱおよび住環境工学実習で学習した内容について、具体的事例の実測および主観評価実験を実施する。環境条件が人に及ぼす影響を実践的に理解し、定性的な評価手法、物理量の測定方法、統計分析方法について学習する。
3241011A1	空間デザイン学	加藤 亜矢子	生活環境学部	後期 木曜日 9・10時限	講義	1回生以上(令和2年度以降入学者)	2時間	2単位	建築デザインに関する基礎知識を習得する。 都市、建築を成り立たせている思想、理論を示す。 それらの知識を設計の実践に活かす方法を提示する。
3241012A2	住居デザイン学	加藤 亜矢子	生活環境学部	前期 木曜日 3・4時限 E 1 0 8	講義	2回生以上(令和2年度以降入学者)	2時間	2単位	建築・住居の設計のための基礎知識と考え方の習得を目的とする。 建築設計の実例を通して、その実践について学ぶ。 建築・住居を構成する物理的部分や概念、歴史について論じる。
3241013A1	建築材料学	藤平 眞紀子	生活環境学部	後期 月曜日 3・4時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	建築物を構成している主な材料の基本的な性質について概説する。主として、木材、鋼材、コンクリートについて、種類や基本的な物性、力学的な性質および耐久性について説明する。また、部位別に建築材料に求められる性能について説明し、適材適所な使い方について考察する。
3241015A2	住居管理学	藤平 眞紀子	生活環境学部	前期 水曜日 1・2時限 E 1 0 8	講義	2回生以上	2時間	2単位	住居管理について、住まいの劣化、住まいの維持管理、住まいの保証制度などの面から説明し、住まいの耐久性向上について考察する。また、住居管理の意義を明らかにし、現代社会において求められている住居管理のあり方について、建設廃棄物や建設リサイクルの現状も含めて説明する。
3241016A3	住居管理学(応用編)	藤平 眞紀子	生活環境学部	前期 水曜日 3・4時限 E 1 0 8	講義	3回生以上	2時間	2単位	生活スタイルや住宅工法・材料などとともに変化してきた住居管理の変遷および住宅の耐久性と住居管理のかかわりを概説する。現在社会における住居管理の意義を説明し、自助、共助、公助による住居管理のあり方および住宅の社会的管理のあり方を考察していく。
3241017D2	住居管理学実習Ⅰ	藤平 眞紀子	生活環境学部	後期集中 その他 その他	実習	2回生以上	集中30時間	1単位	住宅・建築部材の劣化や内装壁材の汚染について、観察や測定を通じて、その実態を把握し、評価方法および原因について理解を深める。そして、劣化の進行をおさえる維持管理の方法について考察する。
3241018D3	住居管理学実習Ⅱ	藤平 眞紀子	生活環境学部	後期集中 その他 その他	実習	3回生以上	集中30時間	1単位	住まいの内外で発生する住宅部材の劣化について、観察および測定を通じて、その原因を明らかにし、劣化を受けにくくする方法や劣化要因の除去法などを考察する。また、住まいの管理を通じて住宅の耐久性を高め、快適な生活環境を整える手法について解説する。
3241019A1	建築計画学	山本 直彦	生活環境学部	後期 水曜日 3・4時限	講義	1回生以上(令和2年度以降入学者)	2時間	2単位	建築物を計画し成立させる背景には、建物周辺の地理的環境・構築環境(built environment)・社会的環境、建物自体の物理的な性能、人間のアクティビティなどさまざまな要因が関係する。建築学・住居学を学ぶ初学者が手始めとして、こうした要因を総合的に理解した上で、その計画や設計を行うための基本的な考え方について多様な事例紹介とともに講義を行う。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3241021A3	生活空間解析学 I	山本 直彦	生活環境学部	前期 金曜日 3・4時限 D120	講義	3回生以上(平成30年度以前入学者)	2時間	2単位	本講義では、まず、建築計画学の諸領域のうち、環境行動と呼ばれる分野について概説する。次いで人間・行動・知覚・社会関係など空間の関係を規定する要因について講述する。現代の行動科学の成果と伝統的な社会に実現されてきた生活空間の両者を見ながら、人間の周囲を取り巻く環境デザインを支える視点について考える。これによって、時代・社会、風土・生活・文化などの違いを踏まえながら、人間にとって空間や住まいの普遍性と多様性とは何であるか学ぶ。
3241023A3	生活空間計画学	山本 直彦	生活環境学部	前期 金曜日 3・4時限 D120	講義	3回生以上(平成31~令和3年度入学者)	2時間	2単位	本講義では、まず、建築計画学の諸領域のうち、環境行動と呼ばれる分野について概説する。次いで人間・行動・知覚・社会関係など空間の関係を規定する要因について講述する。現代の行動科学の成果と伝統的な社会に実現されてきた生活空間の両者を見ながら、人間の周囲を取り巻く環境デザインを支える視点について考える。これによって、時代・社会、風土・生活・文化などの違いを踏まえながら、人間にとって空間や住まいの普遍性と多様性とは何であるか学ぶ。
3241024A3	都市計画学	清水 裕子	生活環境学部	前期 木曜日 3・4時限 E107	講義	3回生以上	2時間	2単位	日本の都市計画制度の概要を、必要に応じて諸外国の都市計画の動向を交えながら解説する。都市計画の最も基本的な項目、土地利用計画、市街地再開発事業、土地区画整理事業、地区計画、居住地の計画、公園計画、交通計画、景観計画などを説明する。また、近代都市計画の重要な理論、田園都市論、近隣住区論等についても説明する。これらを通じて都市計画に関する基礎的な知識を獲得し、それを基にした理論的思考を身につける。
3241025A2	地域居住学	清水 裕子	非常勤講師	後期 月曜日 1・2時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	地域居住学では、まちづくりの視点から、様々な社会問題を考え、対応策を検討する。取り上げる題材は、できる限り現時点で社会的に注目されているものとする。この授業を通じて、まちづくりに関する基礎的な知識を獲得し、それを基にした理論的思考を身につける。
3241026A2	緑地環境計画論	根本 哲夫	生活環境学部	後期 金曜日 5・6時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	グローバルスケールにおける環境問題から、都市におけるソフトな環境基盤の形成、自然環境の保全やレクリエーション空間の確保、地域コミュニティのコア形成、さらには日常生活の中で身近にふれることのできる緑の空間に至るまで、緑地環境に期待されている役割は様々です。この授業では、その中から特に都市と居住地の環境を形成する「緑地」を対象として、計画・設計・運営管理に関わる理論と実践的な手法について講述します。
3241027A3	ランドスケープ・デザイン論	根本 哲夫	生活環境学部	前期 木曜日 1・2時限 E102	講義	3回生以上	2時間	2単位	ランドスケープデザインとは、土地（land）に対する人間の働きかけの結果として立ち現れる知覚像（scape）を、安全で快適、かつ文化的なものとするために行う創造的行為の総称です。前半では、主に欧米の近代以降におけるこの分野の歴史的展開過程を講述する中で、主要な作家と作品、さらにはその社会的背景について講義します。後半では、近代という時代状況を反映するいくつかのキーワードによって、様々な思想やデザイン理論を横断的に検討していくことで、ランドスケープアーキテクチャの考え方・技術・職能像を学ぶことを狙いとしています。
3241028A3	福祉住環境学	室崎 千重	生活環境学部	前期 火曜日 3・4時限 E107	講義	3回生以上(平成31年以前、令和3年度以降入学者)、2回生以上(令和2年度入学者)	2時間	2単位	社会の高齢化の急速な進行により、高齢者や障害者のための住環境整備は、現在の大きな課題である。授業では、高齢者および障害者の視点から、住まい、地域、施設にいたる住環境整備の重要性や、理論的背景、具体的な手法等について、体系的に講義する。福祉住環境コーディネーター検定試験の受験者にとっても、基礎講座的な意味をもつ。
3241029D1	住環境造形実習	根本 哲夫、山本直彦、加藤 亜矢子、吉田 伸治、坂井 禎介	生活環境学部	後期 木曜日 1・2時限、後期 木曜日 3・4時限	実習	1回生以上	4時間	2単位	2回生からの設計演習に先立つ、基礎的な造形能力と表現技術習得のための実習。平面・断面デザイン、立体デザインによって造形力、また建築の模型制作や建築設計図の模写によって表現技術を養う課題を通して、設計製図の知識・技術の理解と習得を図る。これらの過程を通して世界の優れた造形芸術作品を知る。
3241030B2	設計演習 I	加藤 亜矢子、山本 直彦、殿井 環、吉村 理	生活環境学部	前期 金曜日 5・6時限 E51 2.前期 金曜日 7時限 E512	演習	2回生以上	3時間	2単位	一連の設計演習の初期段階として、基礎的な課題に取り組む。第一課題では、戸建住宅の設計を題材に、基礎的な空間設計の方法と表現技術を習得する。第二課題では、小規模なテナントビルの設計を通して、ラーメン構造による空間と、機能の分離・結合など空間構成の技術を習得する。
3241031B2	設計演習 II	根本 哲夫、石井 祥子、加藤 亜矢子、坂井 禎介	生活環境学部	後期 金曜日 7・8時限、後期 金曜日 9時限	演習	2回生以上	3時間	3単位	設計演習の中期段階として、屋外環境および集合住宅の設計に取り組む。第一課題では、市街化区域と市街化調整区域の境界線に面して建つ戸建住宅地のあり方について検討・設計し、第二課題では、公園緑地や都市広場等の公共オープンスペースと付随する小規模な建築施設の設計をする。
3241032B3	設計演習 III	加藤 亜矢子、大八木 裕道、室崎 千重、中山 徹、木内 菜津子	生活環境学部	前期 木曜日 5・6時限 E51 7.前期 木曜日 7時限 E517	演習	3回生以上	3時間	3単位	設計演習の中期段階として、人々の社会生活の諸相を題材に、建築をプログラムから考察し空間計画へと展開してゆく技術を習得する。第一課題では、既成市街地に建つ50戸程度の中高層集合住宅を対象として、都市街区のありかたおよび集住体のメカニズムを勘案しつつ構造的な合理性を含めて具体的な空間像を提案する手法について学ぶ。第二課題では、幼稚園の提案を行う。
3241033B3	設計演習 IV	根本 哲夫、水野 史規、山本 直彦、室崎 千重	生活環境学部	後期 木曜日 5・6時限、後期 木曜日 7時限	演習	3回生以上	3時間	3単位	地域と都市の公共性の高い建築施設の設計を通して、私たちをとりまく環境と各施設との関係に考察を加えながら、中規模の建築に対する情報調整能力、空間構想力、造形技術を習得する。第一課題では、過去のニュータウンを対象とし、地域の再生の具体的な構想、設計を行う。第二課題では、高齢者のための福祉施設を対象として、福祉の概念およびその具体的な空間化の手法について学ぶ。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時 限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3241034B4	設計演習Ⅴ	加藤 亜矢子・根 本 哲夫	生活環境学部	前期 金曜日 2 時限 E 4 6 6. 前期 金曜日 3・ 4時限 E 4 6 6	演習	4回生	3時間	3単位	この演習では一連の設計演習の最終段階として、より高い創造性の獲得に向けて、インテリアから建築、ランドスケープまでの総合的な空間のイメージについて学習し、実現のための設計技術を習得する。
3241035A1	建築一般構造学	角田 功太郎	生活環境学部	前期 木曜日 1・ 2時限 E 1 0 8	講義	1回生以上	2時間	2単位	本授業では、建築物・住宅の形態や空間構成について、合理的で安全な構造計画・構造設計を考える上で必要な建築構造に関する基本的事項について講義する。具体的には、力学的性質によって特徴付けられる種々の建築構造形式の分類について概説を行うとともに、代表的な建築構造である鉄筋コンクリート構造、木質構造、鋼構造について、それらの原理と特徴、構造設計法の概要を説明する。
3241036E3	建築構造力学・材 料力学演習	角田 功太郎	生活環境学部	前期 火曜日 5・ 6時限 E 2 6 1.前期 火曜日 7・8時限 E 2 6 1	複合	3回生以上	4時間	4単位	本授業では、建築物の受ける荷重の力学的作用や建築構造材料の特質や力学的性質を理解するために、構造材料実験に基づきながら構造解析の基礎について講義する。具体的には、構造解析の基本要件（力の釣合い条件、安定・不安定）、骨組モデルの構造解析（トラス、静定梁、ラーメン、座屈、振動）、材料力学（応力とひずみ、断面の性質）、不静定構造の弾性解析（部材の弾性変形、不静定梁の解法）について解説する。
3241038A2	木造建築構造学	藤井 義久 他	非常勤講師	後期後半 水曜日 5・6時限、後期 後半 水曜日 7・ 8時限	講義	2回生以上	集中15時間	1単位	本授業では、木造建築物の構造力学的・構造材料的特徴について講義し、木造建築物の合理的な構造計画、構造設計の考え方について説明する。具体的には、実際の木造建築物の事例を通して、木造建築物の構造設計に必要な基礎的事項と耐震設計の考え方を概説するとともに、木造建築物の耐震性を決める構造要素などについて理解を深める。さらに、実際の構造設計実務については、その設計法等に関する事例を紹介する。
3241039D3	建築構造学実習	角田 功太郎	生活環境学部	後期集中 その他 その他	実習	3回生以上	集中30時間	1単位	本授業では、建築物の振動理論と構造設計について理解するために、振動計測、骨組モデルの解析原理、構造計算の手順について講義する。具体的には、実際の建物を対象に、常時微動計測、限界耐力計算、構造解析ソフトを用いた振動解析を行い、耐震設計法の考え方などを解説する。
3241040D3	住環境工学実習	吉田 伸治・許 載永	生活環境学部	前期 月曜日 1・ 2時限 E 2 6 1.前期 月曜日 3・4時限 E 2 6 1	実習	3回生以上	4時間	2単位	建築環境学および建築設備学Ⅰ・Ⅱで学習した熱環境・空気環境・音環境・光環境の各環境要素について、環境計測機器を用いた測定方法を実践的に指導する。実測を通じて屋外や室内の環境の実態を把握し、各基準値による環境評価方法について教授する。
3241065A4	不静定構造力学	角田 功太郎	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	講義	4回生以上	集中15時間	1単位	本授業では、建築物の受ける荷重の力学的作用を理解するために、構造解析の基礎である構造力学について講義する。なお、本授業では、特に不静定構造物の解法について主に講義する。具体的には、仮想仕事の原理やカステリアーノの定理を用いた解法、たわみ角方、固定モーメント法、マトリクス変位法を用いた解法について解説する。
3241066B4	不静定構造力学 演習	角田 功太郎	生活環境学部	後期集中 その他 その他 その他	演習	4回生以上	集中15時間	1単位	本授業では、建築物の受ける荷重の力学的作用を理解するために、構造解析の基礎である構造力学について講義する。なお、本授業では、特に不静定構造物の解法について主に講義する。具体的には、仮想仕事の原理やカステリアーノの定理を用いた解法、たわみ角方、固定モーメント法、マトリクス変位法を用いた解法について解説する。
3241067A3	建築振動論	角田 功太郎	生活環境学部	後期集中 その他 その他	講義	3回生以上	集中30時間	2単位	本授業では、建築物の地震時挙動や、動的設計の基となる地震応答解析を理解するために、建築物の振動理論について講義する。具体的には、質点系の構造物の振動について、運動方程式やその解法、また地震応答解析への応用手法などについて解説する。
3241041A3	住環境法規	楊 和華子	非常勤講師	後期 木曜日 3・ 4時限	講義	3回生以上	2時間	1単位	建築基準法、都市計画法、バリアフリー法及び近年に重要度が増してきた「建築物省エネ法」について解説し、将来の一級建築士の受験に備えた基礎知識及び法令の調べ方を習得させる。 ※注：教科書購入必須
3241042A1	住環境学の技術 者倫理	全教員	生活環境学部	後期 月曜日 7・ 8時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	住環境学の技術者にとって必要な倫理を多角的な側面から学ぶ。授業は、住環境学科に所属する全教員が担当する。各教員が、各々の専門分野において、住環境関連分野に携わる技術者にとって必要な倫理を具体的な事例に則して講述する。
3241043A3	建築設備学	吉田 伸治	生活環境学部	前期 月曜日 5・ 6時限 E 2 6 1	講義	3回生以上	2時間	2単位	建築の機能を支え、快適な空間を実現するためのシステムである空気調和設備、給排水設備、衛生設備、換気設備、電気設備および建物の省エネルギー計画の概要を講義する。
3241044A3	インテリアデザイン	近藤 陽子・辻村 久信	非常勤講師	前期 水曜日 5・ 6時限 E 2 6 1	講義	3回生以上	2時間	2単位	インテリアデザインは、空間デザインの中でも、特に人間の身体感覚に近い内部空間（主に住空間）を取り扱う。本講では、具体的事例を通して、その理念や手法を解説するとともに、実践を通して空間計画の基礎となる技術を修得する。
3241045B2	C A D演習	藤平 眞紀子・安 藤 寿孝	生活環境学部	後期集中 その他 その他	演習	2回生以上	集中15時間	1単位	CAD（Computer Aided Design）は、建築、機械、土木、電気等の様々な分野で使われているデザインツールである。演習では、汎用CADソフトウェアのAutoCADを使って、CADの特性を理解するとともに、手書き感覚でCADが操作できる技能を習得することを目的とする。また演習を通して、建築図面や建築のディティールの理解を深める。（注：1回目の授業には必ず出席すること。CADソフトは本学情報処理教育室のAuto-CADを使用する。）

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3241046B3	デジタルデザイン演習	室崎 千重,近藤直人	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	演習	3回生以上	集中15時間	1単位	卒業設計選択者向けの授業として開講する。3次元モデリングソフトとレンダリングソフトの基本的な操作方法を習得し、3次元空間を把握する力とプレゼンテーション力の向上を目指す。建築の3次元表現は、長く模型と手描きパースにより行われてきた。近年では、3次元ソフトの飛躍的な向上により、表現に留まらず、構造・環境シミュレーションとの融合や設計施工の合理化が進んでおり、3次元CAD等を用いた設計は今後の主流になると考えられる。本授業では、まず基本的な操作方法を教授する。
3241047B2	建築施工学	伊藤 維俊	非常勤講師	後期前半 水曜日 5・6時限,後期 前半 水曜日 7・ 8時限	演習	2回生以上	集中30時間	2単位	建築の施工は、設計図書に基づいて、要求される品質の建物を定められた工事予算内で、工期内に効率よく安全に生産する行為である。本講では設計内容を具体的にどのように建築施工に繋げていくのか、請負契約・積算から施工管理に至る施工に関する基礎的な知識を解説する。さらに、地域・社会環境に配慮した建築生産計画の立案、各工事の施工技術、管理技術のあり方について解説し、作業所における活動状況の見学も織り交ぜて講義する。
3241051B1	空間計画のための物理環境科学演習Ⅰ	吉田 伸治,藤平眞紀子,角田 功太郎,許 載永	生活環境学部	後期 火曜日 5・ 6時限,後期 火 曜日 7・8時限, 後期 火曜日 9・ 10時限	演習	1回生以上(平成27年度以前入学者)	集中45時間	3単位	住空間の物理環境解析に必要とされる物理学、数学の基礎的事項の理解を深めるため、住環境計画のための基礎となる物理学および数学を住空間計画事項と結びつけた講義・並びに演習を通して概説する。具体的には、熱・物質平衡問題への微分方程式の活用、住環境内の流れの科学、構造材料の力学、構造解析のための物理数学、感覚量表示のための対数・指数関数、空間の大きさや位置の表示のための幾何学・三角関数、群の代表値の表示のための統計学などである。さらに、住空間の物理環境解析に関わる調査・測定結果のまとめ方について概説する。
3241052B1	空間計画のための物理環境科学演習	吉田 伸治,許 載永,藤平 眞紀子,角田 功太郎	生活環境学部	後期 火曜日 5・ 6時限,後期 火 曜日 7・8時限, 後期 火曜日 9・ 10時限	演習	1回生以上(平成28~令和3年度入学者)	集中45時間	3単位	住空間の物理環境解析に必要とされる物理学、数学の基礎的事項の理解を深めるため、住環境計画のための基礎となる物理学および数学を住空間計画事項と結びつけた講義・並びに演習を通して概説する。具体的には、熱・物質平衡問題への微分方程式の活用、住環境内の流れの科学、構造材料の力学、構造解析のための物理数学、感覚量表示のための対数・指数関数、空間の大きさや位置の表示のための幾何学・三角関数、群の代表値の表示のための統計学などである。さらに、住空間の物理環境解析に関わる調査・測定結果のまとめ方について概説する。
3241052B1	空間計画のための物理環境科学演習	吉田 伸治,角田功太郎,藤平 眞紀子,許 載永	生活環境学部	後期 火曜日 5・ 6時限,後期 火 曜日 7・8時限, 後期 火曜日 9・ 10時限	演習	1回生以上(令和4年度以降入学者)	集中30時間	2単位	住空間の物理環境解析に必要とされる物理学、数学の基礎的事項の理解を深めるため、住環境計画のための基礎となる物理学および数学を住空間計画事項と結びつけた講義・並びに演習を通して概説する。具体的には、熱・物質平衡問題への微分方程式の活用、住環境内の流れの科学、構造材料の力学、構造解析のための物理数学、感覚量表示のための対数・指数関数、空間の大きさや位置の表示のための幾何学・三角関数、群の代表値の表示のための統計学などである。さらに、住空間の物理環境解析に関わる調査・測定結果のまとめ方について概説する。
3241054D3	住環境学学外実習(インターンシップ)	山本 直彦	生活環境学部	集中 その他 その 他 その他	実習	3回生以上(住環境学科・平成27年度以前入学者)	集中60時間	2単位	住環境学を学ぶ学生の卒業後の進路として可能性がある企業、事務所、行政、公益法人などで実際に仕事を体験し、職場の状況、仕事の内容などの体験を対象とした「就業体験インターンシップ」の科目です。
3241055D3	住環境学学外実習Ⅰ(インターンシップ)	山本 直彦	生活環境学部	集中 その他 その 他 その他	実習	3回生以上(住環境学科・平成28年度以降入学者)	集中60時間	2単位	住環境学を学ぶ学生の卒業後の進路として可能性がある企業、事務所、行政、公益法人などで実際に仕事を体験し、職場の状況、仕事の内容などの体験を対象とした「就業体験インターンシップ」の科目です。
3241056D3	住環境学学外実習Ⅱ(インターンシップ)	山本 直彦	生活環境学部	集中 その他 その 他 その他	実習	3回生以上(住環境学科)	集中30時間	1単位	住環境学を学ぶ学生の卒業後の進路として可能性がある企業、事務所、行政、公益法人などで、「就活インターンシップ」に参加します。本科目は、基本的に就職サイト等を通じて行う「就活インターンシップ」への参加に対して単位を付与する科目です。
3241057B3	住環境学学外演習(合宿演習)	根本 哲夫,加藤 亜矢子	生活環境学部	集中 その他 その 他 その他	演習	3回生以上	集中15時間	1単位	都市・建築の現地見学、およびそれらの設計者またはオーナー等によるレクチャーである。 1 泊旅行程度で訪問可能な建築物や歴史的街並みを訪問する。
3241065B1	空間表現演習	根本 哲夫,山本直彦,角田 功太郎,許 載永,室崎千重,山田 雅明,戸田 直美	生活環境学部	前期 月曜日 7・ 8時限 E 2 6 1	演習	1回生以上(令和4年度以降入学生対象)	2時間	2単位	2回生からの設計演習に先立つ、基礎的な造形能力と表現技術習得のための実習。平面・断面デザイン、立体デザインによって造形力、また建築の模型制作や建築設計図の模写によって表現技術を養う課題を通して、設計製図の知識・技術の理解と習得を図る。これらの過程を通して世界の優れた造形芸術作品を知る。
3241066B3	まちづくり演習A	室崎 千重,杉本 容子	生活環境学部	後期集中 その他 その他	演習	3回生以上	集中60時間	2単位	選定した奈良県内の地域の課題・魅力を発見し、住民と共に取り組む地域づくりの手法を実践的に学びます。履修年度ごとに、選定地域のまちづくりの展開状況に応じた内容に取り組みます。地域の現状を読み取り、学生が住民と共同しながら主体的に地域での取り組みを計画し、実践まで行います。授業は学生、地域住民、行政、まちづくりコンサルタント(非常勤講師)が関わって実施するため、多様な立場からのまちづくりを学ぶ機会となります。
3241067B4	まちづくり演習B	山本 直彦	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	演習	4回生以上	集中60時間	2単位	行政(奈良市)、奈良県内を中心とした大学(畿央大、本学、県立大、天理大、同女大、奈良学園大)、住民によるまちづくり団体やNPO法人と連携して、「奈良きたまちインターカレッジコンペティション」に参加し、奈良町のフィールドワークとまちづくりの提案を行います。本年度の取り組み対象地は、本学の位置する「きたまち」です。きたまちに住む人々と直接、交流しながら授業を実施します。
3241060D3	住環境学基礎実習	全教員	生活環境学部	後期集中 その他 その他	実習	3回生以上	集中60時間	2単位	研究室ごとに、それぞれの専門領域の研究テーマに取り組みながら、4学年時の「卒業研究Ⅰ」、「卒業研究Ⅱ」を実施するために必要な特定領域専門基礎能力を身につける。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時間・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3241061F4	卒業研究Ⅰ（論文）	全教員	生活環境学部	前期 その他 その他	複合	4回生(住環境学科)		6単位	卒業研究では、これまでの学習を基礎に、専門的な研究課題に取り組む。前期に担当されている「卒業研究Ⅰ（論文）」では、研究の方向づけを行い、調査・実験・資料収集など研究の準備に取り組む。
3241062F4	卒業研究Ⅰ（設計）	全教員	生活環境学部	前期 その他 その他	複合	4回生(住環境学科)		6単位	卒業設計は、これまでの学習を基礎に、各人が自由にテーマを設定し、設計に取り組む。前期に担当されている「卒業研究Ⅰ（設計）」では、設計のテーマに関する予備的な考察を幅広く行ない、「デザインブック」に取りまとめる。
3241063F4	卒業研究Ⅱ（論文）	全教員	生活環境学部	後期 その他 その他	複合	4回生(住環境学科)		6単位	卒業研究ではこれまでの学習を基礎に、専門的な研究課題に取り組む。前期に担当されている「卒業研究Ⅰ（論文）」をもとに、実際に研究に取り組み、卒業論文を作成する。
3241064F4	卒業研究Ⅱ（設計）	全教員	生活環境学部	後期 その他 その他	複合	4回生(住環境学科)		6単位	卒業設計では、これまでの学習を基礎に、各人が自由にテーマを設定し、設計に取り組む。前期に担当されている「卒業研究Ⅰ（設計）」でまとめた「デザインブック」をもとに、作品に仕上げていく。
3250002A1	食物科学概論	菊崎 泰枝,前田 純夫,高村 仁知,中田 理恵子,井上 裕康,小倉 裕範	生活環境学部	前期 月曜日 1・2時限 S 2 3 5 大講義室	講義	1回生以上	2時間	2単位	食物に含まれる栄養成分、嗜好成分、その他の機能性成分について解説するとともに、消化吸収や加工・調理に関する問題について講述する。また、微生物の利用、安全性、流通、法規制、表示等の問題についても概説する。
3250003D1	調理学実習（E）	和田 珠子	非常勤講師	前期 水曜日 3・4時限 D 2 1 8	実習	1回生以上	3時間	2単位	調理過程における食品の物理的・化学的変化について解説し、実習を通して様々な調理操作の科学的根拠を理解させる。また、中学・高等学校家庭科教員として必要な実践的知識と基本的調理技術を育成する。
3250004D1	応用調理学実習（E）	和田 珠子	非常勤講師	後期 木曜日 7・8時限	実習	1回生以上	3時間	2単位	食文化に関する様々な場面に対応できるよう各国料理の特色を学ぶ。行事食などの製作を通して、献立からテーブルコーディネートに至る過程において必要な要素を理解し、調理技術を身につける。
3251001A2	ソーシャルリサーチ論	依藤 佳世	非常勤講師	前期 水曜日 7・8時限 A棟情報処理教育室	講義	2回生以上	2時間	2単位	社会調査の意義、実施プロセス、分析について簡単な課題・実習を交えて講じていく。まず、各自の問題意識を調査の問いへと変えていくための手続き、適切な調査方法の選択について学ぶ。次に、まず質問紙調査（量的調査）のプロセスを学ぶ。その後、質問紙調査と対比させながら、質的調査のうち、面接法の特徴と諸方法について学ぶ。 なお、グループに分かれての作業時には出席を重視する。また、授業時間外の作業もグループメンバー同士での協力を求める。
3251003D2	社会統計学	祐野 恵	非常勤講師	前期 月曜日 5・6時限 D 1 2 0	講義	2回生以上	2時間	2単位	本講義では、統計学の基礎的な考え方とフリーソフト（gretl）を用いた分析について解説します。統計学は科学的な推論の有効な手段であり、ビッグデータが活用される現代社会において不可欠な知識となっています。学問の分野を問わず、必要となる統計学の基礎的内容を理解できるよう、その理論と身の回りの現象を例に解説します。また、実際に社会課題を分析する際に有用となるフリーソフトを用いた演習を行います。
3251064A2	ジェンダー理論	林田 敏子	生活環境学部	後期 金曜日 5・6時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	ジェンダー論を学ぶ上で必要な諸理論を、歴史学および社会学の成果を踏まえて体系的に整理する。第二次世界大戦後から現代にいたるまでの代表的なフェミニズム思想およびジェンダー理論を幅広く取り上げ、その概要を示すとともに、複数の論点を提示する。授業では、セクシュアリティをテーマに据えることで性二元論からの脱却を目指しつつ、ジェンダーとセクシュアリティをめぐる複数の論争に着目しながら、近代以降の「性の解放」によって生じた新たな問題について考察する。
3251005A2	ジェンダー文化論	林田 敏子	生活環境学部	前期 金曜日 5・6時限 N 1 0 1	講義	2回生以上(生活文化学科・令和3年度以降入学者)	2時間	2単位	「母親は愛情をもって子どもを育てるもの」、「男は戦争になれば国や家族を守るために戦うもの」。こうした考えは自然なことでも当たり前なことでもなく、歴史上つくりあげられてきた一つの価値観に過ぎない。本講義では男らしさ（男はこうあらねばならない） / 女らしさ（女はこうあらねばならない）というジェンダー規範が歴史上いかに構築されてきたのかを、身体、家族、戦争という三つの切り口から考える。
3251006B2	ジェンダー文化論演習	林田 敏子	生活環境学部	後期 金曜日 7・8時限	演習	2回生以上	2時間	2単位	生活や文化に関わるトピックを中心に、最新のジェンダー研究に触れ、グループワークによる論点の抽出、文献および史料調査、プレゼンテーション、討論を組み合わせた演習をおこなう。
3251012E2	人間関係文化論	安藤 香織	生活環境学部	後期 火曜日 5・6時限	複合	2回生以上	2時間	2単位	どんな人に魅力を感じるかなど身近な人間関係や、心を伝えるコミュニケーション、身内びいきの仕組み、文化によって異なる人間関係など、身のまわりの問題を社会心理学的アプローチにより学ぶ。「新版暮らしの中の社会心理学」のテキストに沿って授業を行う。授業では異文化交流ゲームなどの教育ゲームやグループ・ディスカッションを用い、学生が積極的に参加する。 注：教科書購入必要
3251013B3	人間関係論演習	安藤 香織	生活環境学部	前期 火曜日 5・6時限 I T コモンズ1	演習	3回生以上(生活文化学科)	2時間	2単位	この授業では、学生が社会心理学の方法論を用いて自分たちで調査または実験を実施する。先行研究の検索から問題の設定、問題にアプローチするための調査方法の決定、調査／実験の実施、分析、発表の準備までを行う。まず前半では論文の講読を通して社会心理学で扱われているテーマ、研究方法について学ぶ。後半では少人数のグループに分かれて自分たちで研究テーマを決め、調査や観察、実験により研究を行う。その結果を基に報告会で発表を行い、レポートを作成する。卒業研究の練習として、半年間で一通り実証的な研究を行う方法を学ぶ。 注：卒業研究で安藤ゼミを希望する人は必ず履修すること。
3251014B3	人間関係文化論外書講読	安藤 香織	生活環境学部	前期 火曜日 3・4時限 E 2 5 1	演習	3回生以上(生活文化学科)	2時間	2単位	人間関係、特に社会心理学に関する基本的な文献に親しむ。英語で文献を読むことに慣れることによって卒論を書くための練習とする。発表を聞き、質問することによってディスカッションの方法、質問する力を身につける。また、英語によるコミュニケーション力を身につけるため、授業の中で簡単なゲームなどを行う。 注：講読の担当を決めるので、受講希望者は第1回目の授業に必ず出席すること。欠席する場合は事前に連絡して下さい。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3251022A2	医療社会文化史	鈴木 則子	生活環境学部	前期 木曜日 7・8時限 D012	講義	2回生以上	2時間	2単位	江戸時代の感染症をはじめとする病を巡る生活史を講義する。江戸時代の代表的な感染症や介護、病の後遺症としての身体障害について取り上げながら、江戸時代に於ける病との共生について考える。
3251023B3	生活文化史演習	鈴木 則子	生活環境学部	前期 木曜日 3・4時限 E218-1	演習	3回生以上	2時間	2単位	江戸時代の女性向け書籍をを輪読し、古文書解読の基礎を学ぶとともに、江戸の女性の日常生活のありさまを理解する。扱う史料は受講生の希望を勘案して決定する。
3251024A2	女性生活史	鈴木 則子	生活環境学部	後期 木曜日 3・4時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	日本女性史について、「江戸時代の女性と医療・身体」をテーマに講義する。受講生は「女性と医療・身体」が現代社会の中でどのように議論されているかを各自、新聞や雑誌、書籍などを通じて予習・復習した上で授業に臨むこと。
3251027A2	家族関係論	澤田 佳世	生活環境学部	前期 水曜日 3・4時限 N101	講義	2回生以上(生活文化学科)	2時間	2単位	本講義の主要テーマは家族と社会である。少子高齢化やグローバル化がすすむ現代社会で、家族の形態や機能、家族関係、家族をめぐる制度や家族をとりまく社会はどのように変化しているのか。本講義では、家族社会学の基本的な概念と理論、分析枠組みを学び、家族の変動と現状、家族と社会をめぐるさまざまな研究テーマについて実証的・理論的に検討する。国内外の統計・調査データや各種資料に基づいて、家族現象の背景にある歴史・構造的要因に関する認識を深め、多様化する家族とその現代的課題および新たな可能性を、ジェンダー・社会階層・エスニシティといった観点から考察することも目指す。 授業中は、アクティブ・ラーニングの手法をとりいれ、グループ・ディスカッションや演習課題などを通じて理解を深める。本授業の内容に関連し、応用・補完可能な専門的知識を得るため、映像視聴やゲスト講師を招くこともある。
3251028B3	家族関係論演習	澤田 佳世	生活環境学部	前期 月曜日 7・8時限 E218-1	演習	3回生以上	2時間	2単位	本演習は、人口と家族、生活文化とその関連事象に関する様々なトピックを社会（科）学的に検討する。文献輪読とディスカッション、社会調査の取組みを通じ、社会現象としての人口と家族の変動、人々の暮らしや人間と社会との関係を、さまざまな角度から実証的・理論的に探究する社会（科）学の方法への実践的理解を深める。 本授業の内容に関連し、応用・補完可能な専門的知識を得るため、映像視聴やゲスト講師を招くこともある。 (注) 受講希望者は備考を参照し、初回授業に必ず参加すること。
3251128A2	人口と家族の社会学	澤田 佳世	生活環境学部	後期 水曜日 1・2時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	本講義の主要テーマは、人口と社会である。社会現象としての人口変動（出生・死亡・移動）とそのメカニズムを理解するために必要な人口学・人口研究の考え方、基礎的な概念や理論を学ぶ。人口に関する様々なトピックをとりあげ、人口と社会との関係を多角的に検討し、人口変動の背景にある歴史・構造的要因に関する認識を深めることも目指す。 授業中は、アクティブ・ラーニングの手法をとりいれ、グループ・ディスカッションや演習課題などを通じて理解を深める。本授業の内容に関連し、応用・補完可能な専門的知識を得るため、映像視聴やゲスト講師を招くこともある。
3251029A1	家族援助法	巽 真理子	非常勤講師	前期 火曜日 1・2時限 E261	講義	1回生以上	2時間	2単位	本講義では、少子高齢社会における家族と家族援助のゆくえを社会学的視点から考察します。現代社会では、少子高齢化や家族のあり方の変化、社会の変容、価値観の多様化の中で、家族をめぐる多様な支援ニーズと社会的課題が生じているといわれます。このような家族の変化と諸課題を、歴史的・国際的に比較しながら、社会変動と関連づけて理解し、社会における家族支援のあり方について考えます。
3251030A2	社会システム論	野田 隆	生活環境学部	前期 水曜日 5・6時限 E218-1	講義	2回生以上	2時間	2単位	社会システムならびに生活システムという考え方の基本を学ぶとともに、ビジネスでも用いられているTOCの考え方を学ぶ。対面を予定しているが、受講登録者が教室の対面定員を超える場合はオンライン授業に変更する。オンラインの場合は、システム・シンキングの発表会をやめ、評価基準欄の「受講者のプレゼン」に代えて、期末テストを用意する。
3251031B3	社会システム論演習	野田 隆	生活環境学部	前期 月曜日 5・6時限 E251	演習	3回生以上	2時間	2単位	アーリの「モビリティーズー移動の社会学」を読む。参加者はまず第一部の3つの章を読んでアーリの提唱するパラダイムを理解した後、続く各章から任意の1章を選択してレポートする形式で実施する。対面でもオンラインでも同じやり方になる。 レポートは、自分の分だけ読むのではなく、全章を読んで後自分の担当章の位置の意味も含めてレポートすることが求められる。
3251032A1	食生活文化論	坂本 裕子	非常勤講師	前期 金曜日 7・8時限 E261	講義	1回生以上	2時間	2単位	日本の近代における食の形成について述べ、食生活の現状を健康の観点から、食卓等のあり方を教育の観点から考察する。そして日本の食文化を構成する食材や料理、調理器具など、また和食の成り立ちについて、それらの変遷や様相を概説する。行事食や儀礼食、郷土料理や保存食などの伝統食について、年間行事や人の一生、地域との関連から論じ、健康な食の伝承について考察していく。
3251034A2	生活経済学	青木 美紗	生活環境学部	後期 水曜日 3・4時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	私たちは日々、物を購入したり、サービスを利用したりして生活を営んでいます。本講義では、物やサービスを提供する営利・非営利組織や公共団体の役割について経済学的視点から学びながら知識を習得し、生活者として物やサービスを利用する視野を広げます。
3251035B3	生活経済学演習	青木 美紗	生活環境学部	前期 水曜日 3・4時限 E251	演習	3回生以上	2時間	2単位	本演習では、グローバル化や市場経済化の中で生活をとりまく社会問題について、その背景、経済主体間の関係、市民生活への影響、地域社会への影響について調べ、ディスカッションを通して、社会課題の見方や課題解決に向けた思考を養います。
3251037A2	食と農の経済学	青木 美紗	生活環境学部	前期 月曜日 7・8時限 N101	講義	2回生以上	2時間	2単位	本講義では、生活に不可欠な「食」をとりまく様々な現状について経済学の観点から考えます。特に、食の生産、流通、消費に焦点を当て、国内外の事例を取り上げながら食と農について知識を習得するとともに、身近な「食」から視野を広げ、考えを深めていきます。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3251038A2	消費者法	大塚 浩	生活環境学部	前期 木曜日 5・6時限 D 0 1 2	講義	2回生以上	2時間	2単位	現代日本の消費者法制に関して十分な知識と理解を得ることを目的とする。日本の法システムに関して基本的な知識を得ることから始め、消費者契約、製品・サービスの安全規制、独占禁止法等市場秩序の維持のための諸制度を順次検討する。さらに、消費者紛争の解決手段としての訴訟や裁判外紛争処理（ADR）の役割に関して検討を加え、消費者庁や消費生活センター、食品安全委員会など行政システムも含めた消費者問題への対処の仕組みの現状と課題について理解する。 上記のテーマを容易に理解できるよう最近のケースを中心に具体的事例を通じて学ぶ。法は縁遠いものだと感じるかもしれないが、最近の食品偽装、悪質商法などの報道をみても、実際にはこの分野の法は私たちの生活に密接にかかわっている。そのことを実感できるように、可能であれば関連機関への外部見学の実施や、ビデオ教材の利用を計画している。
3251039B2	消費者法演習	大塚 浩	生活環境学部	後期 木曜日 5・6時限	演習	2回生以上	2時間	2単位	「消費者法」および「ライフスタイルと法」で学ぶ。消費者法、家族法、労働法、刑事法、環境法、社会保障法など、現代の社会において特に重要な意味を持つ分野に関連して示される社会的課題に取り組むことで、法と社会のかかわりをより深く理解する。PBL、模擬裁判、模擬調停、消費者教育の模擬授業などを実施する。 裁判所の見学等も適宜スケジュール上可能な範囲で企画する予定である。
3251040A2	生活経営学	尾島 恭子	非常勤講師	前期集中 その他 その他 その他	講義	2回生以上(生活文化学科)	集中30時間	2単位	本講義では、生活経営学の概念や国内外の家政学の動向を理解し、それらの視点から、「生活」「生活の営み」「生活の主体者」「生活の質」とは何かや生活経営をめぐる課題について考察する。家庭科教員免許取得希望者は、家庭科教育に求められている本質的な役割について考えるための視点を学ぶ。
3251042A2	ライフスタイルと法	大塚 浩	生活環境学部	後期 木曜日 7・8時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	ライフステージと法とのかかわりについて理解するため、ライフステージの各段階で私たちの生活と密接にかかわるさまざまな法分野を取り上げる。具体的には結婚・離婚・出生・親子・相続・社会保障（年金、介護、生活扶助など）・環境・労働などに関わる法制度がどのようになっているのか、また現状の問題点は何かについて、具体的事例を参照しながら検討する。学習を通じて現代の多様化するライフスタイルに法はどのようにかかわっているのかを理解したい。 さらに、一般に私たちの生活に縁遠いと考えられていた刑事裁判が、刑事司法改革の一環としての裁判員制度の導入により、一転関心を集めるようになったことを踏まえ、刑事司法手続きの概要についても学ぶ。 また、法の実際の働きについてより深く理解するため、ビデオ教材の利用や外部見学の実施も可能な範囲で適宜計画する予定である。
3251043A2	経済原論Ⅰ（ミクロ経済学）	安橋 正人	生活環境学部	前期 金曜日 1・2時限 E 1 0 8	講義	2回生以上	2時間	2単位	本授業では、経済学の初學者向けにミクロ経済学の基礎を講義します。具体的には、グラフと言葉によるロジック（簡単な数学を含む）を最大限活用してミクロ経済学の本質的な理解に迫り、需要と供給、市場均衡、資源配分といった概念を学習します。本授業を通じて、ミクロ経済学が日常生活や社会を理解する上でどのように適用できるかを具体的に学び、現実の経済・社会課題にアプローチするための思考ツールを習得します。
3251044A2	経済原論Ⅱ（マクロ経済学）	安橋 正人	生活環境学部	後期 金曜日 1・2時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	本授業では、経済学の初學者向けにマクロ経済学の基礎を講義します。具体的には、グラフと言葉によるロジック（簡単な数学を含む）を最大限活用してマクロ経済学の本質的な理解に迫り、マクロ経済学の理論や概念（国内総生産、貨幣、インフレーション等）を学習します。本講義を通じて、ニュース等で報道されるマクロ経済的な事象をマクロ経済学の理論で理解する方法を具体的に学び、現実の経済・社会課題にアプローチするための思考ツールを習得します。
3251064A2	企業経済論演習	安橋 正人	生活環境学部	後期 木曜日 7・8時限	演習	2回生以上	2時間	2単位	この演習では、統計学や計量分析の厳密な議論にはあまり立ち入らずに、経済・社会全般の事象をデータに基づいて分析する手法を学習する。データセットの入手・構築、記述統計表やグラフの作成、コンピューターによる統計分析、分析アウトプットのプレゼンテーションという一連のデータ分析の手法を体得することを目的とする。演習中は、講師とインタラクションしながらコンピューター（Excel、R）を使用し、まずは「習うより慣れる」の発想でデータ分析に親しんでいく。
3251046A2	消費経済分析論	川相 典雄	非常勤講師	後期 水曜日 7・8時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	日常生活を取り巻く経済環境は日々変化しており、ニュースや新聞等でも景気、失業率、株価や為替レート、物価や金利の動向など、様々な経済変数の動きが取り上げられている。経済の動きは日常生活と密接に結びついており、私たちの生活に多かれ少なかれ何らかの影響を及ぼす。ここでは、消費だけではなく日常生活と深く関わる様々な経済現象についての理解を深めるため、これらの現象が私たちの日常生活にどのように関係するのかなど、幅広い視野から具体例を取り上げて解説する。
3251047A1	経済政策	伊東 眞一	非常勤講師	前期 木曜日 3・4時限 G 2 0 2	講義	1回生以上	2時間	2単位	経済については、分かっていそうで分からないことだらけではないでしょうか？例えば、今の景気は良いのか悪いのか？金利の引き上げや引下げってそんなに重要なこと？財政赤字は悪いと言われるのになんで政府は赤字を出し続けているの？などなど…。この講義では世の中の経済の動きと日本の経済政策の有り様について、経済理論や戦後の経済史を見つめたりしながら、話を進めていきます。
3251050A2	視覚文化論	山崎 明子	生活環境学部	前期 木曜日 3・4時限 E 2 6 1	講義	2回生以上	2時間	2単位	視覚文化研究は、美術や写真、広告、マンガ、さらにはファッションや玩具などまで含む広い文化を対象としている。それぞれの表象に与えられた文化的意味を理解することは、雑多な視覚文化に囲まれて生きている私たちにとって、大きな課題である。この講義では、私たちの日常を構成する様々な視覚文化と主体的に向き合うための知識と理論について学び、表象分析の基礎的な能力を習得する。
3251052B2	視覚文化論演習	山崎 明子	生活環境学部	後期 木曜日 3・4時限	演習	2回生以上	2時間	2単位	視覚表象は社会の中で生成され、社会の中で消費される。一枚に視覚表象が生まれた社会的背景の中でとらえなおしていくことは、視覚表象の分析の基本的な手法となる。この演習では、生活の中で親しんだ視覚文化をより深く読解するために、具体的な表象分析を行い、一枚の図像をめぐる社会的・文化的背景を検討する。
3251053A2	服飾とジェンダー	山崎 明子	生活環境学部	前期 火曜日 7・8時限 E 1 0 9	講義	2回生以上	2時間	2単位	私たちは衣服を着て生活をしています。何かを着るといことは、単に機能的な意味だけではなく、社会の中で生きるための自己のアイデンティティ（ジェンダー、エスニシティ、クラス）を示しています。また、衣服を作る文化もこれらのアイデンティティに強く規定されています。この授業では、私たちの身近な服飾文化をジェンダーの視点から考えます。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時間・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3251054A2	多文化共生論	テウ・イット・ステパン・スック	非常勤講師	後期 火曜日 3・4時限	講義	2回生以上(平成30年度以前入学者)	2時間	2単位	This humanities based course will focus on multiculturalism and society. A comparative analysis of several legal case studies will be used to examine cultural diversity and our differing attitudes on a variety of important issues. Students will explore the ideas of culture and multiculturalism through an analysis of Japanese and American society, and in particular, a number of subcultures that contribute to the fabric and identity of each nation.
3251063A2	Multicultural Society	テウ・イット・ステパン・スック	非常勤講師	後期 火曜日 3・4時限	講義	2回生以上(平成31年度以降入学者)	2時間	2単位	This humanities based course will focus on multiculturalism and society. A comparative analysis of several legal case studies will be used to examine cultural diversity and our differing attitudes on a variety of important issues. Students will explore the ideas of culture and multiculturalism through an analysis of Japanese and American society, and in particular, a number of subcultures that contribute to the fabric and identity of each nation.
3251055B1	生活文化学の方法	野田 隆	生活環境学部	後期 水曜日 5・6時限	演習	1回生以上	2時間	2単位	科学的説明とは何をすることなのか、最も基礎的な観察帰納というやり方を中心に前半で講義形式で説明したのち、この授業は演習なので、参加者に実際に観察結果から帰納的に結論を導き出してもらう作業をやらせよう。なお、対面授業が可能な場合は観察をグループワークとしてやらせよう。シラバスは対面授業バージョンである。オンライン授業の場合は初回に改めてスケジュールを知らせるが、説明モデルの構成を中心に、演習問題をやらせよう予定である。
3250001A1	生活文化学入門	全教員	生活環境学部	後期 木曜日 1・2時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	この授業では、これからの大学生活に必要な、自学自習、ディスカッション、プレゼンテーションの方法について学ぶ。4年間の大学生活に必要な学習方法を身に付けることを目標とする。また、生活文化学コース各教員の専門を理解し、今後の専門を考える上での参考とする。
3251057B3	生活文化学演習	全教員	生活環境学部	後期集中 その他別記	演習	3回生以上(生活文化学科)	2時間	2単位	生活文化学科のそれぞれの教員の専門分野についての理解を深める。少人数のゼミにより、卒業研究の準備を行う。課題の発見、及びそれへのアプローチの仕方を学ぶ。
3251058B4	生活文化学卒業演習Ⅰ	全教員	生活環境学部	前期 その他 その他	演習	4回生(生活文化学科)	2時間	2単位	学科の各研究室において、指導教員のもとで卒業研究のための演習を行う。卒業論文の執筆のため、ゼミの教員の専門に従って各分野の研究を実施する。
3251059B4	生活文化学卒業演習Ⅱ	全教員	生活環境学部	後期 その他 その他	演習	4回生(生活文化学科)	2時間	2単位	学科の各研究室において、指導教員のもとで卒業研究のための演習を行う。卒業論文の執筆のため、ゼミの教員の専門に従って各分野の研究を実施する。
3251060F4	卒業研究Ⅰ	全教員	生活環境学部	前期 その他 その他	複合	4回生(生活文化学科)		6単位	学科の各研究室において、指導教員のもとで卒業論文を執筆する。
3251061F4	卒業研究Ⅱ	全教員	生活環境学部	後期 その他 その他	複合	4回生(生活文化学科)		6単位	学科の各研究室において、指導教員のもとで卒業論文を執筆する。
3251062D3	インターンシップ実習(生活文化学)	大塚 浩	生活環境学部	集中 その他 その他	複合	3回生以上	集中30時間	1単位	生活文化学コース学生のために行うインターンシップである。企業・行政機関等でのOJTの体験を通して、顧客のニーズに対応したサービス等の構築の方法、グループでの共同作業の方法等を学ぶ。会社や行政の組織が実際にどのように働き、その一員としてどのような行動が求められるのかを体験する得難い機会となろう。 夏季休業期間中に実施する予定。時期の詳細は追って掲示等により通知するが、例年は8月末から9月初旬の2週間(実質10日間)の日程で実施している。受入可能な人数が少数にとどまるので、派遣実習生の決定に際し、書類審査により選抜を行うこともある。なお、実施形態は社会状況に応じて変更する場合がある。 受講登録者全員を対象に、説明会を5-6月に実施する予定である。派遣を検討する者は受講登録を行い、この説明会に出席すること。 詳細は改めて掲示等により通知するので留意されたい。
3220001A1	心身健康学概論Ⅰ	石坂 友司.成瀬 九美.藤原 素子.星野 聡子.吉本 光佐.原田 雅史.高浪 景子.鍵本 明里	生活環境学部	前期 月曜日 3・4時限 N101	講義	1回生以上	2時間	2単位	健康な生活を営むために、健康の捉え方、健康に関連する国の施策、運動、食事や健康行動について講義する。また、予防医学的視点から生活習慣病や介護予防、高齢化社会における加齢と体力、運動の意義等について、現状と課題を踏まえて講義する。
3220002A1	心身健康学概論Ⅱ	伊藤 美奈子.岡本 英生.黒川 嘉子.梅垣 佑介.加藤 奈奈子.時岡 良太.鷹股 亮.横山 ちひろ.浅野 友之	生活環境学部	前期 木曜日 3・4時限 S235 大講義室	講義	1回生以上	2時間	2単位	この授業では、心理学全般についてその概論を論じる。授業で取り扱う内容は、心理学の成り立ち、および人の心の仕組みや働きに関する基礎的な領域から応用的な領域まで幅広い。応用領域については、特に臨床心理学のエッセンスに触れることに主眼を置いている。人の心の基本的な仕組み及び働き、そして問題などについての基礎知識を学ぶとともに、心について科学的に捉える方法論や、心の問題に適切に対処するための方法論の基礎を講義する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3220003A1	心身健康学概論 II (心理学概論)	伊藤 美奈子,岡本 英生,黒川 嘉子,梅垣 佑介,加藤 奈奈子,時岡 良太,鷹股 亮,横山 ちひろ,浅野 友之	生活環境学部	前期 木曜日 3・4時限 S 2 3 5 大講義室	講義	1回生以上	2時間	2単位	この授業では、心理学全般についてその概論を論じる。授業で取り扱う内容は、心理学の成り立ち、および人の心の仕組みや働きに関する基礎的な領域から応用的な領域まで幅広い。応用領域については、特に臨床心理学のエッセンスに触れることに主眼を置いている。人の心の基本的な仕組み及び働き、そして問題などについての基礎知識を学ぶとともに、心について科学的に捉える方法論や、心の問題に適切に対処するための方法論の基礎を講義する。
3220004A1	女性健康論	鷹股 亮	生活環境学部	後期 月曜日 3・4時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	女性の様々な生体機能（身体の働き）は男性とは異なる。女性が一生を通して健康であるためには、女性のライフステージに伴う生体機能調節の変化について知り、健康の維持増のための環境や習慣を創造していく必要がある。本講義では、生体機能の性差におけるホルモンの役割を中心に、性周期、雌性行動、母性行動や育児行動の神経内分泌学的バックグラウンドについても解説する。
3220005A1	生活健康学概論	鷹股 亮,高浪 景子,吉本 光佐,西牧 未央,横山 ちひろ,原田 雅史,鍵本 明里	生活環境学部	後期 火曜日 3・4時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	健康な生活を営むために、衣食住と人の関連について、基礎を講義する。生活に関連する事象とそれぞれの関連性や、日常生活の中にあるターニングポイントになり得る要因など多くの事例を挙げた講義をする。
3220006A2	衛生・公衆衛生学	根岸 裕子	非常勤講師	前期集中 その他 その他 その他	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	人は年齢、居住地、社会生活等によって、さまざまな生活方法がある。これらすべての人々の心身の健康を維持することについて、衛生・公衆衛生学の観点から講義をすすめる。講義内容をふまえて、各自対策について考察し、社会制度、施策に則した健康維持のあり方について検討する。
3220007A2	生活内科学	横山 ちひろ	生活環境学部	前期 火曜日 7・8時限 E 1 0 8	講義	2回生以上(平成29年度以前入学者)	2時間	2単位	生活習慣に深くかかわる主な疾病の病因と病態生理を学ぶ。そのために必要な人体の構造と機能を理解し、生体機能調節機構とその破綻について基礎的な知識を習得する。身近で頻度の高い疾患を取り上げ、それらの発症メカニズムや治療法の開発、医療の実際についても解説する。
3220008A2	生活内科学（人体の構造と機能及び疾病）	横山 ちひろ	生活環境学部	前期 火曜日 7・8時限 E 1 0 8	講義	2回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	生活習慣に深くかかわる主な疾病の病因と病態生理を学ぶ。そのために必要な人体の構造と機能を理解し、生体機能調節機構とその破綻について基礎的な知識を習得する。身近で頻度の高い疾患を取り上げ、それらの発症メカニズムや治療法の開発、医療の実際についても解説する。
3220010A1	人体生理学	鷹股 亮	生活環境学部	前期 水曜日 1・2時限 E 1 0 9	講義	1回生以上	2時間	2単位	生理学は生体機能のメカニズムを自然科学の立場から究明する学問であり、健康科学の基礎となる。生体は環境に各種機能が対応して反応し、内部環境を一定に保つ。これを恒常性（homeostasis）という。この授業では恒常性を維持するためにどのような調節機構が働いているかを講義する。
3220011A1	スポーツ生理学	星野 聡子	生活環境学部	後期 水曜日 1・2時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	運動発現の主体である筋収縮のためには、神経系からの刺激と呼吸循環器系・心臓血管系からの酸素およびエネルギー供給が必要である。本講義では、スポーツ行動時の生理学的仕組みについて生理学や解剖学を基盤として平易に解説する。得られた知識をもとに、人が日常生活や運動する際の、咄嗟の動きや粘り強く持久性のある動き、怪我のない動き、疲れを溜めない動き、さらにウォームアップやクールダウンの働きなど、様々なライフコースにおける人間の動きのあり方を考える。
3220012A2	人体解剖学	辰巳 晃子	非常勤講師	前期 金曜日 1・2時限 D 1 2 0	講義	2回生以上	2時間	2単位	当講義では精巧に創られた人体の構造を正確に理解するために、基礎的な解剖学・発生学の知識を習得することを目的とする。基本的な人体のつくりや臓器の働きやその統合性についての講義に加え、再生医療・遺伝子診断といった近年の科学技術についても概説する。
3220013A2	運動医学論	伊藤 倫之	非常勤講師	前期集中 その他 その他 D 1 1 9	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	運動・スポーツの現場や、日常生活で起こりうる障害や外傷について内科的、外科的一面から臨床医学的側面から解説する。またその治療法や対処方法について、学習および実習する。運動負荷試験のリスクとその対処方法について学習する。早期の的確な応急処置は、生命を救うだけでなく、後遺症も軽減できる。また、生活習慣病や代謝症候群に関する最近のトピックスについて解説する。
3220034A2	脳機能形態学	高浪 景子	生活環境学部	後期 木曜日 3・4時限	講義	2回生以上(令和4年度以降入学者)	2時間	2単位	外部環境への適応や内的環境の恒常性維持のために、私たちの神経系は常に機能している。脳機能形態学では、まず、神経科学の成り立ち、脳の機能局在、神経の種類と情報伝達様式を学び、その後、特殊感覚の伝達様式や機能、高次脳機能や本能行動の神経基盤について学ぶ。日常生活における自分の身体の機能を意識しながら、ディスカッションを行い、講義を進めていく。
3220015A1	スポーツバイオメカニクス	藤原 素子,高德 希	生活環境学部	後期 木曜日 1・2時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	この授業では、体育・スポーツにおけるさまざまな身体運動のしくみ、またその力強さや巧みさのメカニズムを生理学・解剖学・力学などの視点から講義する。
3220016A1	体育・スポーツ事故論	平塚 卓也	生活環境学部	前期 金曜日 5・6時限 D 1 2 0	講義	1回生以上	2時間	2単位	学校及び地域の体育・スポーツ事故実態をふまえ、それにとまなう法的責任及び競技規則の機能と限界について解説する。また、学校体育の事故事例を具体的に検討し、その予防方法などを考察する。
3220018A1	生涯スポーツ論	石坂 友司	生活環境学部	前期 火曜日 3・4時限 E 2 6 1	講義	1回生以上	2時間	2単位	私たちがとりまくスポーツは競技スポーツから生涯スポーツへと広がりもち、現代社会において欠かすことができない存在になっている。本講義ではさまざまなスポーツの誕生と発展の歴史を説明しながら、スポーツが抱える諸問題をその内的特性と外的要因から考察する。
3220019D1	シーズンスポーツ実習・冬	浅野 友之,奥田 睦子	生活環境学部	後期集中 その他 その他	実習	1回生以上	集中30時間	1単位	本実習は、冬期休業期間中に集中授業の形式で実施する。雪山の自然を体験するとともに、危険性や楽しみ方を学習する。実習では少人数のグループに分かれ、スキー技術の向上と滑走理論、指導法、安全確保についての理解を目指す。

【生活環境学部】

2023年度 開講科目概要

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3220021A2	身体表現学	成瀬 九美	生活環境学部	後期 金曜日 1・2時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	舞踊の起源をたどり、各種映像資料をもとに舞踊表現様式の変遷を概観し、時代の中で人が内包する感情や思想をどのように表してきたのかについて解説する。さらに、日常場面にみられる様々な表現行動や身体的コミュニケーションにも関心を向け、人間にとって身体表現が意味するところを共に考える。
3220022B2	生活行動変容論 演習	浅野 友之	生活環境学部	前期 水曜日 3・4時限 N302	演習	2回生以上/(令和3年度以前入学者)	2時間	2単位	人間の行動には様々な心理・社会的背景が存在し、行動を変えていくためにはその行動を規定する要因について理解を深めることがまず重要である。本講義では、体育・スポーツ指導場面と関連づけながら、運動者の動機づけ、パーソナリティ、運動学習、態度、等についての概説を行う。これらの事項から、自身のスポーツ活動やスポーツ指導場面における心理的側面からのアプローチの工夫や問題解決へとつなげていく。
3220035B2	生活行動変容論	浅野 友之	生活環境学部	前期 水曜日 3・4時限 N302	kougi 講義	2回生以上(令和4年度以降入学者)	2時間	2単位	人間の行動には様々な心理・社会的背景が存在し、行動を変えていくためにはその行動を規定する要因について理解を深めることがまず重要である。本講義では、体育・スポーツ指導場面と関連づけながら、運動者の動機づけ、パーソナリティ、運動学習、態度、等についての概説を行う。これらの事項から、自身のスポーツ活動やスポーツ指導場面における心理的側面からのアプローチの工夫や問題解決へとつなげていく。
3220024A2	家族心理学(社会・集団・家族心理学)	加藤 奈奈子	生活環境学部	前期 木曜日 5・6時限 E108	講義	2回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	社会の変化とともに、「家族」のあり方も大きく変化してきている。家族に起こる様々な出来事や問題を、心理学とシステム論の観点から考え、社会的行動である「対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程」「人の態度及び行動」「家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響」に対する理解を深める。家族にまつわる映像作品なども交えながら、家族が発達していくプロセスと、家族の多様なあり方や家族の中で起こりやすい問題やその対応方法について検討する。
3220025A2	犯罪心理学	岡本 英生	生活環境学部	前期 月曜日 1・2時限 N101	講義	2回生以上(平成29年度以前入学者)	2時間	2単位	授業では、犯罪心理学全般についての説明を行うが、①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件について、及び②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援についても取り扱う。 なお、この授業では教員からの説明の一方通行とならないよう、受講者による発表(プレゼンテーション)とディスカッションを行わせる。
3220026A2	司法・犯罪心理学	岡本 英生	生活環境学部	前期 月曜日 1・2時限 N101	講義	2回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	授業では、犯罪心理学全般についての説明を行うが、①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件について、及び②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援についても取り扱う。 なお、この授業では教員からの説明の一方通行とならないよう、受講者による発表(プレゼンテーション)とディスカッションを行わせる。
3220028A2	教育臨床心理学(教育・学校心理学)	伊藤 美奈子	生活環境学部	後期 火曜日 1・2時限	講義	2回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	近年、ますます複雑化・深刻化する子どもの心の問題。学校現場では、そういう問題行動をどのようにとらえ、対処しているのだろうか。本講義では、①教育現場において生じる問題及びその背景についての理解、および、②教育現場における心理社会的課題及び必要な支援の具体について学ぶ。
3220029A2	発達臨床心理学	黒川 嘉子	生活環境学部	後期 水曜日 3・4時限	講義	2回生以上(平成29年度以前入学者)	2時間	2単位	この授業では、言葉をもたない(話さない)存在として生まれた乳児infantが、他者との関係性の中で、どのようにひとりの人として固有の心的世界を築いていくのか、物語る存在となっていくのかというテーマのもと、子どもの情緒発達と心理臨床について講義する。乳幼児期を中心に、学童期、思春期までの子どもについて、子どもに関わる大人を含めた環境と、その相互作用について検討し、「心を育む」とはどのようなことが考察を深める。
3220030A2	発達臨床心理学(発達心理学)	黒川 嘉子	生活環境学部	後期 水曜日 3・4時限	講義	2回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	この授業では、言葉をもたない(話さない)存在として生まれた乳児infantが、他者との関係性の中で、どのようにひとりの人として固有の心的世界を築いていくのか、物語る存在となっていくのかというテーマのもと、子どもの情緒発達と心理臨床について講義する。乳幼児期を中心に、学童期、思春期までの子どもについて、子どもに関わる大人を含めた環境と、その相互作用について検討し、「心を育む」とはどのようなことが考察を深める。
3220031A2	障害者・障害児心理学	狗巻 修司	文学部	前期 火曜日 1・2時限 S235 大講義室	講義	2回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	人間発達における心理学的な知識とともに、それぞれの機能において顕在化する障害の特徴(障害特性)について概説する。また、それぞれの障害特性に応じて必要となる支援での基本的対応について学び、特別支援教育の中で求められる専門性を高めるための基礎的知識を習得する。授業全体を通して、人間発達と障害および障害特性の捉え方を学び、支援者として適切な対応を行ううえでの基礎の形成を目指す。 ※本講義は公認心理師取得のための必修科目である
3220032A2	福祉心理学	鈴木 志乃	非常勤講師	後期 金曜日 9・10時限	講義	2回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	福祉現場における心理・社会的課題を概観し、そこで必要となる心理支援について次の通り講義を進める。現代社会に生きる人々が抱える様々な課題の背景には、多様な福祉の課題が内在している。たとえば、生活困窮にまつわる実際的な諸問題、虐待や認知症の本質的な理解とケア、養育環境の多様化による問題の個別性・複雑性など、一般化してひとくりにすることのできないテーマが、現に存在する。現代の社会的背景を踏まえた上で、そこで実際に生きている個々人を支援するには、心理学の知識や各種アプローチ法のみならず、まずは法制度に基づく社会的枠組みへの理解が必要となる。授業では、具体的な社会福祉法制度の活用事例を提示すると同時に、社会的枠組みにおいて個人の幸福を追求し、その人らしく生きることを支援する具体例(事例モデル)について、児童、障がい、高齢等の支援対象ごとに提示する。また、全ての例を通じて、多職種連携の中での心理職の立ち位置についても、理解を深める。加えて、複合的な問題を抱える家庭や、非定型発達などの支援事例モデルを用い、家族をはじめとする共同体を、総合的に支援する視座を理解していく。また、福祉分野で扱われる心理検査(認知症検査等)を介して支援の対象者と会う方法(面接)について学ぶ。以上の内容は、公認心理師資格取得を視野に入れた、「現場での心理学実践」への基礎的理解を深めることにもつながる。その他、福祉に関する心理学研究など、最新の知見も紹介しつつ、受講者が主体的、創造的に幅広く考察する機会を提供する。
3220033A2	産業・組織心理学	高原 龍二	非常勤講師	前期 火曜日 5・6時限 N101	講義	2回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	人や組織が仕事に取り組む際の行動の特徴を明らかにし、現場へと応用するための心理学の一領域を産業・組織心理学という。本授業では、産業・組織心理学の主要なトピックについて概観し、産業場面における心理学の応用可能性について説明する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3221001A1	食物科学概論	井上 裕康, 菊崎 泰枝, 高村 仁知, 中田 理恵子, 前田 純夫, 小倉 裕範	生活環境学部	前期 月曜日 1・2時限 S 2 3 5 大講義室	講義	1回生以上(令和3年度以前入学者)	2時間	2単位	食物に含まれる栄養成分、嗜好成分、その他の機能性成分について解説するとともに、消化吸収や加工・調理に関する問題について講述する。また、微生物の利用、安全性、流通、法規制、表示等の問題についても概説する。
3221002A1	住環境学概論	中山 徹, 根本 哲夫, 藤平 真紀子, 山本 直彦, 吉田 伸治	生活環境学部	前期 木曜日 7・8時限 N 1 0 1	講義	1回生以上(令和3年度以前入学者)	2時間	2単位	住環境学に関して、住まいの役割、住まいの変遷、住居計画、住まいの環境、住まいの安全と維持管理、環境共生住宅など住居と住生活を取り巻く環境に関する基礎的知識を習得し、設計演習により住居設計に関する能力を高めると共に、これからの住居・住まい方を包含した住環境のあり方について考究する。
3221003A2	食健康論	吉本 光佐	生活環境学部	前期 月曜日 7・8時限 D 1 2 0	講義	2回生以上	2時間	2単位	食物が人間の生存にとって欠くことのできない基本的なものであることを理解し、食と健康の関わりについての知識を習得する。食の調理・加工から食事として口に入るまで、食の栄養・健康機能、安全性への影響について講義する。
3221004A2	育児学	山本 展明	非常勤講師	前期 金曜日 1・2時限 E 2 6 1	講義	2回生以上	2時間	2単位	子どもの発育・発達の特徴、家庭における看護実践、親の役割や子育て支援など乳幼児期の保育について関係発達論の視点を踏まえつつ、論ずる。
3221007A3	自律神経科学	吉本 光佐	生活環境学部	前期 火曜日 3・4時限 D 1 1 9	講義	3回生以上	2時間	2単位	生命の機能維持の基本は生体内の恒常性の維持である。自律神経系は内分泌系と共に個体の機能統合の主要な役割を果たす。本講義では、自律神経系の概論から始め、体の各機能の自律神経による調節について知識を深める。
3221008A3	被服生理学	高浪 景子	生活環境学部	前期 水曜日 1・2時限 E 2 6 1	講義	3回生以上	2時間	2単位	衣服内環境は、我々の日常生活におけるもっとも身近な環境である。本講義では、衣服内環境が生体に及ぼす影響を生理学の立場から学ぶ。人体と環境との熱交換に及ぼす被服の影響、被服が知覚、運動、自律神経に及ぼす影響について学ぶ。そのために、まずこれらの機能に関する基礎的な生理学の知識を解説した上で、衣服がこれらの機能に及ぼす影響について述べる。日常生活における自分の身体の体温調節機構を意識しながら、ディスカッションを行い、講義を進めていく。
3221009A3	生活行動科学	鷹股 亮	生活環境学部	前期 火曜日 1・2時限 E 1 0 7	講義	3回生以上(平成29年度以前入学者)	2時間	2単位	我々は日常生活の中で様々な行動を行っている。行動がどのようなメカニズムで引き起こされるのかについて意識することはあまりないが、多くの行動は我々が健康で快適に生活するために行われている。本講義では、主に生命維持や種の保存に不可欠な行動の脳内メカニズム解説する。さらに、物理的・化学的環境や社会的環境が行動に及ぼす影響とその中枢メカニズムについても解説する。 現代社会で問題になっている行動異常についても取り上げる予定である。
3221010A3	行動神経内分泌学	鷹股 亮	生活環境学部	前期 火曜日 1・2時限 E 1 0 7	講義	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	授業の概要は必ず入力してください。以下すべての項目において、表示幅の関係上、冊子体の改行箇所と異なることがあります。【必須入力】 我々は日常生活の中で様々な行動を行っている。行動がどのようなメカニズムで引き起こされるのかについて意識することはあまりないが、多くの行動は我々が健康で快適に生活するために行われている。本講義では、主に生命維持や種の保存に不可欠な行動の脳内メカニズム解説する。さらに、物理的・化学的環境や社会的環境が行動に及ぼす影響とその中枢メカニズムについても解説する。 現代社会で問題になっている行動異常についても取り上げる予定である。
3221011A3	生活保健学	横山 ちひろ	生活環境学部	後期 木曜日 3・4時限	講義	3回生以上(令和3年度以前入学者)	2時間	2単位	他者および社会との関わりは、人々の健康に深く関連している。この授業では、対人関係を築くための社会行動を規定する生物学的基盤について、生後発達や系統進化の視点から講義する。さらに社会行動の総体としての個性、個性と心身の健康との関連性を医学生物学的視点から講義する。
3221012A2	食環境論	西牧 未央	生活環境学部	後期 水曜日 5・6時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	ヒトが日常生活を送る上で食事は重要な要素であり、健全な食環境は不可欠である。現代社会では、生涯を通じた健康づくりのためのライフサイクルに応じた運動・スポーツと食事の関連が注目されている。本講義では運動とからだの関係、栄養素がエネルギーやからだの構成要素として活用される栄養の仕組みを生理学的な理論について学ぶ。
3221013A3	環境人間工学	久保 博子	工学部	前期 月曜日 5・6時限 E 2 1 8 - 1	講義	3回生以上	2時間	2単位	人間の生活は、周囲の生活環境から影響をうけるとともに、より健康で快適な生活を実現するために、生活環境を改善する様々な行動をとっており、生活環境と人間生活の相互作用のなかで、生活している。健康で快適な生活のための条件を、人間をとりまく物理環境の面から人間工学的な考え方をもとにとらえ、生活環境計画との関わりで述べる。
3221015C2	生活健康学基礎実験	吉本 光佐	生活環境学部	後期 月曜日 5・6時限, 後期 月曜日 7・8時限	実験	2回生以上	4時間	1単位	生活健康学を理解するのに必要な基本的技術や手法を学習する。基本的な実験手技の習得と実験結果の分析手法について解説する。
3221016D3	環境人間工学実習	久保 博子	工学部	前期 火曜日 5・6時限 E 5 6 4. 前期 火曜日 7・8時限 I T コモンズ2	実習	3回生以上(令和3年度以前入学者)	4時間	2単位	人間工学、住環境工学的な視点および手法で人間生活と生活環境の相互作用について主に物理環境を正しく分析、評価出来るための環境測定方法、人体影響測定方法およびその評価手法を修得させると共に、諸環境の人間生活に及ぼす影響について考察し、理解させる。
3221017C3	栄養学実験	鷹股 亮	生活環境学部	後期 木曜日 5・6時限, 後期 木曜日 7・8時限	実験	3回生以上	4時間	2単位	栄養素は身体内に入って生理上重要な働きをしているが、血液、尿の生化学的検査を通して、身体の健康状態を知ることができる。この実験では、生体試料、主として人体の血液と尿を用いて、一般性状検査および各種の生化学成分を測定する。これらの実験を通して、各種化学実験の実験技術を習得するだけでなく、栄養と健康への理解を深めることを目的としている。また、腎機能、味覚、酵素反応について学ぶ。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3221018D2	ストレスの科学実習	横山 ちひろ	生活環境学部	後期 火曜日 5・6時限、後期 火曜日 7・8時限	実習	2回生以上(令和4年度以前入学者)、3回生以上(令和5年度以降入学者)	4時間	2単位	ストレスは心身の健康に大きな影響を与える。ストレスと心身の関連を科学的に理解することは、心身の健康を維持・増進するための方策につながる。この授業では、異なる種類のストレスラーによる急性ストレス負荷を実際に体験するとともに、生理学的測定によって急性の生体ストレス反応を評価する。また、既存知識と実証研究の方法を理解するためにストレスと心身相関に関連する学術論文を読む。最後に、自ら実験を計画・実行することで実証研究の基礎を学び、ストレスと心身の関連性について理解を深める。
3221019D2	人体生理学実習	高浪 景子	生活環境学部	前期 木曜日 5・6時限 E 5 6 4、前期 木曜日 7・8時限 E 5 6 4	実習	2回生以上(令和4年度以前入学者)、3回生以上(令和5年度以降入学者)	4時間	2単位	外部環境や内部環境が人体の機能に及ぼす影響に関する実験を行い、実験方法や実験結果のデータ分析法について学ぶ。具体的には、1)皮膚の知覚、平衡覚、温度覚を測定し、環境や内部環境による知覚の変動に関する実験、2)血圧や心拍数を測定し、運動時や刺激負荷時の生体応答に関する実験、3)自己の利き側、指向性や認知に関わる実験等を行う予定である。毎回実習前に、班で結果の予測を立て、実習後に予測と結果を比較し、考察する。また、前回の実習のまとめを班の代表が発表し、科学プレゼンテーションの質疑応答を学ぶ。
3221027A2	衣環境管理学	原田 雅史	生活環境学部	後期 水曜日 1・2時限	講義	2回生以上(令和4年度入学者)、3回生以上(令和5年度以降入学者)	2時間	2単位	衣環境の管理について、衣服の着用や保管による機能性低下と関連づけながら解説する。具体的には、洗濯、しみ抜き、漂白、柔軟処理、糊づけなどについて講述する。また、洗剤の生分解性と安全性、環境問題について説明する。
3221028A2	生活界面化学	原田 雅史	生活環境学部	前期 火曜日 3・4時限 E 2 1 8 - 1	講義	2回生以上(令和4年度以降入学者)	2時間	2単位	界面での現象は、界面張力と界面自由エネルギー、物質拡散等のパラメータによって支配される。界面の性質、界面張力の測定方法などについて説明する。電気二重層の形成による界面静電的現象と、電気浸透・電気泳動による界面動電的現象について、コロイド分散系と関連づけて説明する。界面活性剤、ゲル、コロイドなどの材料表面の微視的構造、機能性発現における界面の果たす役割について解説する。
3221029A2	衣環境学実験	原田 雅史	生活環境学部	後期 金曜日 5・6時限、後期 金曜日 7・8時限	実験	2回生以上(令和4年度入学者)、3回生以上(令和5年度以降入学者)	4時間	2単位	着用により機能低下した被服の洗浄に用いる水・合成洗剤・石鹼および染料の基本的性質に関する知見および基礎的な実験法を習得させる。キレート滴定法による水の硬度測定、界面活性剤水溶液の表面張力の測定、メチルオレンジの合成と各種染料を用いた染色試験、人工汚染布の洗浄試験などの基礎的実験を行う。
3221021B3	心身健康学研究演習 I	生活健康学コース 共通	生活環境学部	前期 木曜日 1・2時限 E 2 1 8 - 1	演習	3回生以上	2時間	2単位	生活健康学コースの各研究室でどのような研究が行われているかを知り、研究目的や内容について質疑応答をするとともに、研究に対する姿勢や考え方を学ぶ。 学外の講師によるセミナーも予定している。
3221022B3	心身健康学研究演習 II	生活健康学コース 共通	生活環境学部	後期 その他 その他	演習	3回生以上	2時間	2単位	生活健康学コースの各研究室で行うセミナーに参加し、最近の研究を含む各専門領域の研究について、国内外の学術論文や資料を購読し、その内容について少人数の演習形式により討議する。これにより、発表やディスカッションの能力向上を目指す。 学外の講師にセミナーも予定している。
3221023B4	心身健康学卒業演習 I	生活健康学コース 共通	生活環境学部	前期 その他 その他	演習	4回生(心身健康学科)	2時間	2単位	生活健康学の研究を行うにあたり、英語の学術論文の読み方や文献検索の仕方を習得する。さらに、最新情報である英文の総説および原著論文の読解力を養う。これにより、卒業研究の意義を理解しその問題点を論議する。 学外の講師によるセミナーも予定している。
3221024B4	心身健康学卒業演習 II	生活健康学コース 共通	生活環境学部	後期 その他 その他	演習	4回生(心身健康学科)	2時間	2単位	生活健康学外書講読 I に引き続き、最新情報である英文の総説および原著論文の読解力を磨くとともに、評価能力を養う。これにより、卒業研究の意義を理解しその問題点を論議する。 学外の講師によるセミナーも予定している。
3221025F4	卒業研究 I	全教員	生活環境学部	前期 その他 その他	複合	4回生(心身健康学科)		6単位	これまでの学習を基礎に、生活健康学に関する専門的な研究課題に取り組む。 I では、研究の方向付けを行い、関連する資料、既往研究を調査し、研究手法に習熟する。
3221026F4	卒業研究 II	全教員	生活環境学部	後期 その他 その他	複合	4回生(心身健康学科)		6単位	これまでの学習を基礎に、生活健康学に関する専門的な研究課題に取り組む。 II では、I での学習をもとに、研究を遂行し、卒業論文を作成する。
3222001A2	体育・スポーツ史	西原 茂樹	非常勤講師	後期 火曜日 7・8時限	講義	2回生以上(令和4年度以前入学者)、3回生以上(令和5年度以降入学者)	2時間	2単位	歴史学は過去の史実を通じて現在の課題を照らし出す導きの糸である。本講義では古今東西のスポーツを題材にし、それらが社会の中で果たした役割や機能、ならびに生活世界に付与された価値などについて考察する。ここで言うスポーツとは、いわゆる「近代スポーツ」に限定されず、人々の生活の場で独特な意味を持って展開された娯楽や祝祭の類も含まれる。スポーツ史の範囲は、したがって国家などによる制度としての学校体育やスポーツ組織をめぐる政策展開とともに、人々の生の表現あるいは主体形成の場でもある民衆娯楽の世界、そして両者の緊張関係にまで及ぶ。歴史に刻まれたスポーツの探究は、今日のスポーツ問題を深部から理解するための重要な素材を提供するであろう。
3222002A2	学校保健	宮井 信行	非常勤講師	後期集中 その他 その他	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	学校保健の意義と内容、児童・生徒の心身の発育発達と健康、学校生活における疾病予防と事故防止、健康診断、健康観察、健康相談、学校環境衛生管理、保健教育や安全教育などについて概説する。授業は基本的に資料を配付して講義形式で進めるが、内容によっては演習をおりまぜて行う。
3222003A3	スポーツ心理学	浅野 友之	生活環境学部	後期 水曜日 3・4時限	講義	3回生以上	2時間	2単位	本講義では主に競技スポーツ場面における、競技力向上、人格発達、心理的諸問題への援助ならびに治療（メンタルトレーニング、スポーツカウンセリング）といった、体育・スポーツ心理学領域の中でも特に応用・実践的なテーマに絞って概説していく。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時間・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3222004A3	身体運動制御論	藤原 素子	生活環境学部	前期 木曜日 1・2時限 E 2 1 8 - 2	講義	3回生以上	2時間	2単位	バイオメカニクスの立場から、随意運動の基本的な制御機構とその構造について、いくつかの研究例を紹介しながら解説する。また、さまざまな環境における随意動作や学習過程における熟練動作スキルの獲得機構について説明し、運動制御の視点からスポーツ動作のバイオメカニクスの分析法について講義する。
3222005A3	スポーツ法学	平塚 卓也	非常勤講師	後期 金曜日 5・6時限	講義	3回生以上(令和4年度以前入学者)、2回生以上(令和5年度以降入学者)	2時間	2単位	スポーツと公法（憲法、行政法）、刑事法、民法（契約法、不法行為法、法人法、組織法、知的財産法、不正競争防止法、労働法、独占禁止法）、紛争解決法、国際法とのかかわりについて解説する。
3222006A3	身体コミュニケーション論	成瀬 九美	生活環境学部	前期 金曜日 1・2時限 D 1 1 9	講義	3回生以上	2時間	2単位	コミュニケーションにおける身体および身体性について、身体表現学や舞踊学、運動学および関連する諸学問の知見をもとに理解を深める。動きがもたらす対自的機能および対他機能について、動きを構成するリズム要素（時間的要素）・空間的要素・イメージ要素を取り上げながら論じる。
3222008A3	体育・スポーツ社会学	石坂 友司	生活環境学部	後期 火曜日 3・4時限	講義	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	私たちがとりまくスポーツはオリンピックのようなメガ・イベント、国内・地域の大会などさまざまな形態が存在する。本講義はイギリスで生まれた近代スポーツがどのような変容を経験し現代に至るのか、体育・スポーツ社会学の観点からスポーツ文化を読み解く上で基礎となる概念と事例について説明する。
3222009A3	スポーツ精神生理学	星野 聡子	生活環境学部	前期 水曜日 1・2時限 E 1 0 7	講義	3回生以上	2時間	2単位	スポーツ行動を生理学的視点から捉えるために、人体の解剖学的・機能的知識および生理応答の機序についての基本的理解を促す。これをふまえた上で、独立変数をスポーツ行動の変化、従属変数を生理反応の変化として捉え、諸場面における心理的揺さぶりに対する変化を詳細に分析し、身体が語りかける言語（生理的反応）について理解する。
3222010D2	身体表現実習	成瀬 九美	生活環境学部	後期 月曜日 3・4時限	実習	2回生以上	2時間	1単位	特徴のある音楽を活かしたフォークダンスやリズムダンス、表したい感じを仲間と共有して自由に躍る即興的ダンス、構成を工夫した創作ダンスなどを中心に実習する。自己身体や他者身体への気づきを深め、自己表現の喜びや他者と時空間を共有する楽しさを体験し、さらに舞踊作品の創作や鑑賞を通じて、踊る行為に含まれる文化的背景や、コミュニケーション機能について理解する。
3222011D2	基礎運動実習	松山 尚道	非常勤講師	前期 月曜日 3・4時限 第二体育館	実習	2回生以上	2時間	1単位	「器械運動」についての知識を学び、自らの身体で体験し実習を行う。マット運動・跳び箱運動・鉄棒運動・平均台運動の四種目において、技の理解、技能の向上、指導法や補助の仕方等について講じる。
3222012D2	個人スポーツ実習 A	丸谷 賢弘	非常勤講師	後期 木曜日 1・2時限	実習	2回生以上	2時間	1単位	テニスコートでのウォーミングアップやテニス競技を実施する上で必要な準備運動について解説しながら行う。前半はテニス競技の基本技術（ストローク、ボレー、サーブ、スマッシュ）の習得を中心に実施し、後半は仲間と交流しながら試合形式の実技を行う。加えて、テニス競技の特性、ルールに関する知識、テニス実施による身体への効用などについて解説し、各自の競技レベル向上を目指した活動を行う。
3222015D2	チームスポーツ実習 B	藤原 素子	生活環境学部	後期 木曜日 3・4時限	実習	2回生以上	2時間	1単位	バスケットボールの技術体系およびルールを解説する。受講者に対してバスケットボールの種目特性の理解を促し、基本的なスキルからゲームへと発展するために必要なスキルを習得、向上させる。集団成員の個性を尊重した攻防パフォーマンスの発揮をめざす中で、指導のポイントについても解説する。
3222018D2	シーズンスポーツ実習・夏	浅野 友之、小森 康加	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	実習	2回生以上	集中30時間	1単位	生涯スポーツとしての水泳を通して、各種泳ぎを身につけるとともに受講生が自らの身体を感じ、考え、対応する能力を高める。また、救急法および安全面等に目を向ける。
3222020B2	スポーツ健康科学演習 A	スポーツ健康学 コース共通	生活環境学部	後期 木曜日 7・8時限	演習	2回生以上(令和3年度以降入学者)	2時間	2単位	スポーツ健康科学コースの教員によるオムニバス形式の演習授業です。各教員の専門領域から導入的位置づけとして概論します。まとまりを持ったテーマを設定して複数の教員が関与し、受講者との対話を通じて学びを深めます。教員が提示するテーマや資料に対する取り組みを通して、受講生ひとりひとりのスポーツ科学への興味関心を深め、発展させます。
3222021B3	スポーツ健康科学演習 B	スポーツ健康学 コース共通	生活環境学部	前期 木曜日 5・6時限 D 1 1 9	演習	3回生以上	2時間	2単位	卒業論文作成のための導入的演習として、主としてスポーツパフォーマンスに関わる学術研究文献を取り上げ、研究課題とその課題解決のための研究方法を検討する。
3222022B2	スポーツ健康科学入門演習 I	スポーツ健康学 コース共通	生活環境学部	前期 金曜日 7・8時限 N 2 0 2	演習	2回生以上	2時間	2単位	スポーツ科学領域における量的データ、質的データ、文献・資料データを基にした基礎的な研究方法について説明し、その意義を解説する。
3222023B2	スポーツ健康科学入門演習 II	スポーツ健康学 コース共通	生活環境学部	後期 金曜日 7・8時限	演習	2回生以上	2時間	2単位	スポーツ科学における応用的な研究方法の意義について解説し、実習する。
3222024B3	心身健康学研究演習 I	スポーツ健康学 コース共通、奥田 睦子	生活環境学部	前期 火曜日 7・8時限 N 3 0 1	演習	3回生以上	2時間	2単位	スポーツ科学領域における質的データ、量的データ、文献・資料データを基にした基礎的な研究に関する総説、論文、資料などについて情報提供し、これらの文献の読み方について解説する。
3222025B3	心身健康学研究演習 II	スポーツ健康学 コース共通、未定	生活環境学部	後期集中 その他 その他	演習	3回生以上	2時間	2単位	翌年の卒業論文執筆に向けて文献を読み進める。特に、提起されている問題意識とデータ収集の方法およびその考察との対応を意識して論議を展開することにより、自分の研究テーマを探る手立てとする。
3222026B4	心身健康学卒業演習 I	スポーツ健康学 コース共通	生活環境学部	前期 その他 その他	演習	4回生(心身健康学科)	2時間	2単位	研究演習を踏まえたうえで、卒業論文の作成に向けて各自の研究テーマを検討し、それらに関する資料や論文等を用いて、演習、指導する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時間・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3222027B4	心身健康学卒業演習Ⅱ	スポーツ健康学 コース共通	生活環境学部	後期 その他 その他	演習	4回生(心身健康学科)	2時間	2単位	卒業演習Ⅰを踏まえたうえで、受講生の卒業論文のテーマに沿って、論文完成まで演習形式によって指導・助言をする。
3222028F4	卒業研究Ⅰ	スポーツ健康学 コース共通	生活環境学部	前期 その他 その他	複合	4回生(心身健康学科)		6単位	これまで学んだ知識及び研究方法などを基礎として、運動、スポーツ、スポーツ行動、健康等に関する専門的研究課題に向けての取り組みを指導する。問題の設定、関連する資料の収集、研究方法などを明確にする。
3222029F4	卒業研究Ⅱ	スポーツ健康学 コース共通	生活環境学部	後期 その他 その他	複合	4回生(心身健康学科)		6単位	卒業研究Ⅰをもとに、運動、スポーツ、スポーツ行動、健康等に関する専門的な研究課題に対して、継続的な取り組みを指導する。研究を遂行し、卒業論文を作成する。
3223002A3	心理療法学(心理学的支援法)	時岡 良太	生活環境学部	後期 木曜日 3・4時限	講義	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	本講義では、心理臨床実践において重要となる種々の心理療法(心理学的支援)の理論と考え方について扱う。支援を実践する上で基本となる姿勢や倫理的配慮、コミュニケーション方法について講義するとともに、様々な心理療法理論を概観し、共通点や相違点および心理療法の各理論における問題理解について説明する。また、コミュニティへの支援や心の健康教育についても学び、心理学的支援をめぐる諸問題についても取り上げる。
3223003A3	学校臨床心理学	伊藤 美奈子	生活環境学部	前期 火曜日 1・2時限 D119	講義	3回生以上	2時間	2単位	この講義では、学校教育の現場で起こっている事象について理解を深めるとともに、それに対する臨床心理学的支援策や実践方法について学ぶ。講義形式のみではなく、グループによる演習形式(アクティブ・ラーニング方式)を取り入れ、主体的に考え、自身の考えを表現し、議論する場としたい。
3223005A3	感情・人格心理学	岡本 英生	生活環境学部	後期 月曜日 3・4時限	講義	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	人格(パーソナリティ)と感情について説明する。人格の概念及び形成過程、人格の類型、特性等、感情に関する理論及び感情喚起の機序、そして感情が行動に及ぼす影響を内容に含む。
3223007A3	臨床心理学概論	黒川 嘉子	生活環境学部	前期 金曜日 3・4時限 E261	講義	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	臨床心理学は、人が生きていくうえでかかえる心の問題を専門的に援助するために発展してきた学問領域である。その成り立ちや代表的な理論を学び、臨床心理実践(アセスメント、心理療法、地域援助など)を体系的に理解する。心理的支援を必要とする心の病や発達段階ごとの心理的課題について学び、さまざまな領域にまたがる汎用性のある対人援助のあり方について理解を深める。
3223009B3	心理検査法(心理的アセスメント)	梅垣 佑介	生活環境学部	前期 月曜日 3・4時限 E108	演習	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	臨床心理学的観点から個人の心の状態を把握・理解する方法としての心理的アセスメント、およびその一手段である心理検査について解説する。心理的アセスメントの目的・倫理、展開、方法(観察・面接・検査)について学んだうえで、心理検査の基礎や背景理論、使用方法、倫理について学ぶ。心理検査については、質問紙法・投影法・パーソナリティ検査、知能検査、発達検査といったものの中から代表的なものを取り上げる。
3223011B3	心理学統計法	梅垣 佑介	生活環境学部	後期 月曜日 1・2時限	演習	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	心理学研究において一般的に用いられる定量的なデータ解析法について解説する。授業の前半では、心理学統計法の基礎的な知識について学ぶ。後半では統計ソフトを用い、実際に分析を行う方法を演習形式で学ぶ。各データ解析法の分析結果の記述・解釈については、研究論文を紹介するなど授業外課題を通じて解説する。
3223012A3	公認心理師の職責	伊藤 美奈子. 狗巻 修司. 黒川 嘉子. 梅垣 佑介. 岡本 英生. 竹橋 洋毅. 天ヶ瀬 正博. 中山 満子. 加藤 奈奈子	生活環境学部	前期 月曜日 9・10時限 E108	講義	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	公認心理師の職務上の責任について学ぶ。心理職の国家資格としての公認心理師に求められる役割を理解し、法的義務や倫理について学ぶ。公認心理師のサービスの対象となる心理に関する支援を要する者等について、安全確保の方法や情報の適切な取り扱いを理解する。また、保健医療、福祉、教育といった各分野における公認心理師の具体的な業務、および多職種連携や地域連携について学ぶ。公認心理師として働くために必要な自己課題発見・解決能力を高め、生涯学習への準備を行う。
3223013A3	精神疾患とその治療	白水 倫生. 岡田 俊. 清水 幸登	保健管理センター	前期 水曜日 3・4時限 E107	講義	3回生以上	2時間	2単位	精神医学の基礎としての精神症候学について概説した後、各種精神疾患について順に論述する。治療については疾患ごとにも述べるが、特に薬物療法については第14回でまとめて述べる。
3223014A3	神経・生理心理学	尾藤 昭夫	非常勤講師	後期 火曜日 9・10時限	講義	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	.授業では、医学の一分野である神経心理学、心理学の一分野である生理心理学の全般についての説明を行う。
3223015A3	健康・医療心理学	長 徹二	非常勤講師	後期 火曜日 7・8時限	講義	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	精神疾患の知識とその治療に関する具体的な支援、ストレスと心身の変化や疾病との関連について解説するなど、医療現場における心理社会的ニーズや必要な支援について説明する。また、保健活動が行われている現場や災害時についても、心理社会的なニーズや必要な支援について解説する。
3223016A3	関係行政論	外木 央晃	非常勤講師	後期集中 その他 その他	講義	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	授業では、公認心理師に求められる保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各分野に関係する重要な制度や法令の定めについて検討する。
3223116E3	心理学研究法	狗巻 修司. 竹橋 洋毅	文学部	後期 金曜日 1・2時限	複合	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	観察、面接、質問紙、実験までの心理学の研究手法全般について概説する。いまや発達支援やメンタル・ヘルス支援においても、基礎研究からの知見や着想が重視されるようになってきた。心理学を専門として学ぶ者は、広範囲にわたる研究報告を読み、個々の研究の妥当性を評価し、そして、自らも研究に参加する。このために研究法についての知識は重要である。本講義では心理学研究法の基礎的知識を講じ、研究論文の批評や、自らの研究計画の立案に活用可能な理解を促進する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時 限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3223017B3	心理演習	伊藤 美奈子,黒川 嘉子,栗本 美百合,加藤 奈奈子,梅垣 佑介,時岡 良太,岡本 英生	生活環境学部	前期 火曜日 9・10時限 E108	演習	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	公認心理師に求められる知識および技能の基本的な水準の修得を目的とし、以下の(ア)から(オ)までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行い、事例検討で取り上げる。 (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識および技能の修得 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援 (5) 多職種連携 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握、支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ (エ) 多職種連携、地域連携 (オ) 公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解
3223019D3	臨床心理学実習(心理実習B)	伊藤 美奈子,加藤 奈奈子,栗本 美百合,黒川 嘉子,時岡 良太,岡本 英生,梅垣 佑介	生活環境学部	後期 金曜日 5・6時限,後期 金曜日 7・8時限	実習	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、およびその他の分野に関する施設において、実習担当教員または当該施設の実習指導者による実地での指導および事前・事後指導を受けながら、見学等による実習を行う。実習を通じて、実習生が公認心理師の仕事や求められる役割について理解し、心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、多職種連携および地域連携、公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解について、基本的な水準を修得することが目的である。 3年次前期に開講される「心理実習A」とあわせて合計80時間以上の実習を行い、特に医療機関での実習を必須とする。
3223021B3	心理学実験演習(心理学実験)	岡本 英生,梅垣 佑介,時岡 良太	生活環境学部	後期 火曜日 5・6時限	演習	3回生以上(平成30年度以降入学者)	2時間	2単位	心理学の古典的な基礎的実験のうち、必要最低限の課題を厳選して取り上げる。知覚、認知、記憶、社会等の領域を中心に、実験、観察、調査の方法について、実験・実習の実施者および実験協力者として参加体験をする。
3223022B3	心身健康学研究演習Ⅰ	臨床心理学コース 共通	生活環境学部	前期 火曜日 5・6時限 E107	演習	3回生以上	2時間	2単位	臨床心理学の基本的な考え方や方法論について学ぶとともに、専門性を高めるための演習授業を受けるにあたっての基本的な心構えを学習する。教員からの一方通行的な知識の伝達ではなく、学生による発表や質疑応答を中心に授業を進める。
3223023B3	心身健康学研究演習Ⅱ	臨床心理学コース 共通	生活環境学部	後期 その他 その他	演習	3回生以上	2時間	2単位	文献講読、あるいは演習(学生により研究テーマを設定し、分析等を行い、各自でレポートをまとめるもの)など各教員の設定する授業方法を通じて、心理学に関する専門的な知識や研究方法についての理解を深める。また、卒業論文発表会に参加し、研究の進め方やまとめ方、発表の仕方について学ぶ。
3223024B4	心身健康学卒業演習Ⅰ	臨床心理学コース 共通	生活環境学部	前期 その他 別記 その他	演習	4回生(心身健康学科)	2時間	2単位	心身健康学研究演習Ⅰ・Ⅱを踏まえたうえで、卒業論文の作成に向けて各自の研究テーマを検討し、それらに関する資料や論文等を用いて演習をおこなう。
3223025B4	心身健康学卒業演習Ⅱ	臨床心理学コース 共通	生活環境学部	後期 その他 その他	演習	4回生(心身健康学科)	2時間	2単位	心身健康学卒業演習Ⅰを踏まえたうえで、受講生の卒業論文のテーマに沿って、論文完成まで演習形式によって指導・助言をおこなう。
3223026F4	卒業研究Ⅰ	臨床心理学コース 共通	生活環境学部	前期 その他 その他	複合	4回生(心身健康学科)		6単位	これまでの学習を基礎に、臨床心理学に関する専門的な研究課題に取り組む。 卒業研究Ⅰでは、研究の方向づけを行い、関連する資料、先行研究を調査し、研究手法に習熟する。
3223027F4	卒業研究Ⅱ	臨床心理学コース 共通	生活環境学部	後期 その他 その他	複合	4回生(心身健康学科)		6単位	これまでの学習を基礎に、臨床心理学に関する専門的な研究課題に取り組む。 卒業研究Ⅱでは、Ⅰでの学習をもとに研究を遂行し、卒業論文を作成する。
3230001A1	情報衣環境学概論	城 和貴,松本 尚,佐藤 克成,才 脇 直樹,駒谷 昇一	生活環境学部	前期集中 その他 その他	講義	1回生以上	集中30時間	2単位	情報衣環境学とは衣環境を利用した情報処理、あるいは情報処理を利用した衣環境学である。本講義では情報処理分野からライフコンピューティングという新しい概念とその応用、それを利用するためのハードウェアの仕組み、そしてウェア開発まで含んだプロジェクトマネジメントの概要を講義する。次に衣環境分野から、ウェアラブル技術と衣服を対象としたバーチャルリアリティ技術について解説する。
3230002A1	応用数学Ⅰ(微分積分学)	高田 雅美	生活環境学部	前期 月曜日 7・8時限 E102	講義	1回生以上	2時間	2単位	数列と極限を理解し、一次近似としての微分の意味を理解する。また、和としての積分の意味や原始関数を理解する。
3230003A1	応用数学Ⅱ(線形代数)	高田 雅美	生活環境学部	後期 月曜日 7・8時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	線形写像としての行列の意味を理解し、平面と空間の幾何におけるベクトルと行列の意味を理解する。また、ベクトルと行列の演算を理解し、連立一次方程式の解法などにおける役割を理解するとともに、行列式の意味を理解する。
3230004A2	形態情報論	吉田 哲也	工学部	前期集中 その他 その他	講義	2回生以上	2時間	2単位	被服などにおける形状や運動の表現や、形状などが存在する空間の性質を情報として捉えるための考え方について講義する。さらに、応用について説明する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時間・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3230006A2	マーケティング論	地頭所 里紗	非常勤講師	後期集中 その他 その他	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	マーケティングの考え方はみなさんの身の回りにある現象を読み解いていく心強いツールになります。漠然と授業や教科書の中身を覚えのではなく、自身の身の回りに起きていることに興味を持ち、自分なりの分析、理解ができるようになります。 本講義では、アパレルを中心とする実際の企業の事例を用いながらマーケティングや消費者行動に関する基本的な概念について学びます。 パワーポイントを用いた講義形式で授業を行います。 適宜映像教材を用いることもあります。 資料配布について：パワーポイントは原則として配布しません。しっかり板書をしてください。 出来るだけ双方向の講義を心がけますので、積極的に授業参加をしてください。
3230007A3	ウェアラブルインターフェイスデザイン論	才脇 直樹	工学部	前期 木曜日 9・10時限 E107	講義	3回生以上	2時間	2単位	スマートテキスタイルやIoTなども含めた着装型情報処理（ウェアラブルコンピューティング）に関連する問題の範囲は、各種人間情報の計測と分析からインタフェースデザインに至るまで多岐に渡る。ここでは、ヒューマンインタフェースに関連する技術の基礎を学び、またその応用研究例について、ウェアラブルとデザインという二つの観点からレポートを作成し発表と討論を行って理解を深める。
3230008A3	創造学	石井 力重	非常勤講師	前期集中 その他 その他 その他	講義	3回生以上	集中30時間	2単位	創造的仕事の上流部分「アイデア創出の技術」をワークショップ形式でレクチャーします。 具体的には、「ブレインストーミング・カード」や「発想ツール」を用いて楽しみながら発想力を鍛えたり、本格的な「アイデア発想法」や「ブレインストーミングの諸技法」を実践します。また、対話型 AI と共にアイデア創出を行う時代に向けて、基礎的な使い方やコツをレクチャーし、実践します。 (三日間ノートPCを持参されることを強く推奨します。無くても可能ですが、あるほうが捗ります。)
3230009A1	生活と情報倫理	駒谷 昇一	工学部	前期 金曜日 3・4時限 情報科学講義室 (G302)	講義	1回生以上	2時間	2単位	生活のなかで、インターネットによる売買やコミュニティによる情報交換などが普及しており、インターネットや情報システムの社会インフラは、私たちの生活に不可欠となっている。しかし一方で、個人情報の漏えいやデジタルデバイド(情報による経済的格差)の拡大やサイバー犯罪の増加など私たちは情報社会特有の新たな脅威にもさらされている。例えば、監視カメラの設置は犯罪の抑止効果があるが、プライバシーの侵害ともなりえる。情報社会の生活において発生している犯罪事例を紹介しながら、被害者や加害者とならないためにどうしたら良いか、情報社会での生活において求められる情報倫理を学び、情報社会の発展にもなる格差拡大と弱者の救済などの情報社会の問題、光と影にどう対応したらよいかを学ぶ。
3230010A1	情報学概論	城 和貴,松本尚,駒谷 昇一	生活環境学部	後期集中 その他 その他	講義	1回生以上	集中30時間	2単位	国民の7割以上がインターネットを利用している現在、GoogleやYahoo等のポータル、Facebook、Twitter等のSNSやAmazon等のeコマースは日常的なものになってきた。本講義では、コンピュータ、インターネット、Webと、それらを前提としたソフトウェアならびにコンテンツを大きくメディアととらえ、メディアをどのように使うかについての基礎的な技術について論じるものである。
3230011A1	情報セキュリティと法務	駒谷 昇一	工学部	後期集中 その他 その他	講義	1回生以上	集中30時間	2単位	スマートフォンやパソコンが手軽にインターネットに接続できる現在において、情報セキュリティに関する知識は不可欠となっている。サイバー犯罪に巻き込まれないように自分の身を守るため、情報セキュリティに関する技術のみならず、社会で起きているリスクへの対応方法、そして何が犯罪となるのかの法律の知識をこの授業を通じて学ぶ。
3230012A1	生活と統計学	池田 孝利	非常勤講師	後期 水曜日 9・10時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	統計は私たちの生活の様々なところで使われている。統計は、過去を振り返り、今を知り、未来を見通すための指標として、さまざまな意思決定にも幅広く利用され、社会の発展を支える基礎となっている。統計リテラシーを高め、統計解析ができるようになることを目標とし、統計および確率の基本知識、代表的な確率分布、仮説検定、推定、回帰分析について講義する。
3230013A2	情報と職業	駒谷 昇一	工学部	前期 月曜日 9・10時限 G203	講義	2回生以上	2時間	2単位	情報技術（IT）の急速な発展と利用の拡大によって、過去のビジネスモデルやパラダイムが崩壊し、様々な社会やビジネスの変革を引き起こしている。企業においても情報の活用が企業の存続にかかわるほどに重要性が高まっている。本講義では社会インフラや企業におけるIT活用事例を紹介しながら、情報化やネットワーク化がビジネス社会にどのような影響を与え、どのような変革をもたらしているかを学び、さらに、情報化社会における企業人としてのあり方についても学習する。
3230014A3	経営工学	松本 尚	生活環境学部	前期 火曜日 9・10時限 G202	講義	3回生以上	2時間	2単位	本講義では、経営工学的手法の紹介とその限界を述べます。また、経済やお金の仕組みについての解説を行います。
3230015A3	失敗学	吉井 直子	非常勤講師	後期 木曜日 5・6時限	講義	3回生以上	2時間	2単位	人が新しいモノをつくり出すとき、多くの失敗を経験する。しかし「失敗は成功の母」という名言もあり、創造的な仕事をする場合、失敗から学ぶ意義は大きいと言える。本講義では失敗学の基礎を習得し、課題設定を自ら行えるよう指導する。さらに「どのようなリスクが潜んでいるか」を予測して事前に仮想演習を行い、全体の計画を組み立てて実行できる技術を身につけさせる。
3231006A2	家族関係学	菊地 真理	非常勤講師	前期集中 その他 その他 N101	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	講義の前半では、戦前にさかのぼって、社会の近代化・産業化とともに、日本の家族がどのように変化してきたのか解説する。家族を理解するための概念や理論、モデルについて解説する。さらに、家族関係を規定する法律や政策についても説明を加える。 後半からは、若者たちの自立、恋愛と結婚、就労、子育て、親子関係、夫婦関係、離婚・再婚、ワークライフバランスなど、現代家族に生じている諸現象を取り上げ、家族に関わる専門家・教育者としてどのようなアプローチができるかを検討していく。そのモデル事例として、VTR資料などを使って当事者の経験談なども広く紹介していきたい。
3231008A2	生活経済経営学	小谷 みどり	非常勤講師	前期 木曜日 3・4時限 E218-2	講義	2回生以上	2時間	2単位	私たちは家族、学校、地域などさまざまな集団に所属し、生活しています。個としての自立、準拠集団との共同、社会での共生に対応しうる能力とはどうあるべきなのか、消費者・生活者、家庭・家族、地域、市民社会のそれぞれにおいて、課題や問題点を挙げ、検討します。
3231010A2	衣環境管理学	原田 雅史	生活環境学部	後期 水曜日 1・2時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	衣環境の管理について、衣服の着用や保管による機能性低下と関連づけながら解説する。具体的には、洗濯、しみ抜き、漂白、柔軟処理、糊づけなどについて講述する。また、洗剤の生分解性と安全性、環境問題について説明する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時 限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3231011A2	生活と感覚計測論	才脇 直樹	工学部	後期集中 その他 その他	講義	2回生以上	2時間	2単位	日々の暮らしの中で我々が手に取る装置やシステムと呼ばれるものには、単に性能のみならず、人間の感覚特性に応じた使いやすさや使い勝手といった側面が重要です。本講義では、こうした人間の特性に応じたシステム設計やデザインの基礎とともに、感覚計測のためのセンシング技術についても学びます。
3231012A2	アパレル工学	佐藤 克成	工学部	後期集中 その他 その他	講義	2回生以上	2時間	2単位	人間の生理および心理に適合したアパレル製品の設計・製造・評価が、工学的基礎に基づいた一貫した手法により行われていることについて、基礎から実例までを講述する。
3231013A2	生活界面化学	原田 雅史	生活環境学部	前期 火曜日 3・ 4時限 E 2 1 8 - 1	講義	2回生以上	2時間	2単位	界面での現象は、界面張力と界面自由エネルギー、物質拡散等のパラメータによって支配される。界面の性質、界面張力の測定方法などについて説明する。電気二重層の形成による界面静電的現象と、電気浸透・電気泳動による界面動電的現象について、コロイド分散系と関連づけて説明する。界面活性剤、ゲル、コロイドなどの材料表面の微視的構造、機能性発現における界面の果たす役割について解説する。
3231014C2	衣環境学実験Ⅰ (物理)	黒子 弘道	工学部	前期集中 その他 その他 その他	実験	2回生以上	4時間	2単位	被服材料の物理的、化学的性質の測定および評価に関する基礎実験を、繊維、糸、布それぞれのレベルに分けて行う。
3231015C2	衣環境学実験Ⅱ (化学)	原田 雅史	生活環境学部	後期 金曜日 5・ 6時限、後期 金 曜日 7・8時限	実験	2回生以上	4時間	2単位	着用により機能低下した被服の洗浄に用いる水・合成洗剤・石鹼および染料の基本的性質に関する知見および基礎的な実験法を習得させる。キレート滴定法による水の硬度測定、界面活性剤水溶液の表面張力の測定、メチルオレンジの合成と各種染料を用いた染色試験、人工汚染布の洗浄試験などの基礎的実験を行う。
3231020D2	衣環境造形学実 習	古田 貴美子	非常勤講師	後期 月曜日 5・ 6時限、後期 月 曜日 7・8時限	実習	2回生以上	4時間	2単位	被服構成学をベースに生活環境からの視点を含めて被服構成法の理論と基礎的技法を習得させることを目的として被服学実習ⅠD、ⅡDを指導してきたが、本実習は被服学実習ⅢDと位置付け、よりレベルの高い専門的な実習を行い基礎的技法に加え広範囲に応用できる力をつけることを目的として指導する。製作課題は、ワンピースとする。
3231022A3	繊維状材料性能 論	黒子 弘道	工学部	前期 木曜日 3・ 4時限 D 1 1 9	講義	3回生以上	2時間	2単位	軽さ、柔軟さおよび多孔性を備えた繊維状材料は各種用途に用いられるが、要求性能と物理的および化学的性質さらには繊維集合構造との関連およびその評価法の高分子の分子論および構造論の立場から講述する。
3231023A3	生活材料物性学	大背戸 豊	工学部	後期 水曜日 3・ 4時限	講義	3回生以上	2時間	2単位	繊維状物質を編み合わせることでできる布は繊維と気相を共存させることで、様々な外的環境の変化を制御したり和らげたりすることが可能となり、人々の生活や暮らしに役立つ物性を示す「衣服」となる。本講義では、衣服が外的環境の変化を制御する際に生じる物理現象を理解するため、その基礎となる熱・物質の移動現象および関連する物理現象について、化学工学を援用しつつ学習する。本講義の聴講により、衣服を構成する繊維材料の内外部で起こる物理現象を通して、暮らしに役立つ「生活材料」としての衣服の物性について理解することができる。
3231026C3	衣環境学実験Ⅲ (物理)	佐藤 克成	工学部	後期 金曜日 5・ 6時限、後期 金 曜日 7・8時限	実験	3回生以上	4時間	2単位	被服材料の物理的性質の測定および評価に関する基礎実験を行う。また、被服材料の快適性を評価する各種手法について実践する。
3231027C3	衣環境学実験Ⅳ (化学)	大背戸 豊	工学部	前期 月曜日 5・ 6時限 D 3 1 6、前期 月曜日 7・8時限 D 3 1 6	実験	3回生以上	4時間	2単位	衣服を構成する繊維の様々な性質や機能は、繊維と化学物質との分子間相互作用や繊維の材料としての成り立ちを知ることで初めて理解できる。本講義では繊維が関連する化学実験を通じて、脂肪酸や界面活性剤（洗剤）の分子間相互作用の観察、繊維の作製、染料分子の合成、および繊維の染色に関する実験を通じて、繊維材料に対する理解を深めるための化学的基礎をつくる。本講義の受講により、衣服を構成する繊維材料が関連する物理化学、高分子化学、有機化学をもとにした実験や実験レポート提出を通じて、衣服の性質や機能について理解を深めることができる。
3231028A3	生活感性工学	吉田 哲也	工学部	後期集中 その他 その他	講義	3回生以上(平成 29年度以前入学 者)	2時間	2単位	統計的分析手法の基礎として、対象を定量化して表現し、定量化して表現したデータを分析する手法を学ぶ、また、分析手法の応用例を紹介する。
3231029A2	生活と多変量解析	吉田 哲也	工学部	後期集中 その他 その他	講義	2回生以上(平成 30年度以降入学 者)	2時間	2単位	統計的分析手法の基礎として、対象を定量化して表現し、定量化して表現したデータを分析する手法を学ぶ、また、分析手法の応用例を紹介する。
3231030A3	デザイン情報論	佐藤 克成	工学部	前期 水曜日 3・ 4時限 E 2 1 8 - 2	講義	3回生以上	2時間	2単位	衣服やウェアラブル機器の設計においては、五感情報処理など人の知覚・認知特性に基づきデザインすることが重要となる。まず、デザインを行う際に基礎となる人の特性や技術について知る。次に、コンピュータを用いたデザインのプロセスについて実践的に学ぶ。さらに、最新のデザイン事例を学び、関連する基礎知識を身につける。
3231031D3	ウェアラブル情報デ ザイン実習	才脇 直樹	工学部	後期 木曜日 7・ 8時限、後期 木 曜日 9・10時 限	実習	3回生以上	4時間	2単位	この授業は、2回生後期に実施されるアパレルデザイン実習から接続している。同実習では基本的なCGプログラミングとそれを応用したデザイン制作に取り組んだ。本実習ではCGプログラミングに加えて、温度、加速度などウェアラブルな情報処理で対象とされることが多い人間情報の計測を行うマイコンプログラミングの基礎を学習する。それらを組み合わせることで、例えば人間の動きに応じてCGが変化するようなインタラクティブな作品をデザイン・制作し、最後にプレゼンテーションを行って理解を深める。
3231033A3	繊維材料化学	黒子 弘道	工学部	前期集中 その他 その他 その他	講義	3回生以上(令和 2年度以前入学 者)	集中30時間	2単位	高分子化学の観点から繊維材料を解説する。繊維の構成分子である合成高分子、ならびに天然高分子の合成・反応・性質について講述する。
3231035B3	衣環境学演習Ⅰ	全教員	生活環境学部	後期集中 その他 その他	演習	3回生以上	集中30時間	2単位	衣環境学・アパレル科学・情報学およびそれに関連する領域における最近の研究について、文献や資料を講読し、その内容について少人数の演習形式により討議する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時間・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3231036B4	衣環境学演習Ⅱ	全教員	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	演習	4回生以上(情報衣環境学科)	集中30時間	2単位	衣環境学・アパレル科学・情報学およびそれに関連する領域における最近の研究について、文献や資料を講読し、その内容について少人数の演習形式により討議する。
3231037F4	卒業研究Ⅰ	全教員	生活環境学部	前期 その他 その他 その他 その他	複合	4回生以上(情報衣環境学科)		6単位	各教員の指導の下、論文輪読や実験などを通して学術的研究を行い、卒業研究として成果をまとめる。
3231038F4	卒業研究Ⅱ	全教員	生活環境学部	後期 その他 その他 他	複合	4回生以上(情報衣環境学科)		6単位	卒業研究Ⅰに引き続き、各教員の指導の下、論文輪読や実験などを通して学術的研究を行い、卒業研究として成果をまとめる。
3232001A1	プログラミング言語1	鴨 浩靖	生活環境学部	前期 月曜日 1・2時限 情報科学講義室 (G302)	講義	1回生以上	2時間	2単位	プログラミング言語の入門を行う半期の講義である。主としてプログラミング言語Cによるプログラミングの初歩を学ぶ。この講義の目的は特定のプログラミング言語でのプログラミングを学ぶことで、プログラミングの基礎を習得すを習得することにある。受講生は講義と並行する「プログラミング言語演習」で講義内容を実習することができる。
3232002B1	プログラミング言語演習	鴨 浩靖	生活環境学部	前期 木曜日 1・2時限 計算機実習室 (G401) .前期 木曜日 3・4時限 計算機実習室 (G401)	演習	1回生以上	4時間	2単位	プログラミングを行う半期の演習である。「プログラミング言語1」で学ぶC言語を実際にプログラミングすることで、プログラミングに関する知識・技能を深める。
3232003B2	プログラミング言語2	高田 雅美	生活環境学部	前期 水曜日 1・2時限 計算機実習室 (G401) .前期 水曜日 3・4時限 計算機実習室 (G401)	演習	2回生以上	4時間	2単位	ソフトウェアを作成するための理論や技術は多くあるが、実世界の現象を比較的簡単にモデル化でき、かつソフトウェアとして自然に記述することのできる方法としてオブジェクト指向と呼ばれる方法がある。現在ではこの考え方を利用して多くのソフトウェアが作成されている。このオブジェクト指向によるプログラミングについて講義を行う。
3232004A1	離散数学	鴨 浩靖	生活環境学部	後期 火曜日 5・6時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	数学および情報学の基礎となる集合・計算・論理の基本的な概念を学び、数学的論理を自由に扱えるようになる。
3232005B1	情報処理技術1	石川 由羽	生活環境学部	前期 金曜日 7・8時限 情報科学実験実習室 (G301) .前期 金曜日 9・10時限 情報科学実験実習室 (G301)	演習	1回生以上	4時間	2単位	情報処理の基礎知識を修得する。 1,2時限は情報処理の基礎知識を身に付けるため、基本情報技術者試験の午前問題をもとにした講義と演習問題を解きながら授業を進める。
3232006B1	情報処理技術2	石川 由羽	生活環境学部	後期 火曜日 7・8時限 .後期 火曜日 9・10時限	演習	1回生以上	4時間	2単位	授業は演習を中心に情報処理の基礎を学ぶ。 情報処理の基礎知識を修得するため、基本情報技術者試験の午後問題を解きながら学ぶ。
3232007A1	データベース論	高田 雅美	生活環境学部	後期 金曜日 3・4時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	データベース、データモデルとデータの独立性について説明し、データベースシステムを構築するために必要な基礎的な代数演算、データの正規化、関数従属性について講義する。講義された内容の理解度を確認するために、例題を解く。
3232008B1	データベース演習	高田 雅美	生活環境学部	後期 金曜日 5・6時限 .後期 金曜日 7・8時限	演習	1回生以上	4時間	2単位	データベースとは何かについて理解した上で、データベース論で講義した内容をふまえ、実際にデータベースを設計し、データベース及びデータベースアプリケーションを実装する。
3232009A1	アルゴリズムとデータ構造	鴨 浩靖	生活環境学部	後期 月曜日 3・4時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	アルゴリズムとは与えられた問題を解くための計算手続きである。この講義では、代表的ないくつかのアルゴリズムを紹介し、受講生が自力で、アルゴリズムを実現するプログラムを作成できる能力を養うことを目的とする。
3232010A2	論理回路論	新出 尚之	生活環境学部	前期 木曜日 7・8時限 情報科学講義室 (G302)	講義	2回生以上	2時間	2単位	今日の計算機の基礎となっている、ブール代数や、各種論理ゲートを用いた基本的論理回路の構築および動作原理に関する講義を行う。
3232011A2	計算機アーキテクチャ論	松本 尚	生活環境学部	後期 月曜日 9・10時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	本講義では情報系学部生として必要最低限の計算機アーキテクチャに関する技術を習得する。具体的には、ストアードプログラム方式の計算機の動作原理、設計時のトレードオフ事項、各種機構の仕組み、計算機アーキテクチャ上に導入された概念（割込み、インデックスレジスタ、ディレイドスロット、キャッシュ、RISC、命令パイプライン）を習得する。学習に具体性を持たせるため、内部動作を視認できるCPUシミュレータを使った機械語命令によるプログラミング課題を適宜課することで、知識の定着を図る。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時間・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3232012A2	情報理論	城 和貴	生活環境学部	前期 月曜日 5・6時限 情報科学講義室 (G302)	講義	2回生以上	2時間	2単位	情報の基礎である情報理論の基礎を講義する。情報量の概念、情報源・情報源符号化・通信路符号化のモデルを詳細に解説する。さらに巡回符号を含む誤り訂正手法について実例をベースに解説する。
3232013A2	計算機ネットワーク	松本 尚	生活環境学部	後期 木曜日 5・6時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	インターネットに代表される計算機ネットワークの設計思想、構成、通信に用いられているプロトコルや個々の要素技術について講義で述べ、今や生活・社会基盤として不可欠となったネットワーク通信に対する理解を深める。単なる知識だけではなく、運用・利用時に発生する問題解決の具体的な手法についても折々触れる予定である。また、ネットワーク利用が広く普及し、大規模化することにより起こってきた様々な問題を解決するための技術についても紹介する。
3232014C2	計算機実験 1	城 和貴,高田雅美,鴨 浩靖,新出 尚之,松本 尚	生活環境学部	前期 火曜日 5・6時限 情報科学実験実習室 (G301) .前期 火曜日 7・8時限 情報科学実験実習室 (G301)	実験	2回生以上	4時間	2単位	Linuxを使用して、ソフトウェア開発の基本となるC言語の処理系や開発ツールmake、システムコール、シェルプログラミング、スクリプト言語などについて学ぶ。
3232015C2	計算機実験 2	城 和貴,松本 尚,高田 雅美,鴨 浩靖,新出 尚之	生活環境学部	後期 水曜日 1・2時限,後期 水曜日 3・4時限	実験	2回生以上	4時間	2単位	Linux ならびにWindows に関するハードウェア、システムソフトウェアならびにアプリケーションに関する開発を行なう。
3232016A2	ソフトウェア工学概論	城 和貴	生活環境学部	前期 木曜日 9・10時限 情報科学講義室 (G302)	講義	2回生以上	2時間	2単位	ソフトウェア工学で一般的に論じられるソフトウェアプロセス、要求工学、モデル化技法、オブジェクト指向モデル、形式手法、設計技法、検証技術、保守、ツール、プロジェクト管理に関する概論を行う。
3232017A2	ヒューマンインターフェイス概論	吉田 直人	非常勤講師	後期集中 その他 その他	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	本科目では、講義と実習を通じてヒューマンインタフェースの基礎を理解し、ユーザや状況に応じたインタフェースデザインを考えるための知識や実践的経験を得ることを目指すものである。まずヒューマンインターフェイスの基礎的知識を身につけ、人間の感覚・知覚・記憶や運動機能の特徴とその拡張概念を持ち、システムデザインの方法論と実際を学んだ後、ユビキタス/ウェアラブルコンピューティングやロボットインタラクションデザインについて学ぶ。講義で扱った知識を活かし、今後の真のニーズを考察する実習を授業内で実施する。
3232018A2	情報社会学	岡田 朋之	非常勤講師	前期集中 その他 その他 其他	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	本講義では現代の情報社会の一側面を明らかにするべく、もっとも身近なメディアとしてのスマートフォン等のモバイルメディアを取り上げ、それらをめぐる社会現象や言説を文化的・社会的側面から分析する。授業の中では少人数のグループを編成し、ワークショップの形式を通じて将来のメディア生活を構想してもらい、そのグループとしての成果とそれをもとに個人で作成されたレポートを評価の対象とする。
3232019A3	プロジェクト管理とシステム監査	駒谷 昇一	工学部	前期 木曜日 5・6時限 情報科学講義室 (G302)	講義	3回生以上	2時間	2単位	本授業では、情報システムのプロジェクトマネジメントおよび情報システム監査の基礎知識と実施方法について学ぶ。情報システムの失敗要因の多くはプロジェクトマネジメントにあるが、本授業では、プロジェクトマネジメントの基本知識体系(PMBOK)をもとに、実践的な問題解決手法を学ぶ。システム監査については、システム監査の観点とそのプロセスについて学ぶ。
3232020A3	言語処理系論	新出 尚之	生活環境学部	前期 月曜日 3・4時限 情報科学講義室 (G302)	講義	3回生以上	2時間	2単位	プログラミング言語の処理系に関する知識の中には、言語処理系を研究対象とする人に限らず、コンピュータと関わる人一般にとって有用なものが多く含まれ、その意味で重要である。本授業は、プログラミング言語の処理系の構築に関する基礎的な講義を行う。字句解析、構文解析、コード生成などの各処理段階で用いられる基礎的技術や概念、およびそれらに関するツール、単純な言語処理系の構築例などに関する解説を行う。
3232021A3	オペレーティングシステム論	松本 尚	生活環境学部	前期 月曜日 7・8時限 G203	講義	3回生以上	2時間	2単位	本講義では、計算機がどのように稼働しているかを理解させるために、システム・ソフトウェアの基礎であるオペレーティングシステムについて学習する。
3232022A3	パターン認識	城 和貴	生活環境学部	前期 月曜日 9・10時限 E218-2	講義	3回生以上	2時間	2単位	本講義は2回生対象の人工知能の続きとなる。神経回路網モデルの歴史から最新のディープラーニングまでを学習する。
3232023A3	マルチメディア情報工学	城 和貴	生活環境学部	後期 火曜日 7・8時限	講義	3回生以上	2時間	2単位	本講義では、現在のIT 社会においてもはや必須の技術であるマルチメディアに関する諸技術について講義する。特に最近急速に注目を集めているソーシャルコンピューティングについて詳細に解説する。
3232024A3	数理論理学	新出 尚之	生活環境学部	後期 木曜日 7・8時限	講義	3回生以上	2時間	2単位	記号論理学は、思考や推論といった人間の知的活動の根幹に関する学問分野といえる。それは、数学にとつての基礎づけとなるにとどまらず、情報科学とも深い関わりを持ち、特に、ロボットや自律エージェントなど、知的振る舞いを実現しようとする分野にとって重要な役割を果たすものである。この授業では、そのような観点に触れつつ、命題論理および一階述語論理を中心とした記号論理学の基礎について講義する。
3232025A2	人工知能	城 和貴	生活環境学部	後期 月曜日 5・6時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	半世紀前から発展してきた人工知能技術は今や日常生活のいたるところにあふれこの傾向は今後更に加速するものと予想される。本講義では広範囲にわたる人工知能分野を網羅的に概説する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3232026A3	シミュレーション科学	新出 尚之	生活環境学部	後期 月曜日 9・10時限	講義	3回生以上	2時間	2単位	近年、電子計算機の応用はますます拡大の一途をたどっている。計算機シミュレーションもその1つであり、計算機の性能の急速な増大によって、現実の実験が不可能あるいは困難であった分野に対し、計算機上で仮想的に事象を作り出して模擬実験することで新たな知見を生み出すことが可能となってきた。本授業では計算機シミュレーションに関する解説を行う。
3232027A3	グラフ理論	大輪 拓也	理学部	後期集中 その他 その他	講義	3回生以上	2時間	2単位	計算機科学において、考える対象を抽象的に集合として扱い、さらにその集合のようその間の関係(例えばお互いに近くにあるかどうかなど)を抽象化して得られる構造を考えると便利な場合がある。このようにして得られる概念が「グラフ」であり、グラフ理論ではこの構造の様々な性質を調べていく。
3232028A3	数理モデリング	城 和貴	生活環境学部	後期集中 その他 その他	講義	3回生以上	集中30時間	2単位	情報分野で問題解決を行う際、数理モデル化を完成すれば全体の9割が終わったとされる。本講義では様々な数理モデル化の論文を読み、その応用について理解する。
3232029A3	数値解析	鴨 浩靖	生活環境学部	前期 金曜日 5・6時限 情報科学実験実習室 (G301)	講義	3回生以上	2時間	2単位	代表的ないくつかの数値計算法を紹介し、受講生が自力で、数値計算プログラムを作成できる能力を養うことを目的とする。
3232035B2	プログラミング特別演習V	城 和貴,高田雅美,鴨 浩靖,新出 尚之,松本 尚	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	演習	2回生以上	集中30時間	2単位	プログラミング言語の入門を行う半期の講義である。主としてプログラミング言語Cによるプログラミングの初歩を学ぶ。この講義の目的は特定のプログラミング言語でのプログラミングを学ぶことで、プログラミングの基礎を習得すを習得することにある。受講生は講義と並行する「プログラミング言語演習」で講義内容を実習することができる。
3232036B2	プログラミング特別演習VI	城 和貴,高田雅美,鴨 浩靖,新出 尚之,松本 尚	生活環境学部	後期集中 その他 その他	演習	2回生以上	集中30時間	2単位	アルゴリズムとは与えられた問題を解くための計算手続きである。この講義では、代表的ないくつかのアルゴリズムを紹介し、受講生が自力で、アルゴリズムを実現するプログラムを作成できる能力を養うことを目的とする。
3232037A3	情報処理技術特別講義II	城 和貴,新出 尚之,松本 尚,高田 雅美,駒谷 昇一,鴨 浩靖	生活環境学部	後期集中 その他 その他	講義	3回生以上	集中30時間	2単位	3年前期までに履修した内容を復習するための講義を行う。
3232042F4	卒業研究II	情報通信学コース 共通	生活環境学部	後期 その他 その他	複合	3回生以上(情報衣環境学科)		5単位	生活情報通信科学コースの各研究室において、指導教員のもとで卒業研究をすすめる。学生はそれぞれの指導教員の研究テーマにしたがって関連研究を調査し、既存技術を確認することを通して、研究の進め方を学ぶ。また、知識を共有するために、ゼミにおいて発表を行う。
3232043F4	卒業研究III	情報通信学コース 共通	生活環境学部	前期 その他 その他	複合	4回生以上(情報衣環境学科)		5単位	生活情報通信科学コースの各研究室において、指導教員のもとで卒業研究をすすめる。学生はそれぞれの指導教員の研究テーマにしたがって関連研究を調査し、既存技術を確認することを通して、研究の進め方を学ぶ。また、知識を共有するために、ゼミにおいて発表を行う。
3232044F4	卒業研究IV	情報通信学コース 共通	生活環境学部	後期 その他 その他	複合	4回生以上(情報衣環境学科)		5単位	生活情報通信科学コースの各研究室において、指導教員のもとで卒業研究をすすめる。学生はそれぞれの指導教員の研究テーマにしたがって関連研究を調査し、既存技術を確認することを通して、研究の進め方を学ぶ。また、知識を共有するために、ゼミにおいて発表を行う。
3260001A1	文化情報学概論	城 和貴,高田雅美,鴨 浩靖,新出 尚之,松本 尚,林田 敏子,山崎 明子,鈴木 則子,安藤 香織,澤田 佳世,大塚 浩,青木 美紗,未定	生活環境学部	前期 月曜日 3・4時限 D012	講義	1回生以上	2時間	2単位	【文化情報学科の学生の必修科目です。】 私たちが生きる社会は、生活そのものの情報化を進めながら、多くの社会的課題を解決することが求められています。文化情報学科では、人文社会科学と情報科学という二つの学問領域をつなぎ、未来の社会を思考する方法を学びます。授業ではSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) が掲げる17の目標のうち、1「貧困をなくそう」、3「すべての人に健康と福祉を」、5「ジェンダー平等を実現しよう」、12「つくる責任、使う責任」の4つをテーマに、学科全教員が自身の専門分野と関連させながら授業を展開します。文化情報学科での学びに必要な基礎的事項の理解を目指します。
3260004A2	ジェンダー文化論	林田 敏子	生活環境学部	前期 金曜日 5・6時限 N101	講義	2回生以上	2時間	2単位	「母親は愛情をもって子どもを育てるもの」、「男は戦争になれば国や家族を守るために戦うもの」。こうした考えは自然なことでも当たり前なことでもなく、歴史上つくりあげられてきた一つの価値観に過ぎない。本講義では男らしさ(男はこうあらねばならない) / 女らしさ(女はこうあらねばならない) というジェンダー規範が歴史上いかに構築されてきたのかを、身体、家族、戦争という三つの切り口から考える。
3260005A2	ジェンダー理論	林田 敏子	生活環境学部	後期 金曜日 5・6時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	ジェンダー論を学ぶ上で必要な諸理論を、歴史学および社会学の成果を踏まえて体系的に整理する。第二次世界大戦後から現代にいたるまでの代表的なフェミニズム思想およびジェンダー理論を幅広く取り上げ、その概要を示すとともに、複数の論点を提示する。授業では、セクシュアリティをテーマに据えることで性二元論からの脱却を目指しつつ、ジェンダーとセクシュアリティをめぐる複数の論争に着目しながら、近代以降の「性の解放」によって生じた新たな問題について考察する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時間・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3260006A2	ソーシャルサーチ論	依藤 佳世	非常勤講師	前期 水曜日 7・8時限 A棟情報処理教育室	講義	2回生以上	2時間	2単位	社会調査の意義、実施プロセス、分析について簡単な課題・実習を交えて講じていく。まず、各自の問題意識を調査の問いへと変えていくための手続き、適切な調査方法の選択について学ぶ。次に、まず質問紙調査（量的調査）のプロセスを学ぶ。その後、質問紙調査と対比させながら、質的調査のうち、面接法の特徴と諸方法について学ぶ。 なお、グループに分かれての作業時には出席を重視する。また、授業時間外の作業もグループメンバー同士での協力を求める。
3260007A2	消費者法	大塚 浩	生活環境学部	前期 木曜日 5・6時限 D012	講義	2回生以上	2時間	2単位	現代日本の消費者法制に関して十分な知識と理解を得ることを目的とする。日本の法システムに関して基本的な知識を得ることから始め、消費者契約、製品・サービスの安全規制、独占禁止法等市場秩序の維持のための諸制度を順次検討する。さらに、消費者紛争の解決手段としての訴訟や裁判外紛争処理（ADR）の役割に関して検討を加え、消費者庁や消費生活センター、食品安全委員会など行政システムも含めた消費者問題への対処の仕組みの現状と課題について理解する。 上記のテーマを容易に理解できるよう最近のケースを中心に具体的事例を通じて学ぶ。法は縁遠いものだと感じるかもしれないが、最近の食品偽装、悪質商法などの報道をみても、実際にはこの分野の法は私たちの生活に密接にかかわっている。そのことを実感できるように、可能であれば関連機関への外部見学の実施や、ビデオ教材の利用を計画している。
3260008A2	家族関係論	澤田 佳世	生活環境学部	前期 水曜日 3・4時限 N101	講義	2回生以上	2時間	2単位	本講義の主要テーマは家族と社会である。少子高齢化やグローバル化がすすむ現代社会で、家族の形態や機能、家族関係、家族をめぐる制度や家族をとりまく社会はどのように変化しているのか。本講義では、家族社会学の基本的な概念と理論、分析枠組みを学び、家族の変動と現状、家族と社会をめぐるさまざまな研究テーマについて実証的・理論的に検討する。国内外の統計・調査データや各種資料に基づいて、家族現象の背景にある歴史・構造的要因に関する認識を深め、多様化する家族とその現代的課題および新たな可能性を、ジェンダー・社会階層・エスニシティといった観点から考察することも目指す。 授業中は、アクティブ・ラーニングの手法をとりいれ、グループ・ディスカッションや演習課題などを通じて理解を深める。本授業の内容に関連し、応用・補完可能な専門的知識を得るため、映像視聴やゲスト講師を招くこともある。
3260009A2	食と農の経済学	青木 美紗	生活環境学部	前期 月曜日 7・8時限 N101	講義	2回生以上	2時間	2単位	本講義では、生活に不可欠な「食」をとりまく様々な現状について経済学の観点から考えます。特に、食の生産、流通、消費に焦点を当て、国内外の事例を取り上げながら食と農について知識を習得するとともに、身近な「食」から視野を広げ、考えを深めていきます。
3260010A2	人間関係文化論	安藤 香織	生活環境学部	後期 火曜日 5・6時限	複合	2回生以上	2時間	2単位	どんな人に魅力を感じるかなど身近な人間関係や、心を伝えるコミュニケーション、身内びいきの仕組み、文化によって異なる人間関係など、身のまわりの問題を社会心理学的アプローチにより学ぶ。「新版暮らしの中の社会心理学」のテキストに沿って授業を行う。授業では異文化交流ゲームなどの教育ゲームやグループ・ディスカッションを用い、学生が積極的に参加する。 注：教科書購入必要
3260011A1	生活と情報倫理	駒谷 昇一	工学部	前期 金曜日 3・4時限 情報科学講義室（G302）	講義	1回生以上	2時間	2単位	生活のなかで、インターネットによる売買やコミュニティによる情報交換などが普及しており、インターネットや情報システムの社会インフラは、私たちの生活に不可欠となっている。しかし一方で、個人情報漏えいやデジタルデバイド(情報による経済的格差)の拡大やサイバー犯罪の増加など私たちは情報社会特有の新たな脅威にもさらされている。例えば、監視カメラの設置は犯罪の抑止効果があるが、プライバシーの侵害ともなりえる。情報社会の生活において発生している犯罪事例を紹介しながら、被害者や加害者とならないためにどうしたら良いか、情報社会での生活において求められる情報倫理を学び、情報社会の発展にともなう格差拡大と弱者の救済などの情報社会の問題、光と影にどう対応したらよいかを学ぶ。
3260012A1	生活文化と人工知能	城 和貴	生活環境学部	前期 火曜日 9・10時限 E261	講義	1回生以上	2時間	2単位	2022年度版AI白書の利用動向を題材として扱い、生活文化との関連を調べ、議論し、まとめる。特にジェンダーやSDGsとの関連を詳しく掘り下げる。
3260013A1	応用数学Ⅰ（微分積分学）	高田 雅美	生活環境学部	前期 月曜日 7・8時限 E102	講義	1回生以上	2時間	2単位	数列と極限を理解し、一次近似としての微分の意味を理解する。また、和としての積分の意味や原始関数を理解する。
3260014A1	応用数学Ⅱ（線形代数）	高田 雅美	生活環境学部	後期 月曜日 7・8時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	線形写像としての行列の意味を理解し、平面と空間の幾何におけるベクトルと行列の意味を理解する。また、ベクトルと行列の演算を理解し、連立一次方程式の解法などにおける役割を理解するとともに、行列式の意味を理解する。
3260015A1	生活と統計学	池田 孝利	生活環境学部	後期 水曜日 9・10時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	統計は私たちの生活の様々なところで使われている。統計は、過去を振り返り、今を知り、未来を見通すための指標として、さまざまな意思決定にも幅広く利用され、社会の発展を支える基礎となっている。統計リテラシーを高め、統計解析ができるようになることを目標とし、統計および確率の基本知識、代表的な確率分布、仮説検定、推定、回帰分析について講義する。
3260016A2	情報社会学	岡田 朋之	非常勤講師	前期集中 その他 その他 その他	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	本講義では現代の情報社会の一側面を明らかにするべく、もともと身近なメディアとしてのスマートフォン等のモバイルメディアを取り上げ、それらをめぐる社会現象や言説を文化的・社会的側面から分析する。授業の中では少人数のグループを編成し、ワークショップの形式を通じて将来のメディア生活を構想してもらい、そのグループとしての成果とそれをもとに個人で作成されたレポートを評価の対象とする。
3260017A2	情報と職業	駒谷 昇一	工学部	前期 月曜日 9・10時限 G203	講義	2回生以上	2時間	2単位	情報技術（IT）の急速な発展と利用の拡大によって、過去のビジネスモデルやパラダイムが崩壊し、様々な社会やビジネスの変革を引き起こしている。企業においても情報の活用が企業の存続にかかわるほどに重要性が高まっている。本講義では社会インフラや企業におけるIT 活用事例を紹介しながら、情報化やネットワーク化がビジネス社会にどのような影響を与え、どのような変革をもたらしているかを学び、さらに、情報化社会における企業人としてのあり方についても学習する。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3260018B2	文化情報学演習	城 和貴, 鴨 浩靖, 新出 尚之, 松本 尚, 林田 敏子, 山崎 明子, 鈴木 則子, 安藤 香織, 澤田 佳世, 大塚 浩, 青木 美紗, 未定	生活環境学部	後期 木曜日 9・10時限	演習	2回生以上	2時間	2単位	文化情報学概論で学んだ社会的課題への取り組みを発展させ、人文社会科学と情報通信科学からのアプローチを取り入れつつ、PBL（特に調査、ディカッション、分析を中心とする）を通して課題解決への道を検討します。文化情報学概論では、文化情報学の多様な方法論と課題を学びましたが、本演習では受講者の主体的な学びを重視します。特に、社会的課題解決のための文理融合的方法の実践の場と位置づけています。
3161001A1	食物科学概論	菊崎 泰枝, 前田 純夫, 中田 理恵子, 高村 仁知, 井上 裕康, 小倉 裕範	生活環境学部	前期 月曜日 1・2時限 S 2 3 5 大講義室	講義	1回生以上	2時間	2単位	食物に含まれる栄養成分、嗜好成分、その他の機能性成分について解説するとともに、消化吸収や加工・調理に関する問題について講述する。また、微生物の利用、安全性、流通、法規制、表示等の問題についても概説する。
3261002D1	調理学実習 (E)	和田 珠子	非常勤講師	前期 水曜日 3・4時限 D 2 1 8	実習	1回生以上	3時間	1単位	調理過程における食品の物理的・化学的変化について解説し、実習を通して様々な調理操作の科学的根拠を理解させる。また、中学・高等学校家庭科教員として必要な実践的知識と基本的調理技術を育成する。
3261003D1	応用調理学実習 (E)	和田 珠子	非常勤講師	後期 木曜日 7・8時限, 後期 木曜日 9時限	実習	1回生以上	3時間	1単位	食文化に関する様々な場面に対応できるよう各国料理の特色を学ぶ。行事食などの製作を通して、献立からテーブルコーディネートに至る過程において必要な要素を理解し、調理技術を身につける。
3261004A1	衣環境学概論	原田 雅史, 安川 涼子	生活環境学部	後期 金曜日 3・4時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	健康で快適な衣環境を創出するために必要な基本的内容を講述する。被服素材として用いられている繊維、糸、布、衣服への一連の流れ、衣服の色彩、染色について解説する。また、衣類の機能性保持の留意点、衣類の家庭での洗濯、ドライクリーニング、リサイクル技術や被服管理全般について解説する。
3261042D1	被服学実習 I (A)	中村 順子	非常勤講師	前期 木曜日 1・2時限 D 3 1 9	実習	1回生以上/食物栄養学科・文化情報学科	2時間	1単位	健康で快適な衣生活を過ごすために必要な能力を養い、衣生活への理解を深める。また、教職に必要な基礎的な被服学実験・実習の方法を学ぶ。材料学分野では繊維・糸・布の種類と性能、ならびにそれらが衣服の機能性に与える要因について理解する。管理学分野では衣服の性能保持・向上のための手入れについて学ぶ。染色学分野では代表的な技法を利用し、染色方法について学ぶ。衛生学分野では衣服素材の吸水吸湿性と快適性について知る。意匠学分野では色に関する理論を理解する。
3261043D1	被服学実習 II (A)	稲岡 まみ	非常勤講師	後期 火曜日 5・6時限	実習	1回生以上/食物栄養学科・文化情報学科	2時間	1単位	被服構成の観点から、人が装うことの意味と衣服の機能、およびその衣服はどのように作られ流通するかに言及し、衣服製作実習を通して、この過程のデザイン・設計、製作から着装までの基礎的理論と方法について理解する。特に、人と衣服との関係、着衣基体としての人体形態、体型と衣服デザインの関係、デザインを表現するための素材、デザインからパターンメイキング、縫製へ、そして着装時の衣服の適合性・ゆとり、機能性、審美性について講義する。これによって消費者の立場から、それぞれの人に応じて、生理的にも心理的にも快適で美しい衣服とはどのようなものかを見極める基礎的知識と能力を習得させる。
3261005D1	被服学実習 I (C)	稲岡 まみ	非常勤講師	前期 金曜日 3・4時限 D 3 1 9	実習	1回生以上/住環境学科・心身健康学科	2時間	1単位	被服構成の観点から、人が装うことの意味と衣服の機能、およびその衣服はどのように作られ流通するかに言及し、衣服製作実習を通して、この過程のデザイン・設計、製作から着装までの基礎的理論と方法について理解させる。特に、人と衣服との関係、着衣基体としての人体形態、体型と衣服デザインの関係、デザインを表現するための素材、デザインからパターンメイキング、縫製へ、そして着装時の衣服の適合性・ゆとり、機能性、審美性について講義する。これによって消費者の立場から、それぞれの人に応じて、生理的にも心理的にも快適で美しい衣服とはどのようなものかを見極める基礎的知識と能力を習得させる。
3261006D1	被服学実習 II (C)	中村 順子	非常勤講師	後期 水曜日 7・8時限	実習	1回生以上/住環境学科・心身健康学科	2時間	1単位	健康で快適な衣生活を過ごすために必要な能力を養い、衣生活への理解を深める。また、教職に必要な基礎的な被服学実験・実習の方法を学ぶ。材料学分野では繊維・糸・布の種類と性能、ならびにそれらが衣服の機能性に与える要因について理解する。管理学分野では衣服の性能保持・向上のための手入れ・収納について学ぶ。染色学分野では代表的な技法を利用し、染色方法について学ぶ。衛生学分野では衣服素材の吸水吸湿性と快適性について知る。意匠学分野では色に関する理論を理解する。
3261007A1	家族援助法	巽 真理子	非常勤講師	前期 火曜日 1・2時限 E 2 6 1	講義	1回生以上	2時間	2単位	本講義では、少子高齢社会における家族と家族援助のゆくえを社会学的視点から考察します。現代社会では、少子高齢化や家族のあり方の変化、社会の変容、価値観の多様化の中で、家族をめぐる多様な支援ニーズと社会的課題が生じているといわれます。このような家族の変化と諸課題を、歴史的・国際的に比較しながら、社会変動と関連づけて理解し、社会における家族支援のあり方について考えます。
3261008A1	経済政策	伊東 眞一	非常勤講師	前期 木曜日 3・4時限 G 2 0 2	講義	1回生以上	2時間	2単位	経済については、分かっていそうで分からないことだらけではないでしょうか？例えば、今の景気は良いのか悪いのか？金利の引き上げや引下げてそんなに重要なこと？財政赤字は悪いと言われるのになんで政府は赤字を出し続けているの？などなど・・・この講義では世の中の経済の動きと日本の経済政策の有り様について、経済理論や戦後の経済史を見つめたりしながら、話を進めていきます。
3261009A1	生活文化学入門	全教員	生活環境学部	後期 木曜日 1・2時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	この授業では、これからの大学生活に必要な、自学自習、ディスカッション、プレゼンテーションの方法について学ぶ。4年間の大学生活に必要な学習方法を身に付けることを目標とする。また、生活文化学コース各教員の専門を理解し、今後の専門を考える上での参考とする。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時間・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3261010B1	生活文化学の方法	野田 隆	生活環境学部	後期 水曜日 5・6時限	演習	1回生以上	2時間	2単位	科学的説明とは何をする事なのか、最も基礎的な観察帰納というやり方を中心に前半で講義形式で説明したのち、この授業は演習なので、参加者に実際に観察結果から帰納的に結論を導き出してもらう作業をやってもらう。なお、対面授業が可能な場合は観察をグループワークとしてやってもらう。シラバスは対面授業バージョンである。オンライン授業の場合は初回に改めてスケジュールを知らせるが、説明モデルの構成を中心に、演習問題をやってもらう予定である。
3261011A1	食生活文化論	坂本 裕子	非常勤講師	前期 金曜日 7・8時限 E 2 6 1	講義	1回生以上	2時間	2単位	日本の近代における食の形成について述べ、食生活の現状を健康の観点から、食卓等のあり方を教育の観点から考察する。そして日本の食文化を構成する食材や料理、調理器具など、また和食の成り立ちについて、それらの変遷や様相を概説する。行事食や儀礼食、郷土料理や保存食などの伝統食について、年間行事や人の一生、地域との関連から論じ、健康な食の伝承について考察していく。
3261013A1	消費経済分析論	川相 典雄	非常勤講師	後期 水曜日 7・8時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	日常生活を取り巻く経済環境は日々変化しており、ニュースや新聞等でも景気、失業率、株価や為替レート、物価や金利の動向など、様々な経済変数の動きが取り上げられている。経済の動きは日常生活と密接に結びついており、私たちの生活に多かれ少なかれ何らかの影響を及ぼす。ここでは、消費だけではなく日常生活と深く関わる様々な経済現象についての理解を深めるため、これらの現象が私たちの日常生活にどのように関係するのかなど、幅広い視野から具体例を取り上げて解説する。
3261014A2	社会システム論	野田 隆	生活環境学部	前期 水曜日 5・6時限 E 2 1 8 - 1	講義	2回生以上	2時間	2単位	社会システムならびに生活システムという考え方の基本を学ぶとともに、ビジネスでも用いられているTOCの考え方を学ぶ。対面を予定しているが、受講登録者が教室の対面定員を超える場合はオンライン授業に変更する。オンラインの場合は、システム・シンキングの発表会をやめ、評価基準欄の「受講者のプレゼン」に代えて、期末テストを用意する。
3261015A2	服飾とジェンダー	山崎 明子	生活環境学部	前期 火曜日 7・8時限 E 1 0 9	講義	2回生以上	2時間	2単位	私たちは衣服を着て生活をしています。何かを着るということは、単に機能的な意味だけではなく、社会の中で生きるための自己のアイデンティティ（ジェンダー、エスニシティ、クラス）を示しています。また、衣服を作る文化もこれらのアイデンティティに強く規定されています。この授業では、私たちの身近な服飾文化をジェンダーの視点から考えます。
3261016A2	視覚文化論	山崎 明子	生活環境学部	前期 木曜日 3・4時限 E 2 6 1	講義	2回生以上	2時間	2単位	視覚文化研究は、美術や写真、広告、マンガ、さらにはファッションや玩具などまで含む広い文化を対象としている。それぞれの表象に与えられた文化的意味を理解することは、雑多な視覚文化に囲まれて生きている私たちにとって、大きな課題である。この講義では、私たちの日常を構成する様々な視覚文化と主体的に向き合うための知識と理論について学び、表象分析の基礎的な能力を習得する。
3261017A2	医療社会文化史	鈴木 則子	生活環境学部	前期 木曜日 7・8時限 D 0 1 2	講義	2回生以上	2時間	2単位	江戸時代の感染症をはじめとする病を巡る生活史を講義する。江戸時代の代表的な感染症や介護、病の後遺症としての身体障害について取り上げながら、江戸時代に於ける病との共生について考える。
3261018A2	社会統計学	祐野 恵	非常勤講師	前期 月曜日 5・6時限 D 1 2 0	講義	2回生以上	2時間	2単位	本講義では、統計学の基礎的な考え方とフリーソフト（gretl）を用いた分析について解説します。統計学は科学的な推論の有効な手段であり、ビッグデータが活用される現代社会において不可欠な知識となっています。学問の分野を問わず、必要となる統計学の基礎的内容を理解できるように、その理論と身の回りの現象を例に解説します。また、実際に社会課題を分析する際に有用となるフリーソフトを用いた演習を行います。
3261019A2	生活経営学	尾島 恭子	非常勤講師	前期集中 その他 その他 その他	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	本講義では、生活経営学の概念や国内外の家政学の動向を理解し、それらの視点から、「生活」「生活の営み」「生活の主体者」「生活の質」とは何かや生活経営をめぐる課題について考察する。家庭科教員免許取得希望者は、家庭科教育に求められている本質的な役割について考えるための視点を学ぶ。
3261020A2	経済原論Ⅰ（ミクロ経済学）	安橋 正人	生活環境学部	前期 金曜日 1・2時限 E 1 0 8	講義	2回生以上	2時間	2単位	本授業では、経済学の初學者向けにミクロ経済学の基礎を講義します。具体的には、グラフと言葉によるロジック（簡単な数学を含む）を最大限活用してミクロ経済学の本質的な理解に迫り、需要と供給、市場均衡、資源配分といった概念を学習します。本授業を通じて、ミクロ経済学が日常生活や社会を理解する上でどのように適用できるかを具体的に学び、現実の経済・社会課題にアプローチするための思考ツールを習得します。
3261021A2	経済原論Ⅱ（マクロ経済学）	安橋 正人	生活環境学部	後期 金曜日 1・2時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	本授業では、経済学の初學者向けにマクロ経済学の基礎を講義します。具体的には、グラフと言葉によるロジック（簡単な数学を含む）を最大限活用してマクロ経済学の本質的な理解に迫り、マクロ経済学の理論や概念（国内総生産、貨幣、インフレーション等）を学習します。本講義を通じて、ニュース等で報道されるマクロ経済的な事象をマクロ経済学の理論で理解する方法を具体的に学び、現実の経済・社会課題にアプローチするための思考ツールを習得します。
3261022A2	女性生活史	鈴木 則子	生活環境学部	後期 木曜日 3・4時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	日本女性史について、「江戸時代の女性と医療・身体」をテーマに講義する。受講生は「女性と医療・身体」が現代社会の中でどのように議論されているかを各自、新聞や雑誌、書籍などを通じて予習・復習した上で授業に臨むこと。
3261023A2	人口と家族の社会学	澤田 佳世	生活環境学部	後期 水曜日 1・2時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	本講義の主要テーマは、人口と社会である。社会現象としての人口変動（出生・死亡・移動）とそのメカニズムを理解するために必要な人口学・人口研究の考え方、基礎的な概念や理論を学ぶ。人口に関する様々なトピックをとりあげ、人口と社会との関係を多角的に検討し、人口変動の背景にある歴史・構造的要因に関する認識を深めることも目指す。 授業中は、アクティブ・ラーニングの手法をとりいれ、グループ・ディスカッションや演習課題などを通じて理解を深める。本授業の内容に関連し、応用・補完可能な専門的知識を得るため、映像視聴やゲスト講師を招くこともある。
3261024A2	生活経済学	青木 美紗	生活環境学部	後期 水曜日 3・4時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	私たちは日々、物を購入したり、サービスを利用したりして生活を営んでいます。本講義では、物やサービスを提供する営利・非営利組織や公共団体の役割について経済学的視点から学びながら知識を習得し、生活者として物やサービスを利用する視野を広げます。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3261025A2	ライフスタイルと法	大塚 浩	生活環境学部	後期 木曜日 7・8時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	ライフステージと法とのかかわりについて理解するため、ライフステージの各段階で私たちの生活と密接にかかわるさまざまな法分野を取り上げる。具体的には結婚・離婚・出生・親子・相続・社会保障（年金、介護、生活扶助など）・環境・労働などに関わる法制度がどのようになっているのか、また現状の問題点は何かについて、具体的事例を参照しながら検討する。学習を通じて現代の多様化するライフスタイルに法はどのようにかかわっているのかを理解したい。 さらに、一般に私たちの生活に縁遠いと考えられていた刑事裁判が、刑事司法改革の一環としての裁判員制度の導入により、一転関心を集めるようになったことを踏まえ、刑事司法手続きの概要についても学ぶ。 また、法の実際の働きについてより深く理解するため、ビデオ教材の利用や外部見学の実施も可能な範囲で適宜計画する予定である。
3261026A2	Multicultural Society	テウ・イト・スパン・スヅキ	非常勤講師	後期 火曜日 3・4時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	This humanities based course will focus on multiculturalism and society. A comparative analysis of several legal case studies will be used to examine cultural diversity and our differing attitudes on a variety of important issues. Students will explore the ideas of culture and multiculturalism through an analysis of Japanese and American society, and in particular, a number of subcultures that contribute to the fabric and identity of each nation.
3261027B2	消費者法演習	大塚 浩	生活環境学部	後期 木曜日 5・6時限	演習	2回生以上	2時間	2単位	「消費者法」および「ライフスタイルと法」で学ぶ、消費者法、家族法、労働法、刑事法、環境法、社会保障法など、現代の社会において特に重要な意味を持つ法分野に関連して示される社会的課題に取り組むことで、法と社会のかかわりをより深く理解する。PBL、模擬裁判、模擬調停、消費者教育の模擬授業などを実施する。 裁判所の見学等も適宜スケジュール上可能な範囲で企画する予定である。
3261044B2	企業経済論演習	安橋 正人	生活環境学部	後期 木曜日 7・8時限	演習	2回生以上	2時間	2単位	この演習では、統計学や計量分析の厳密な議論にはあまり立ち入らずに、経済・社会全般の事象をデータに基づいて分析する手法を学習する。データセットの入手・構築、記述統計表やグラフの作成、コンピューターによる統計分析、分析アウトプットのプレゼンテーションという一連のデータ分析の手法を体得することを目的とする。演習中は、講師とインタラクションしながらコンピューター（Excel、R）を使用し、まずは「習うより慣れる」の発想でデータ分析に親しんでいく。
3261028B2	視覚文化論演習	山崎 明子	生活環境学部	後期 木曜日 3・4時限	演習	2回生以上	2時間	2単位	視覚表象は社会の中で生成され、社会の中で消費される。一枚に視覚表象が生まれた社会的背景の中でとらえなおしていくことは、視覚表象の分析の基本的な手法となる。この演習では、生活の中で親しんだ視覚文化をより深く読解するために、具体的な表象分析を行い、一枚の図像をめぐる社会的・文化的背景を検討する。
3262001A1	プログラミング言語 I	鴨 浩靖	生活環境学部	前期 月曜日 1・2時限 情報科学講義室（G302）	講義	1回生以上	2時間	2単位	プログラミング言語の入門を行う半期の講義である。主としてプログラミング言語Cによるプログラミングの初歩を学ぶ。この講義の目的は特定のプログラミング言語でのプログラミングを学ぶことで、プログラミングの基礎を習得すを習得することにある。受講生は講義と並行する「プログラミング言語演習」で講義内容を実習することができる。
3262002B1	プログラミング言語演習	鴨 浩靖	生活環境学部	前期 木曜日 1・2時限 計算機実習室（G401）. 前期 木曜日 3・4時限 計算機実習室（G401）	演習	1回生以上	4時間	2単位	プログラミングを行う半期の演習である。「プログラミング言語1」で学ぶC言語を実際にプログラミングすることで、プログラミングに関する知識・技能を深める。
3262003B2	プログラミング言語 II	高田 雅美	生活環境学部	前期 水曜日 1・2時限 計算機実習室（G401）. 前期 水曜日 3・4時限 計算機実習室（G401）	演習	2回生以上	4時間	2単位	ソフトウェアを作成するための理論や技術は多くあるが、実世界の現象を比較的簡単にモデル化でき、かつソフトウェアとして自然に記述することができる方法としてオブジェクト指向と呼ばれる方法がある。現在ではこの考え方を利用して多くのソフトウェアが作成されている。このオブジェクト指向によるプログラミングについて講義を行う。
3262004A1	離散数学	鴨 浩靖	生活環境学部	後期 火曜日 5・6時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	数学および情報学の基礎となる集合・計算・論理の基本的な概念を学び、数学的論理を自由に扱えるようになる。
3262005B1	情報処理技術 I	石川 由羽	非常勤講師	前期 金曜日 7・8時限 情報科学実験実習室（G301）. 前期 金曜日 9・10時限 情報科学実験実習室（G301）	演習	1回生以上	4時間	2単位	情報処理の基礎知識を修得する。 1,2時限は情報処理の基礎知識を身に付けるため、基本情報技術者試験の午前問題をもとにした講義と演習問題を解きながら授業を進める。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3262006B1	情報処理技術Ⅱ	石川 由羽	非常勤講師	後期 火曜日 7・8時限, 後期 火曜日 9・10時限	演習	1回生以上	4時間	2単位	授業は演習を中心に情報処理の基礎を学ぶ。情報処理の基礎知識を修得するため、基本情報技術者試験の午後問題を解きながら学ぶ。
3262007A1	データベース論	高田 雅美	生活環境学部	後期 金曜日 3・4時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	データベース、データモデルとデータの独立性について説明し、データベースシステムを構築するために必要な基礎的な代数演算、データの正規化、関数従属性について講義する。講義された内容の理解度を確認するために、例題を解く。
3262008B1	データベース演習	高田 雅美	生活環境学部	後期 金曜日 5・6時限, 後期 金曜日 7・8時限	演習	1回生以上	4時間	2単位	データベースとは何かについて理解した上で、データベース論で講義した内容をふまえ、実際にデータベースを設計し、データベース及びデータベースアプリケーションを実装する。
3262009A1	アルゴリズムとデータ構造	鴨 浩靖	生活環境学部	後期 月曜日 3・4時限	講義	1回生以上	2時間	2単位	アルゴリズムとは与えられた問題を解くための計算手続きである。この講義では、代表的ないくつかのアルゴリズムを紹介し、受講生が自力で、アルゴリズムを実現するプログラムを作成できる能力を養うことを目的とする。
3262010A2	論理回路論	新出 尚之	生活環境学部	前期 木曜日 7・8時限 情報科学講義室 (G302)	講義	2回生以上	2時間	2単位	今日の計算機の基礎となっている、ブール代数や、各種論理ゲートを用いた基本的論理回路の構築および動作原理に関する講義を行う。
3262011A2	計算機アーキテクチャ論	松本 尚	生活環境学部	後期 月曜日 9・10時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	本講義では情報系学部生として必要最低限の計算機アーキテクチャに関する技術を習得する。具体的には、ストアードプログラム方式の計算機の動作原理、設計時のトレードオフ事項、各種機構の仕組み、計算機アーキテクチャ上に導入された概念（割込み、インデックスレジスタ、デイレイドスロット、キャッシュ、RISC、命令パイプライン）を習得する。学習に具体性を持たせるため、内部動作を視認できるCPUシミュレータを使った機械語命令によるプログラミング課題を適宜課することで、知識の定着を図る。
3262012A2	生活と情報理論	城 和貴	生活環境学部	前期 月曜日 5・6時限 情報科学講義室 (G302)	講義	2回生以上	2時間	2単位	情報の基礎である情報理論の基礎を講義する。情報量の概念、情報源・情報源符号化・通信路符号化のモデルを詳細に解説する。さらに巡回符号を含む誤り訂正手法について実例をベースに解説する。
3262013A2	計算機ネットワーク	松本 尚	生活環境学部	後期 木曜日 5・6時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	インターネットに代表される計算機ネットワークの設計思想、構成、通信に用いられているプロトコルや個々の要素技術について講義で述べ、今や生活・社会基盤として不可欠となったネットワーク通信に対する理解を深める。単なる知識だけではなく、運用・利用時に発生する問題解決の具体的な手法についても折々触れる予定である。また、ネットワーク利用が広く普及し、大規模化することにより起こってきた様々な問題を解決するための技術についても紹介する。
3262014C2	計算機実験Ⅰ	城 和貴, 高田 雅美, 鴨 浩靖, 新出 尚之, 松本 尚	生活環境学部	前期 火曜日 5・6時限 情報科学実験実習室 (G301), 前期 火曜日 7・8時限 情報科学実験実習室 (G301)	実験	2回生以上	4時間	2単位	Linuxを使用して、ソフトウェア開発の基本となるC言語の処理系や開発ツールmake、システムコール、シェルプログラミング、スクリプト言語などについて学ぶ。
3262015C2	計算機実験Ⅱ	新出 尚之, 城 和貴, 松本 尚, 高田 雅美, 鴨 浩靖	生活環境学部	後期 水曜日 1・2時限, 後期 水曜日 3・4時限	実験	2回生以上	4時間	2単位	Linux ならびにWindows に関するハードウェア、システムソフトウェアならびにアプリケーションに関する開発を行なう。
3262016A2	ソフトウェア工学概論	城 和貴	非常勤講師	前期 木曜日 9・10時限 情報科学講義室 (G302)	講義	2回生以上	2時間	2単位	ソフトウェア工学で一般的に論じられるソフトウェアプロセス、要求工学、モデル化技法、オブジェクト指向モデル、形式手法、設計技法、検証技術、保守、ツール、プロジェクト管理に関する概論を行う。
3262017A2	ヒューマンインターフェイス概論	吉田 直人	非常勤講師	後期集中 その他 その他	講義	2回生以上	集中30時間	2単位	本科目では、講義と実習を通じてヒューマンインタフェースの基礎を理解し、ユーザや状況に応じたインタフェースデザインを考えるための知識や実践的経験を得ることを目指すものである。まずヒューマンインタフェースの基礎的知識を身につけ、人間の感覚・知覚・記憶や運動機能の特徴とその拡張概念を持ち、システムデザインの方法論と実際を学んだ後、ユビキタス/ウェアラブルコンピューティングやロボットインタラクションデザインについて学ぶ。講義で扱った知識を活かし、今後の真のニーズを考察する実習を授業内で実施する。
3232023A2	生活と人工知能	城 和貴	生活環境学部	後期 月曜日 5・6時限	講義	2回生以上	2時間	2単位	半世紀前から発展してきた人工知能技術は今や日常生活のいたるところにあふれこの傾向は今後更に加速するものと予想される。本講義では広範囲にわたる人工知能分野を網羅的に概説する。
3262029B1	プログラミング特別演習Ⅴ	城 和貴, 高田 雅美, 鴨 浩靖, 新出 尚之, 松本 尚	生活環境学部	前期集中 その他 その他 その他	演習	1回生以上	集中30時間	2単位	プログラミング言語の入門を行う半期の講義である。主としてプログラミング言語Cによるプログラミングの初歩を学ぶ。この講義の目的は特定のプログラミング言語でのプログラミングを学ぶことで、プログラミングの基礎を習得すを習得することにある。受講生は講義と並行する「プログラミング言語演習」で講義内容を実習することができる。

科目ナンバリングコード	開設科目名	担当教員	教員所属	開講期・曜日・時 限・教室	授業方法	対象学生	週時間	単位数	授業概要
3262030B1	プログラミング特別 演習VI	城 和貴,高田 雅美,鴨 浩靖,新 出 尚之,松本 尚	生活環境学部	後期集中 その他 その他	演習	1回生以上	集中30時間	2単位	アルゴリズムとは与えられた問題を解くための計算手続きである。この講義では、代表的ないくつかのアルゴリズムを紹介し、受講生が自力で、アルゴリズムを実現するプログラムを作成できる能力を養うことを目的とする。